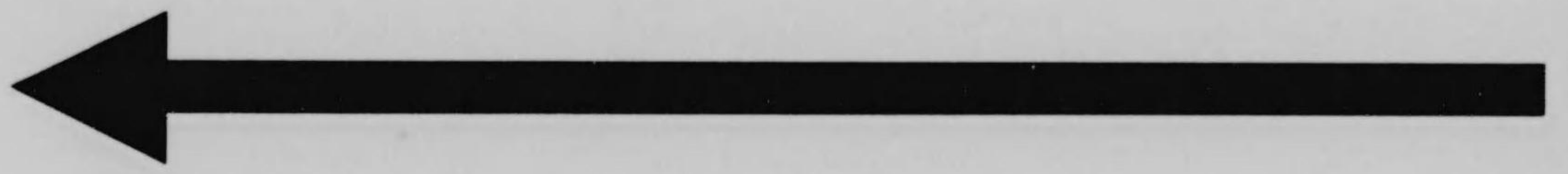


380
39



始





380-39



名古屋水道誌

8.12.25
内交

長 市



長市前
助之彭本阪



長市前
朗山青故



長市現
郎三孝藤佐



長市前
郎三重藤加

市 會 議 長



前市會議長
故服部小十郎



前市會議長
上遠野宮之助



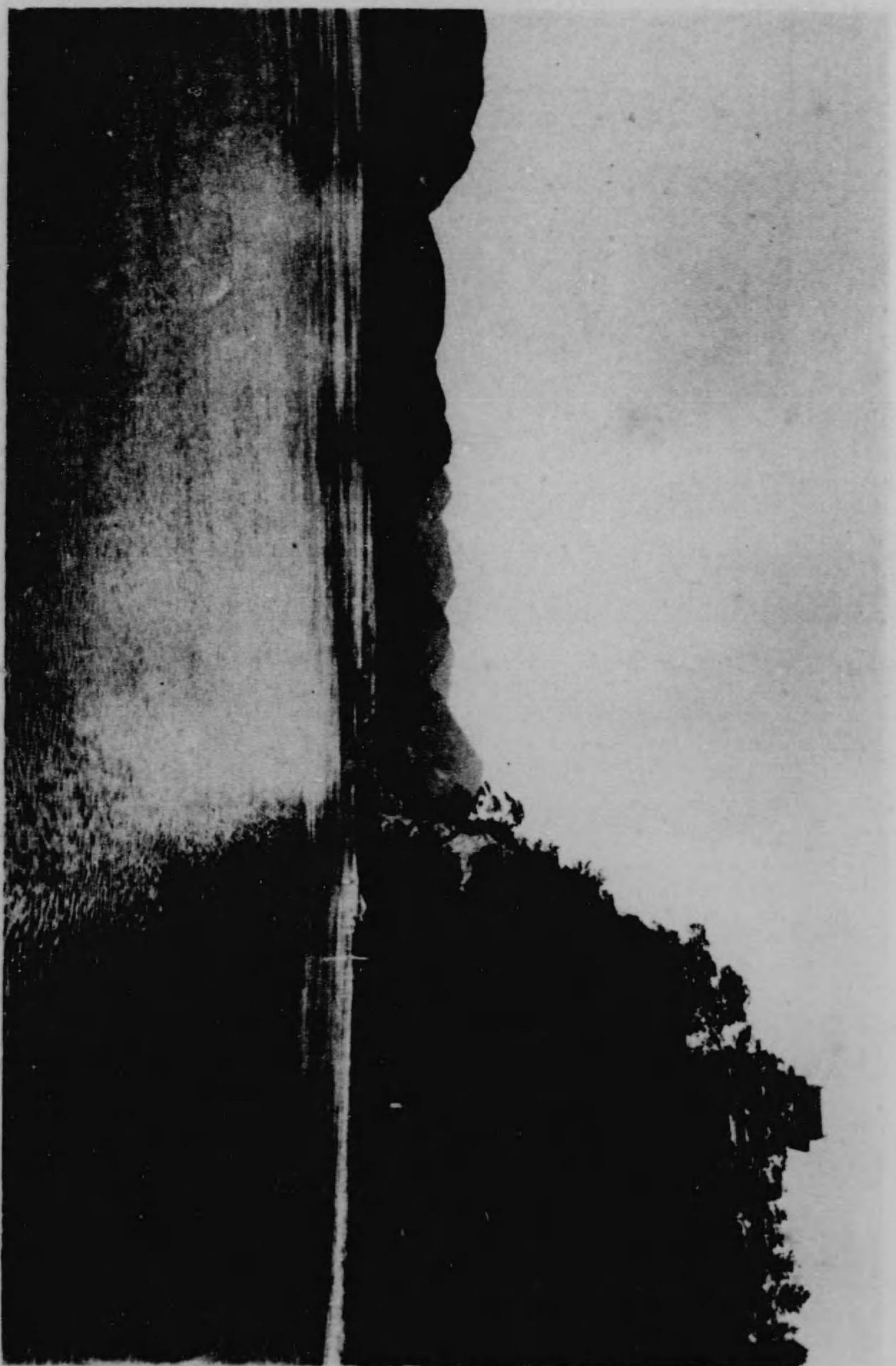
前市會議長
井上茂兵衛



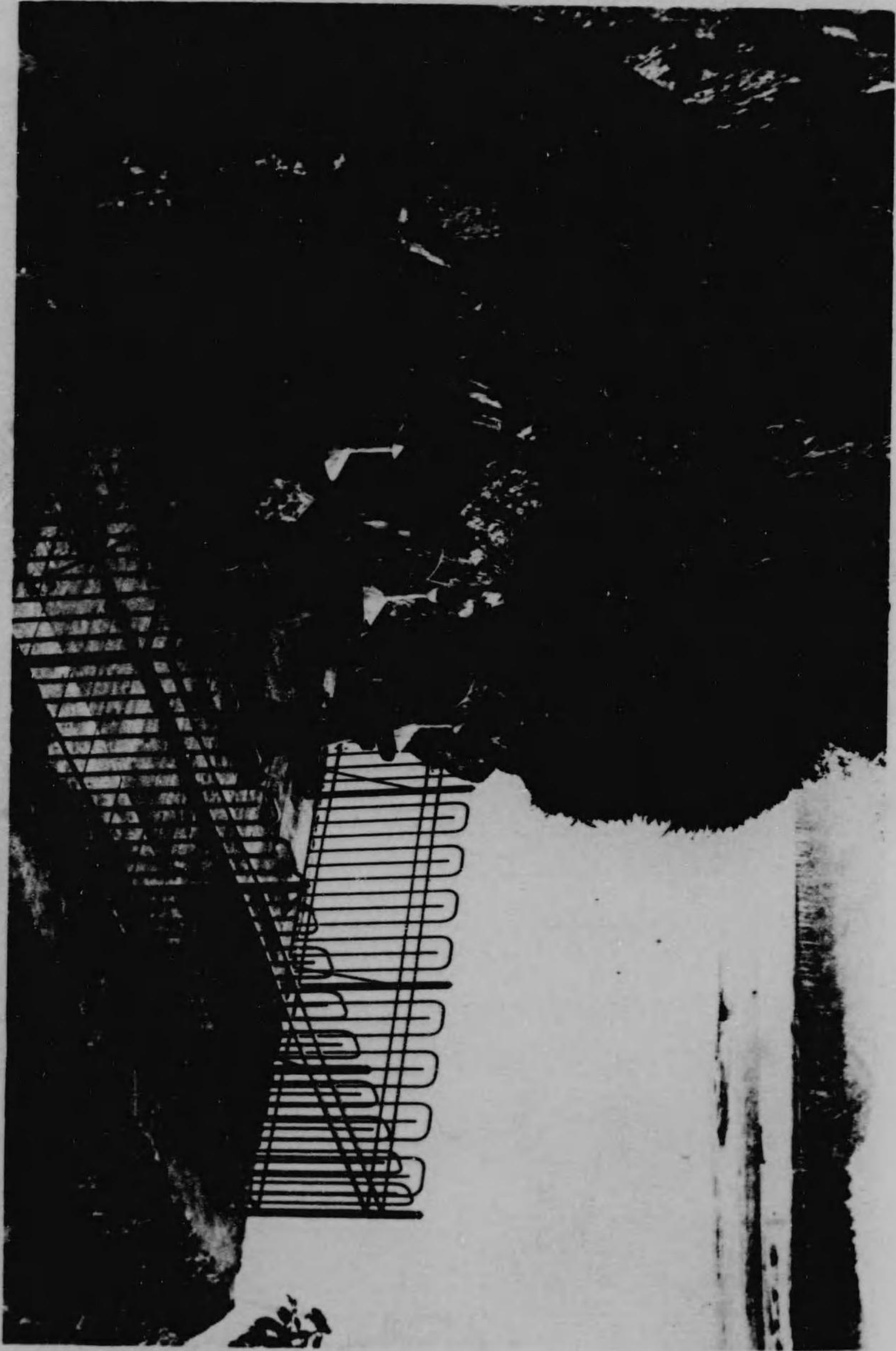
現市會議長
大喜多實之助



前市會議長
大岩勇夫



景ノ川會木近附口入取

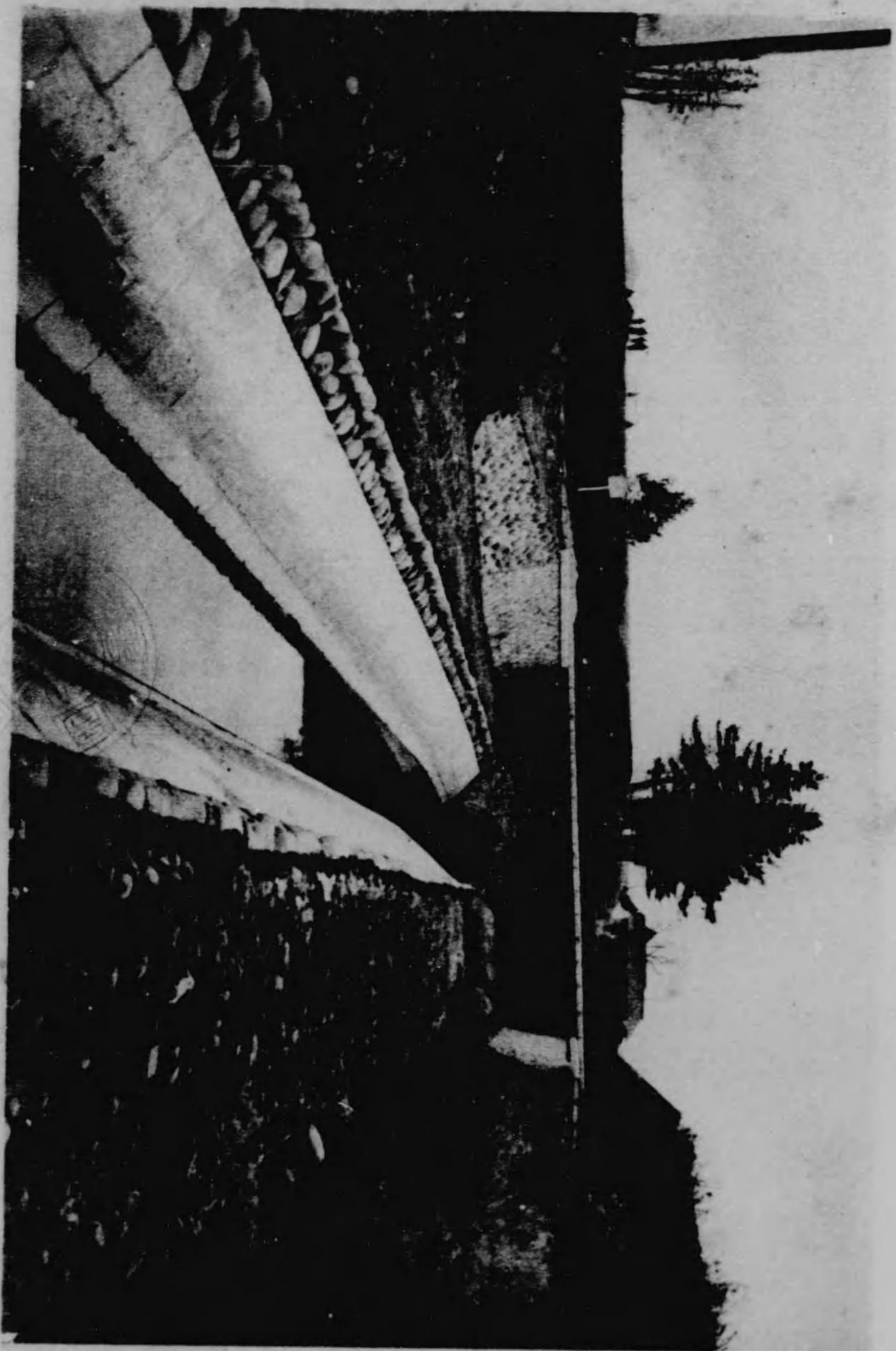


口

入

取





導水暗渠開築接續個所



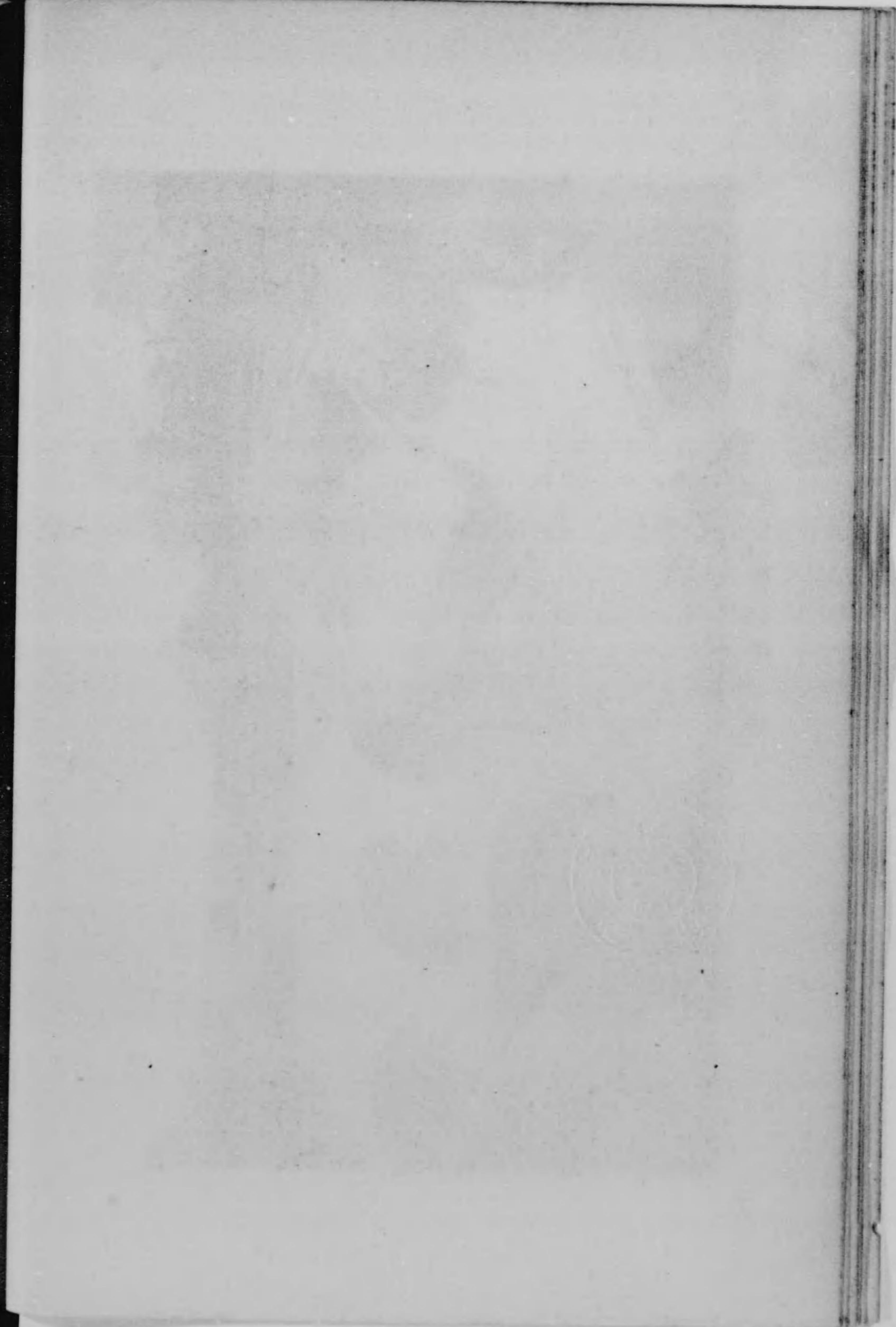


導 水 閘 渠 砂 溜

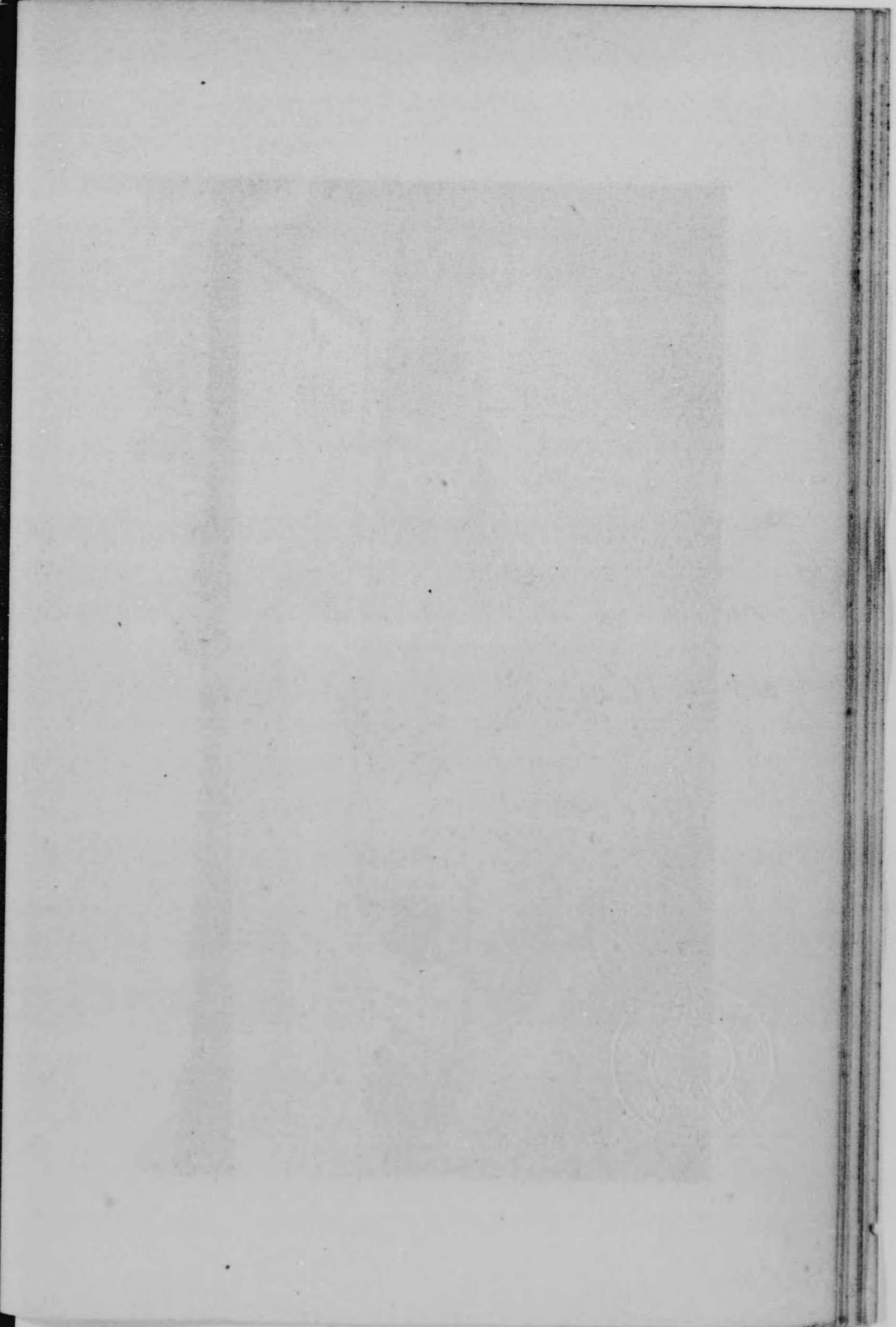
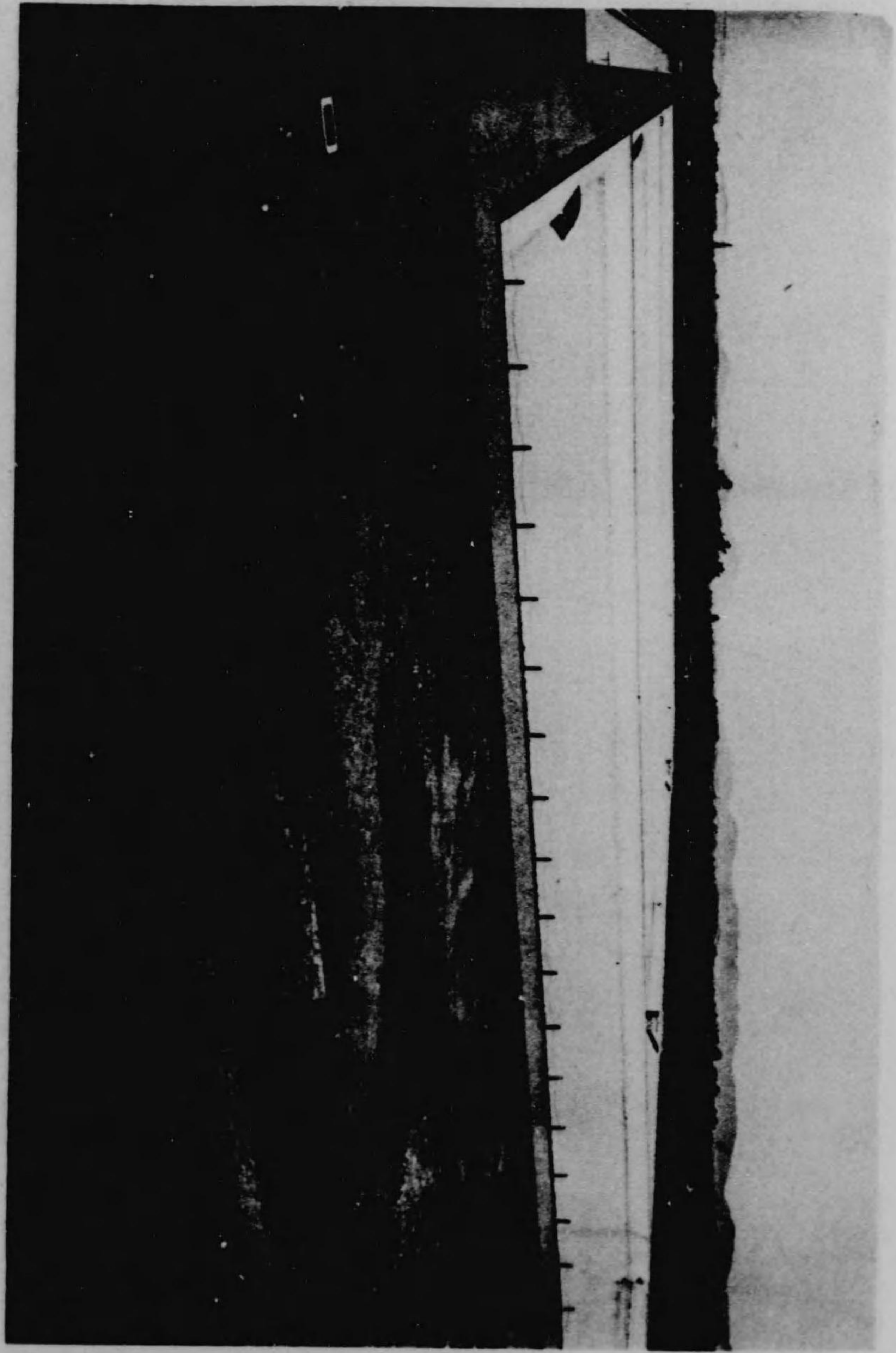


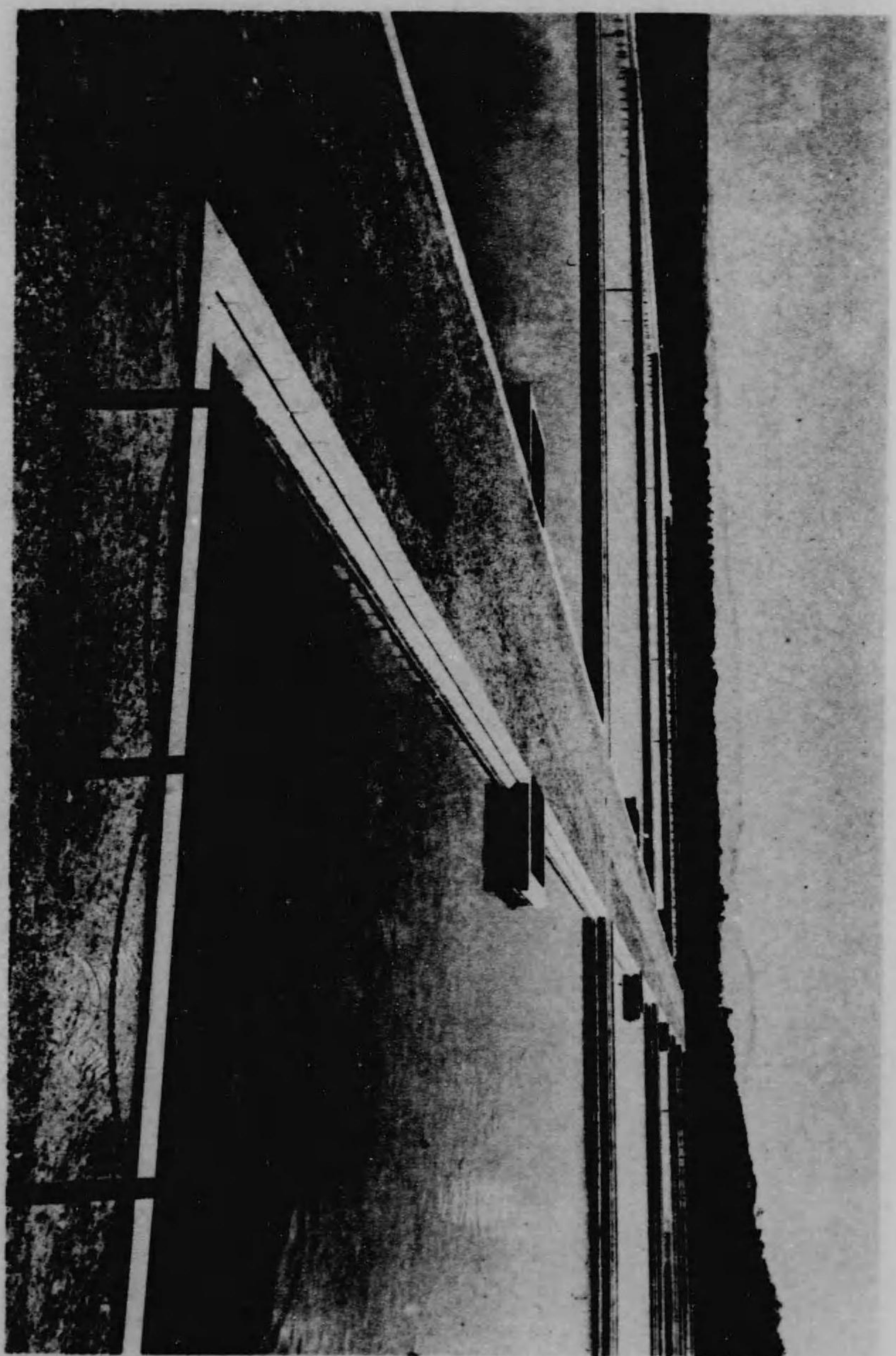


橋道水及吐水節

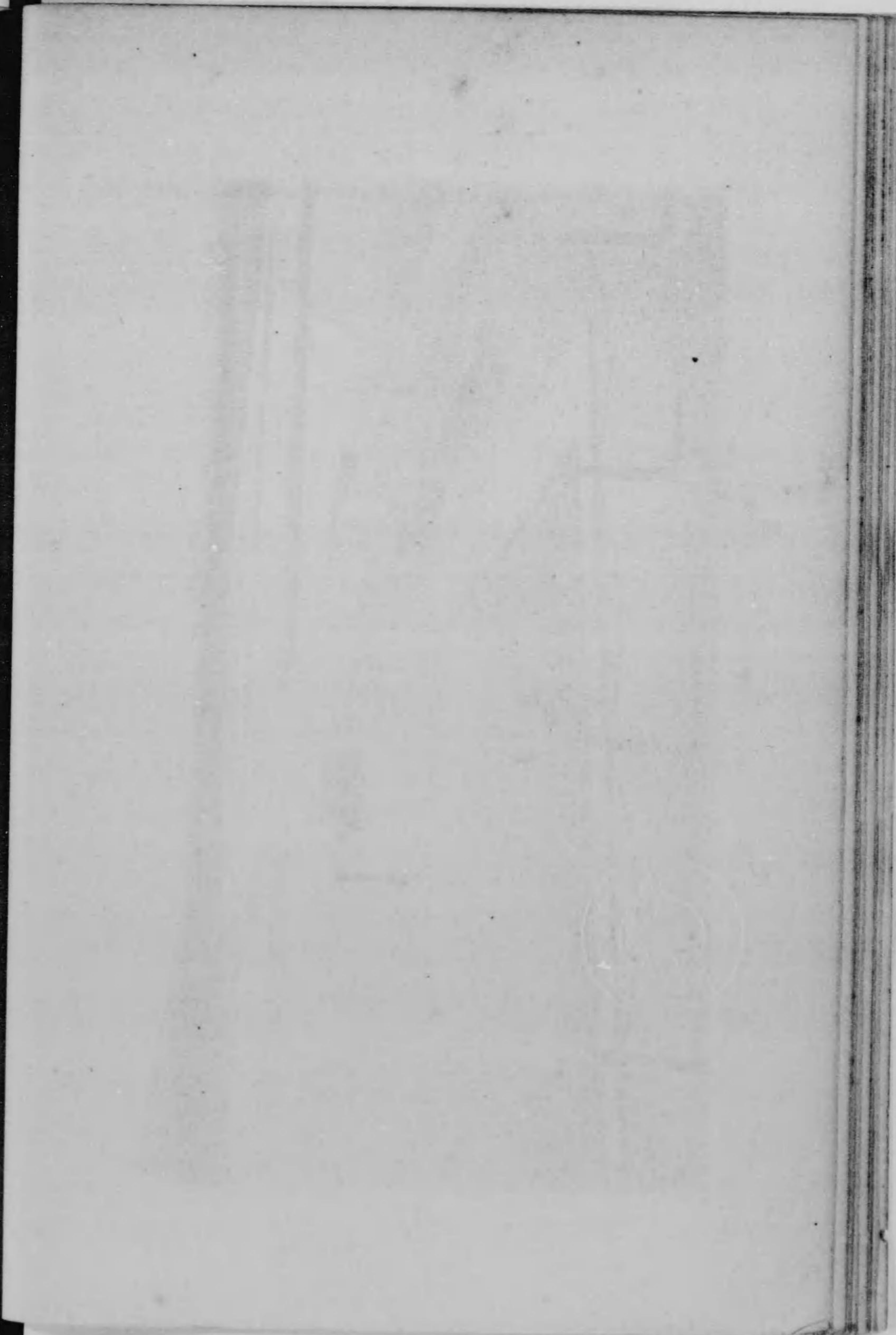


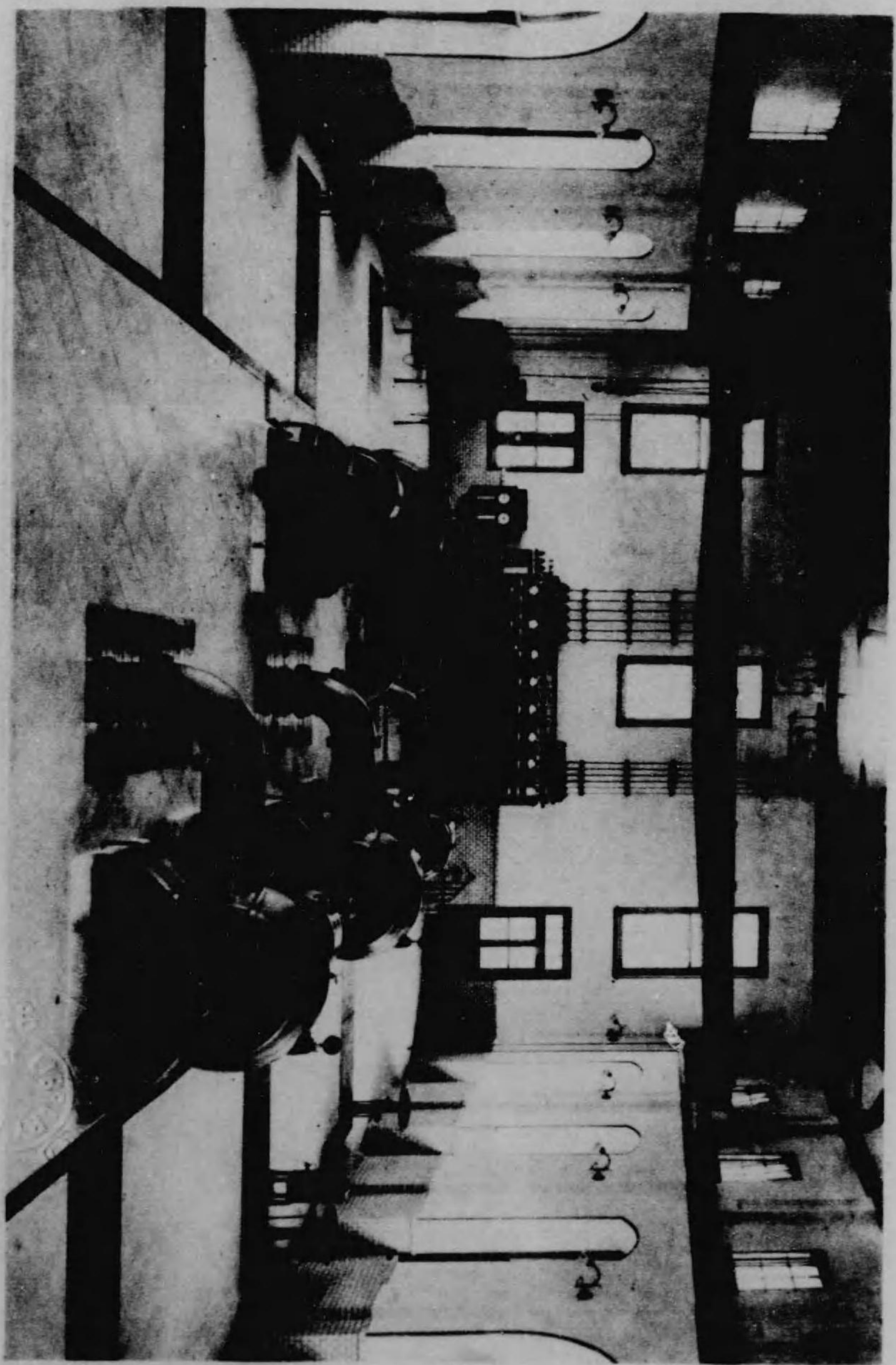
池 邊 沈





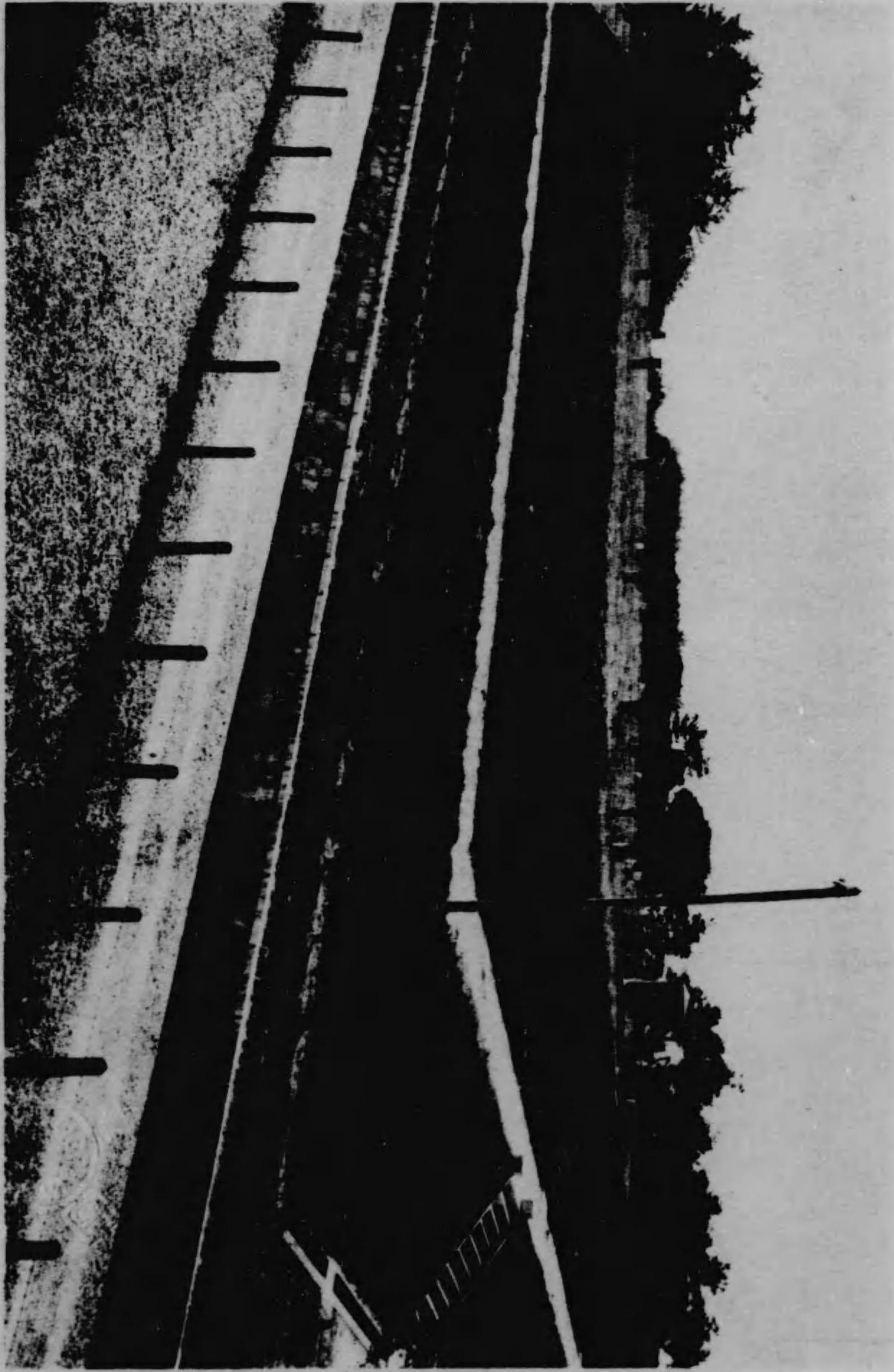
池 邊 渡



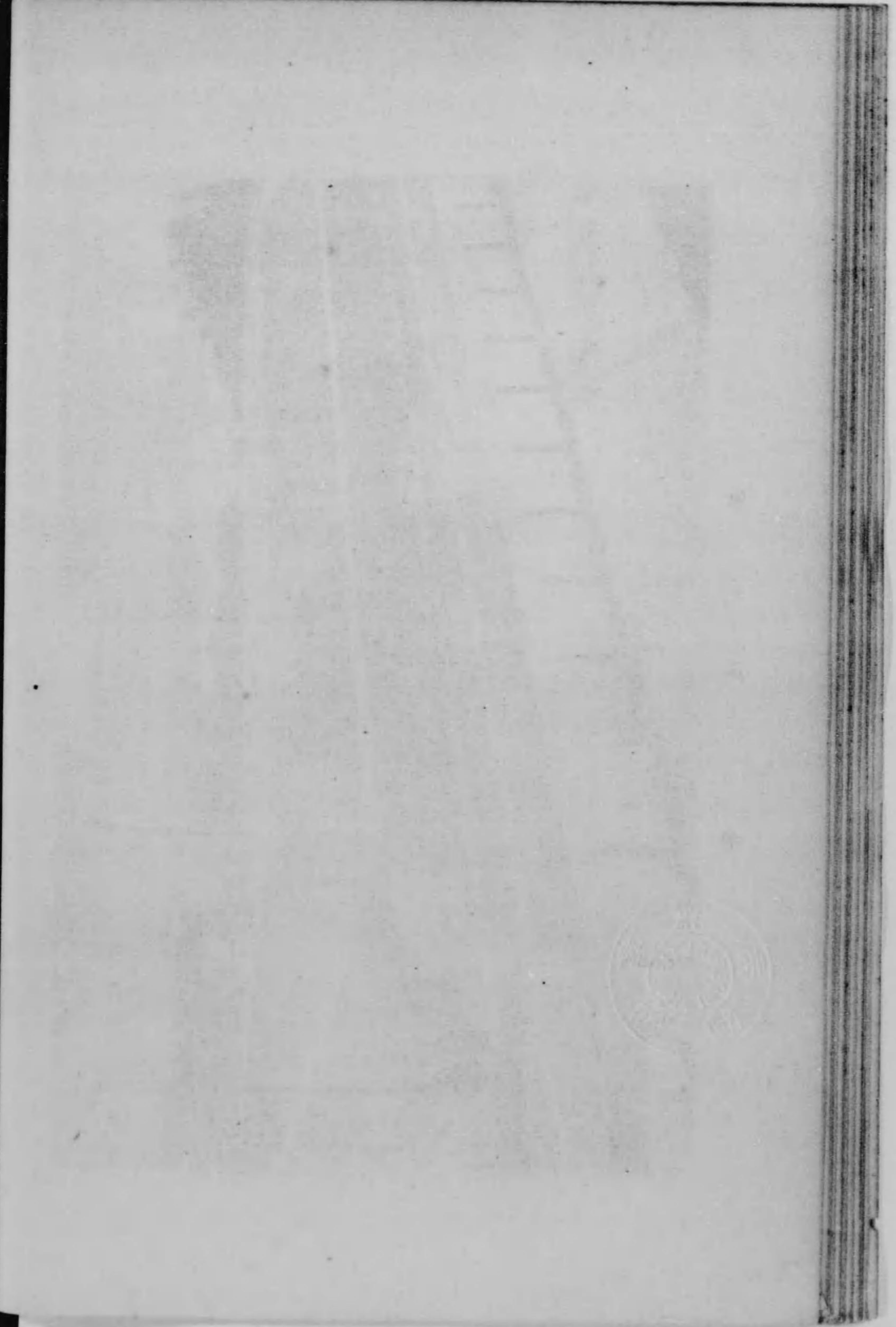


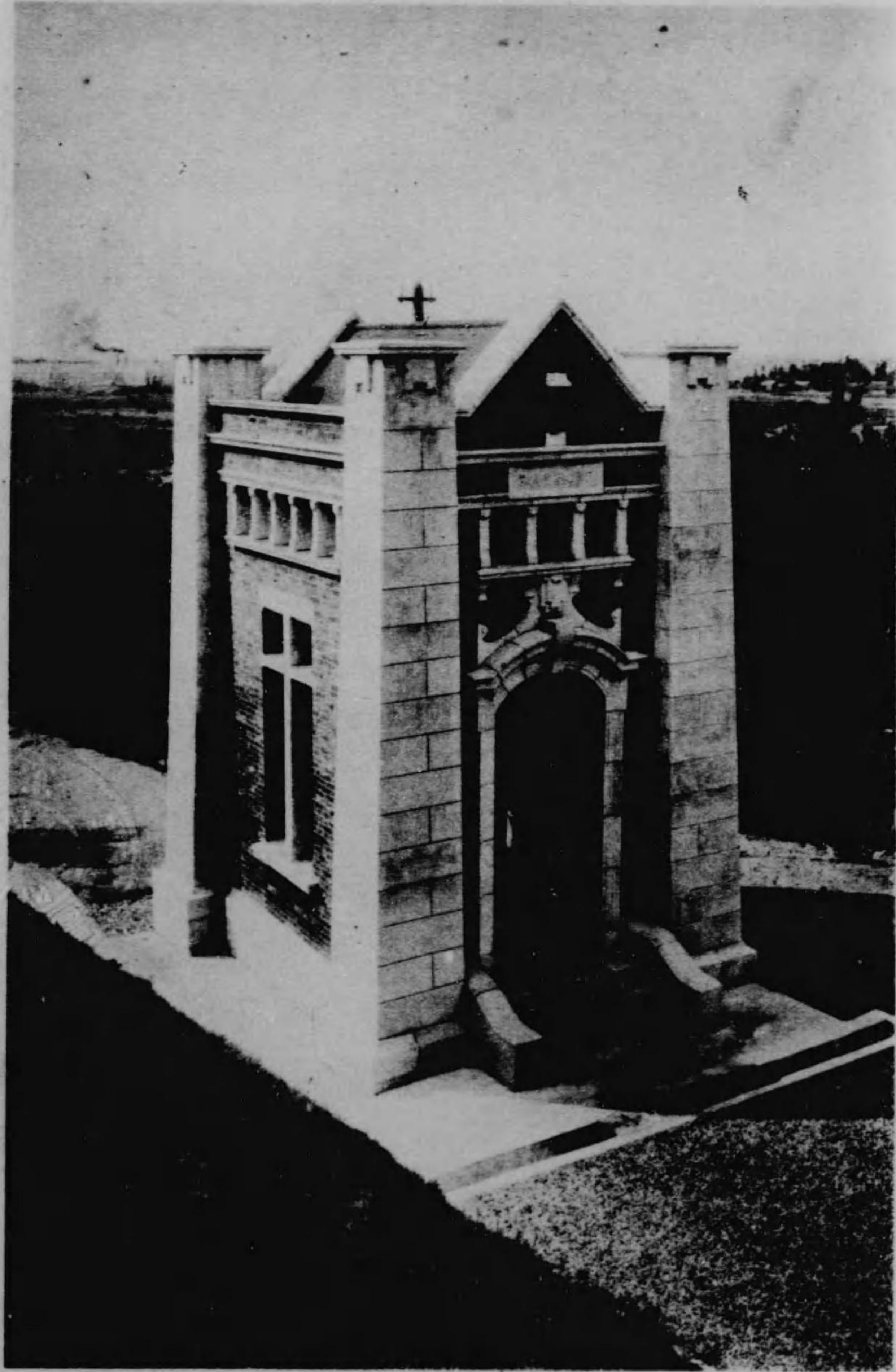
室 簡 中





池 水 配



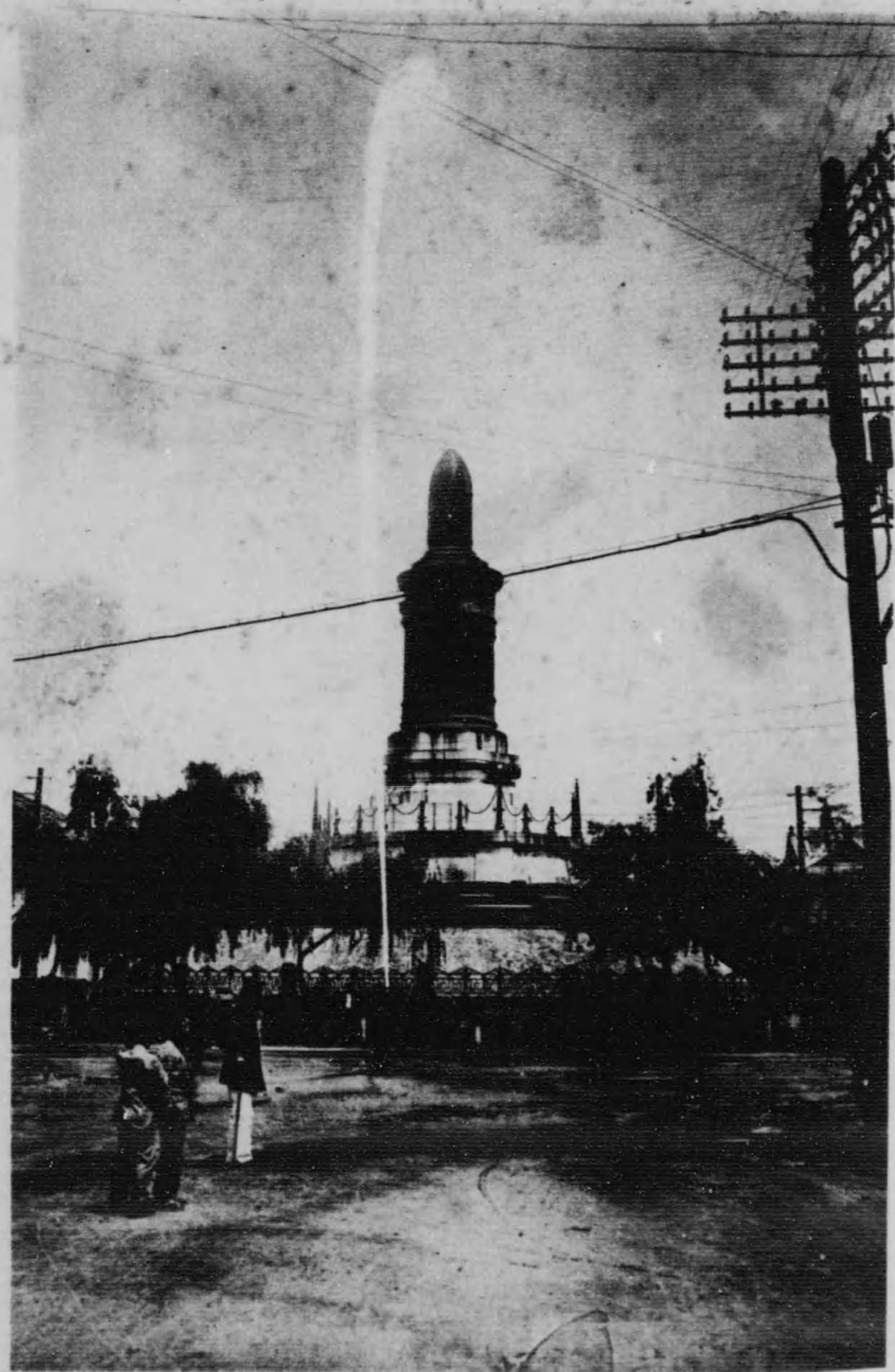


計量室(配水幹線)



白鳥水管橋





廣小路記念碑前消防栓噴水ノ景

序

我名古屋市上水道は水源を犬山城櫓下木曾川左岸に發し、尾州の中央を横斷して東春日井郡鳥居松村の沈澱池に至り、更らに市外東山村鍋屋上野の濾過池に於て濾過洗淨し、次いで電動力を以て同大字田代の配水池に壓送し、同所より名古屋市に汎く給水する施設にして、清冽玉の如き蘇川の清水を市民に給するを得たるは本市の大に矜恃するに足るべき一事實に非ずや、殊に犬山城下取入口の水門は大岩壁を開鑿して築造せるものにして多く其比を見ざる所也

凡そ都市の經營に當り清淨且豊富なる上水を得るは都市發展の一大要素にして、古より都市の文化は水道の施設と隨伴せざ

るものなし、若し夫れ一度之れを等閑に附し其施設を誤り、市民の健康、衛生を害し、悪疫の傳播を被り、都市の發展を阻害するあらば、慘禍何を以てか能く之を償はん、而して本市は地勢上地下水の伏流に乏しく、井水の如き清淨なるもの少く、従つて飲料水として頗る不適當なるを免れず、況んや 離宮の所在地たる當市に於てをや、此に於て乎、水道の計劃あり、明治四十年四月事業着手以來歲月を経る事十一個年、經費を要する事五百貳拾七萬九千八百八拾貳圓遂に大正七年三月を以て此大事業完了を告ぐ、此間大正三年九月給水を開始し、爾來引用者年を逐ふて増加し、今や水道の施設及び利用に關し全國中多く遜色なきを見るに至れるは本市の一大幸慶とする所也

顧ふに當市の水道工事は設計より完了に至る迄時期と云ひ施

設と云ひ頗る順調なりしを以て、事業完了の今日より察すれば平々坦々として砥の如しと雖も、明治二十六年内務省衛生顧問バルトン氏に給水工事の調査を囑託し、同二十七年同氏の給水工事に關する意見書提出に初まり、同三十七年成案を得て市會に提出し、同四十年豫算可決、直ちに事業に着手し全部完了に至る迄幾多の迂餘曲折あり、豫算を更ふるもの數次、水路敷地の收用、鐵管の買入、取入口の開鑿、隧道、開渠、暗渠の送水工事、沈澱池、濾過池、配水池の淨水工事、配水鐵管布設等の大事業に關しては多大の勞力を要し、市政機關の努力と國庫の補助獎勵と相俟ちて全きを得たるものにて、人力の限りを盡したりと云ふも不可なし、本誌は此間の記録を蒐集し後昆に傳えんと欲するもの、今や本市は名古屋市建設の緒に就き、都市の膨脹發展著しきもの

あらんとす、之れに伴ふ水道の擴張又目前にあり、然かも我水道施設の重要部分は百萬人の設備なるにより其實現は蓋し遠きに非ざるべしと信す、此時に當り水道誌の編纂成り記録の散逸を防ぐもの豈徒事なりとせんや、一言記して序とす

大正八年七月

名古屋市長 佐藤孝三郎識

凡例

一、本誌は市水道事業の全般に亘る事項を網羅せるものにして全編を十五章に分ち更らに必要なるものには節を設けて讀者の利便を計りたるも改めて款項を置かず記事の正確を期するを以て目的とせり

一、材料は専ら市役所保存の記録に據ると雖も或は當時關係者の記憶を参考としたる點もあり力めて遺漏なきを期し又事業遂行の經過及他方面との關係を明瞭ならしめんが爲め必要記事は直に其原文を叙事中に輯め以て事實粉飾の疑を避けんことを期せり而も資料の饒否如何に因り叙事に精粗の恨なき能はず

一、文體は自序法に據りたるを以て市政關係の一員たる以上は一般に其の敬稱を省略す

一、本誌は上水道布設に關する事業の記事を主とするも下水道及び關聯する市營事業に付ては其都度之を挿入せり

一、本誌は書記堀新吾技手宇田謹爾専ら編輯の任に當り稿を大正七年九月に起し大正八年六月脱稿同年七月之を剞劂に附したり

大正八年七月

名古屋市役所

名古屋市水道誌目次

第一章	市勢一斑	一
第二章	沿革	六
第一節	水道企劃ノ起原	六
第二節	バ氏給水意見	一二
第三章	計劃	二六
第一節	原計劃	二六
第二節	工事施工稟請及認可ノ經過	五七
第四章	擴張	一四〇
第一節	元熱田町擴張	一四〇
目次		一

第五章 設計變更

第一節 第一次變更……………一六二

第二節 第二次變更……………一七一

第三節 第三次變更……………一七三

第四節 第四次變更……………一七六

第六章 起工及竣功

第一節 木曾川引水工事及流水占用……………一九一

第二節 起工……………一九四

第三節 竣功式……………一九六

第七章 現在ノ規模

第一節 概說……………二〇二

第二節 取水場……………二〇四

第三節 隧道及暗渠……………二〇六

第四節 開渠……………二〇六

第五節 鐵管水路……………二一〇

第六節 沈澱池……………二一三

第七節 濾過池……………二一五

第八節 唧筒場……………二一七

第九節 配水池……………二一八

第十節 配水工事……………二二〇

第八章 用地

第一節 用地收用……………二二四

第二節 各用地ノ面積及價額……………二二八

第三節 損害補償……………二三〇

第四節 借地……………二三二

第九章 鐵管及主要材料ノ購入……………二三四

- 第一節 鐵管購入……………二三四
- 第二節 主要材料購入……………二三六

第十章 資金調達……………二三八

- 第一節 第一次募債計劃……………二三八
- 第二節 第二次募債計劃……………二四二
- 第三節 募集着手……………二五三
- 第四節 外債募集着手……………二五四
- 第五節 外債ノ受領及管理……………二六八
- 第六節 元熱田町擴張費募債計劃……………二七〇
- 第七節 水道公債募集着手及借替……………二九〇
- 第八節 起債額變更並公債條例中改正……………二九五

第九節 國庫補助金下付稟請……………三一五

第十節 國庫補助額ノ更正……………三二三

第十一節 國庫補助額ノ確定……………三二八

第十二節 擴張費ニ對スル國庫補助稟請……………三二九

第十三節 擴張費補助額確定……………三三二

第十一章 豫算及決算……………三三六

第一節 當初ノ豫算……………三三六

第二節 第一次更正豫算……………三三八

第三節 第二次更正豫算……………三四一

第四節 第三次更正豫算……………三四三

第五節 第四次更正豫算(擴張費追加)……………三四六

第六節 第五次更正豫算(並繼續年期延長)……………三四八

第七節 第六次更正豫算……………三五一

第八節 第七次更正豫算並繼續年期延長……………三五二

第九節 第八次更正豫算並繼續年期延長……………三五五

第十節 確定豫算……………三五八

第十一節 水道布設費決算……………三六一

第十二節 上水道布設調査費……………三六二

第十一章 施工機關……………三六三

第一節 組織……………三六三

第二節 事務處理規程……………三六三

第三節 給與規程……………三八六

第四節 服制……………四〇六

第五節 調度規程……………四〇九

第六節 會計規程……………四四八

第七節 資金管理規程……………四四九

第八節 臨時委員規程……………四五四

第九節 工區及出張所……………四五六

第十節 當事者及其員數……………四六一

第十三章 附帶工事維持……………四八六

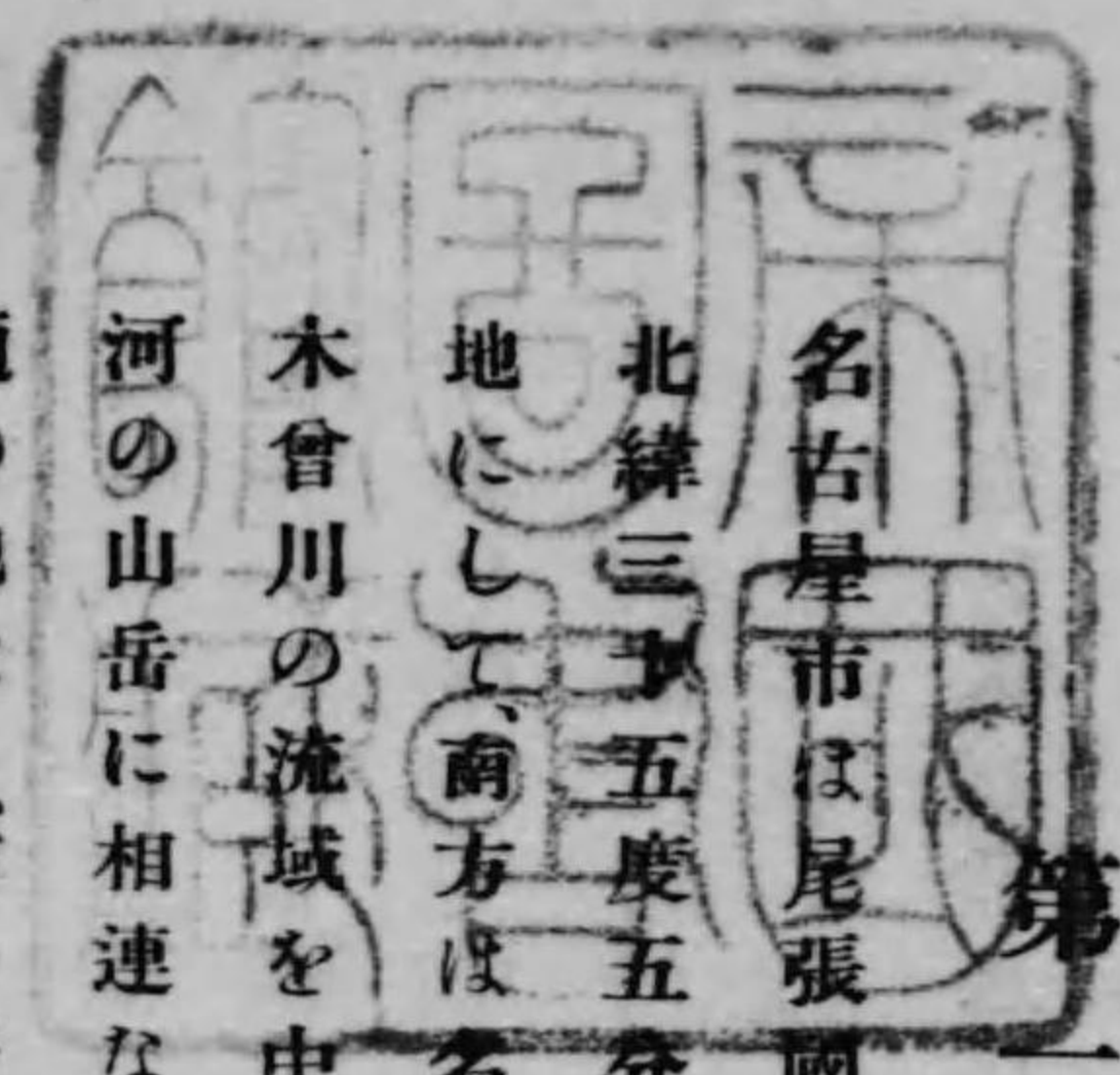
第十四章 給水狀況……………四八九

第十五章 給水條例……………四九三

名古屋市水道誌目次終

名古屋水道誌

第一章 市勢一斑



名古屋市は尾張國の南部に位し、東徑百三十六度五十一分乃至百三十六度五十七分、北緯三十五度五分乃至三十五度十一分の間であり、中部日本に於ける商工業の中心地にして、南方は名古屋港によりて伊勢灣に臨み、遠く洋々たる大平洋に接し、北西は木曾川の流域を中心とする尾濃の大平野を控へ、東方は東山一帯の丘陵を隔て、三河の山岳に相連なる、氣候概ね平温にして寒暑共に峻烈を極むることなく、生活上好適の地たり、市の廣袤十二里二十六町三十五間、面積二方里六分四厘、東西の最も廣き所一里十九町三十間、南北三里七町あり、戸數九萬九千七百六十一戸、人口四十三萬九千四百七十七人にして之を明治六年の戸數三萬七千九百五十三戸、人口十二萬六千八百八十八、市制實施當時即ち二十二年の戸數四萬九千四十九戸、人口十五萬七千四百九十六人に比すれば實に隔世の感あり、

此地往昔那古野の莊と稱し寂寥たる一寒村に過ぎざりしが、永享の頃尾張氏の一族名古屋藏人高信近邑を領し此地に邸宅を構へて居住す、後大永二年今川氏親始めて此地に城を築き之を柳の丸と稱し末子氏豊をして居城せしむ、時に海部郡勝幡の城主織田信秀あり、風雅の交遊に托して其機を窺ひ之れを奪ふ、天文三年信長誕生の翌年古渡城を築き自ら之れに移り、那古野を信長の居城とす、弘治元年信長清洲城に移り、同三年正月遂に廢城となる、爾來五十年徳川家康天下を取るに及び、山下氏勝の建議に基き愛子義直の爲め慶長十五年二月名古屋築城の大土工に着手し、同十七年正月全く竣工す、而して此築城に當り碁盤割の新市街を建設したると堀川を開鑿して舟楫の便に供へたるは特筆すべき事なるが、當時は北面一帶沼澤の地なりしを以て築城の際木材を以て埋立て敷地を固めたり、されば藩祖義直、二代光友共に銳意治水の策を講じ排水に將又飲料水に腐心せる事史の明記する所也、徳川氏二百有餘年間は三親藩の餘威と東海道の要衝たるの故を以て、百貨輻輳、街衢殷盛三府に亞ぐ名府たり、

維新の革新は一時名古屋を委靡不振に傾せしめたるも、明治四年廢藩置縣と共に名古屋縣を置き、同五年愛知縣と改稱し、尾張三河の兩國を管轄するに及び縣治の首腦地となり、次いで第三師團(元鎮臺)を始めとして官公衙、諸學校續々新設せられ殖産興業日を追ふて盛んなり、同十一年郡區編制法により名古屋區として愛知郡の管轄に屬せしが同二十二年、市制實施の下に名古屋市なる自治體として獨立せり、其後市外隣接地の編入數次あり、殊に明治四十年熱田町全部を合併し續いて熱田港を名古屋港と改稱するや、都市の面目一新す、茲に於て同四十一年四月全市を東、西、中、南の四區に分ち各區に區役所を置き市政事務の一部を分擔せしむ、明治四十三年三月本市に開催したる關西二府二十八縣聯合共進會は各方面に於ける一大發展を促し、次いで歐洲大戦争の波動は本市商工業の膨脹を促進し市勢駁々乎として停止する所を知らず、

一面交通運輸の利便は日を追ふて發達し東西の都市に相通する東海道線の重要地として重きをなしつゝあるは云ふ迄もなく關西線及び中央線の起點たり、更らに名古屋港臨港鐵道あり、白鳥線あり海陸の連絡を掌り實に四通八達と云ふべく、殊に近く決定せる名古屋管理局の新設と名古屋驛の擴張は愈々市商工業の發展を助長し、

中部日本の物資多く此地に集散すと云ふも不可なし、翻つて海運界を見るに名古屋港は明治四十年十月一日開港せる貿易港にして既に第二期擴張を終り、目下第三期擴張に入らんとし優に六千噸の船舶を入港せしめ得べく、臺灣、北海道、上海の定期航路を始めとして出入の汽船年を追ふて激増し貿易額又年々倍加す即ち大正六年入港船千六百九十七隻此總噸數百四十萬八千六百九噸貿易額輸出入及び移出入合計一億一千三百餘萬圓に達せり、以て其大勢を卜知するに足るべし、又運河には舊來の堀川あり、新たに開鑿せる新堀川あり、東西より名古屋港と相狹んで市内の間を南北に通し交通運輸の衝に當れり、次に市内の道路は東西に貫通する幹線廣小路通りを中心とし、江川線、南大津町線、公園道路、高岳線、葵町線、御幸道路、東片端線、南外堀線あり、此等の路上には凡て電鐵敷設せられ、市内線の延長實に二十餘哩に達す、尙近く五大道路改修するに決定し居れり、此他名古屋電鐵郡部線によりて一宮、犬山、津島、枇杷島、覺王山に通し、愛知電鐵によりて常滑、有松に、瀬戸電鐵によりて瀬戸に、尾張電鐵によりて八事に、下の一色電車によりて下の一色に、名古屋土地株式會社の中村電鐵により中村公園に、築地電鐵によりて稻永新田に達し、市内外の交通聯絡遺憾なく益々市

勢の般賑を期するに至れり。

第二章 沿革

第一節 水道企劃の起原

名古屋の水道は舊藩時代既に此計劃あり、二代光友卿の時寛文三年九月、巾下筋用水悪しく諸士困難なりしにより、西春日井都大森山の西麓に勝川の水を引きて水源となし、勝川に平行して西に流れ漸次西南流し、各村を経て御深井御庭に入り、御深井御堀となり、夫れより巾下水道を設け各戸に通したり、此施設は龍の口御堀より二道の水道を附け、南は小船町、堀詰町、堀江町、鹽町、大船町、舟入町、納屋町、元水主町、北は姥屋町、江川町、樽屋町に供給したるものなるが、其設備たるや素より單簡にして僅かに土管又は竹の樋を以て各戸に通せしに過ぎず、従つて今日の上水道とは全然其趣を異にせり、唯夫れ市内に善良なる飲料水を求むるの一事は當時既に痛切に之れを感じ居たるを知り得べきなり、由來吾が名古屋市は濃尾平野南端の低地に位し、東徑百三十六度五十一分北緯三十五度五分の地點に於て銳角二等邊三角形に展開せられ、海抜

十六尺乃至三十尺を以て大部を占め、最高地と雖も六十尺餘に過ぎず、地層濕潤にして西北の方面は矢田、庄内川に依りて遮断せられ、南方熱田灣に瀕し、東方の一帶僅かに東山の丘阜ありと雖も其地域狭少にして、地下水の伏流に乏しく、日常市民の飲料に供する井水は概ね雨水若くは汚水の地中に滲透し再び井中に滯溜したるもの外ならず、然も始は南北に狭長なる岬角的丘陵上の北端名古屋城を起點として建設せられ、漸次膨張して東西の低地に其の兩翼を張り、南方熱田灣頭に擴大し、遂には接續の低卑なる水田に不完全なる埋立をなし、新市街を建造しつゝあるを以て濕潤の度は蓋し意想外とも謂ふべく、況や従來下水排泄の方法殆んど觀るに足るべきものなく爲めに、一朝大雨に際會せんか、潦水街衢に横溢し濁流阡陌に奔馳するを免れず、明治四十一年三月試堀したる處に依り左に市内の地層を検するに

町名	堀鑿深標	高湧水層に至る深	最近面傍井高
前津小	十尺	四尺	五、五
梅川町	十尺	ナ	五、九〇
堀川町	十二尺	九尺	三、七、二

堀川筋中橋	布池町	新榮町六丁目	南外堀町	新柳町四丁目	前ノ川町	泥江町
二十	十	十	十	十	十	十
二	五	二	五	五	五	五
尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺
五、二七	七、五、六	六、九、二、四、五	七、七、六、五、ナ	六、九、五、ナ	四、六、〇、〇	四、三、〇、五
十	四	五	ナ	ナ	二	一
四	尺	尺	尺	尺	尺	尺
尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺
三、九、一、七	六、九、一、八	六、四、四、〇	五、三、四、五	四、〇、〇、三	四、三、五、七	四、三、五、七

此邊一般ニ堀拔井ヲ用フ

標高の基線は熱田灣海水最干潮面以下三十尺にあるものとす、而して湧水地層以下三、四尺に達すればエドソン唧筒一臺にては到底排水し能はざる程にして是れ實に雨水若くは下水の地下に滲透し停滯し居るものにして決して地下水と認むべきものに非ず、故に飲料に供されつゝある井水は有害分子を含有するは勿論今後多くの歳月を経るに随ひ遂に地層は汚水の浸潤する所となり益々不良に歸する虞あり、而して不良水は悪疫の蔓延と密接なる關係を有し、殊に虎列刺病、腸窒扶斯病等に於て最も恐るべきものあり、明治十二年廣井町に虎列刺病患者發生せしを以て縣市の吏員は之れが豫防救治を勵行し、學校の如きも豫防の爲め適宜休業せしめたり、是に於

てか激烈なる該病も終熄せしが、十五年又流行し、十九年三たび斯病の流行を來し、病勢猖獗を極め蘇鐵町、内屋敷町に隔離病舎を設けて一百餘名の患者を收容するに至れり、此年虎列刺病患者三百人の多きに達し、爲めに死する者百七十三人に至れり、今左に掲ぐる所の表に依り其一斑を知る可し。

傳染病患者症別

(年次)	(虎列刺病)	(腸窒扶斯)	(赤痢)	(年次)	(虎列刺病)	(腸窒扶斯)	(赤痢)
十九年	二九五	七四〇	六	三十年	一	一一三	二〇〇
二十年	二	一三三	〇	三十一	一	一七六	二〇六
二十一年	一	九六	一	三十二	一	二二五	一八三
二十二年	一	五三	六	三十三	一	二二三	一九〇
二十三年	一	三三	二	三十四	一	一五一	一五五
二十四	一	七三	九	三十五	一	一一六	二一九
二十五	一	二七	三	三十六	一	一一三	二一九
二十六	一	四五	〇	三十七	一	一五三	一七四
二十八年	二五三	一八〇	七	三十八	一	一四九	一五〇
二十九	三	一一五	二	三十九	一	一〇九	一四五

當時市内各所の井水を検査したる結果に觀れば百分中七一、五三は不良に歸し飲料に適するもの僅々二八、四七に過ぎざることを發見せり、此の水質試験は化學上の検査に止まるを以て更に細菌學上の検査を施すに於ては良、不良の比例は甚しき懸隔を生じ、良水は全く稀なるやも知る可からず、且又愛知縣警察部に於て調査したる處に依れば市内堀井の總數二萬〇七百六十三個所の内便所との距離二間以内にして改堀を要するもの五千九百四十八個所の多きに居ると云ふ、右は變更の餘地なきに非ざるべしと雖も人口の増加に伴ひ空地の面積は漸次縮少せらるゝを以て遂には其存在を容れ難きに至るべし、如上は専ら舊名古屋市に對するものなりと雖も若し夫れ舊熱田町に至りては往昔蓬ヶ島と稱せしに依りても首肯すべく、其周圍池沼を以て圍繞せられたる小丘に過ぎざりしものにして、變遷之を久しくし遂に今日の市街又は耕地となりしものなれば殆ど飲料水と認むべきものなしと云ふも蓋し過言に非らざるべし、其何れも赤濁色を呈せる之れを過去に實在せる健康状態に鑑み寧ろ不可思議の感ある也。

名古屋と水との關係は斯くの如し、市民は市の將來に對し一種の戰慄を感受せざるべからず、若し公衆衛生の唯一機關たる上水道の布設を逡巡し、不良井水若くは停滯汚水に由りて惡疫の流行を醸すが如き事あらんか、獨我名古屋市の盛衰に關するのみならず、畏くも離宮所在地として恐懼に堪へざると共に全國交通の衝に當れる本市衛生の慘害は延て全國に波及し、幾多人命の存亡産業の消長に繋るべく、又一方人家稠密の度を加へ連軒櫛比するに従ひて、火災の數を増加す其財産保護の爲め亦一日も忽諾に附すべからず。

(年次)	(火災度數)	(燒失戶數)	(全市數)	(年次)	(火災度數)	(燒失戶數)	(全市數)
三十一年	一五	六二	五、六八〇	三十六年	一六	一〇二	六、九五六
三十二年	二	三	六、二〇六	三十七年	三六	一〇三	六、九一六
三十三年	二四	二六	六、七五三	三十八年	五	七〇	七、〇一六
三十四年	二四	二六	六、五二八	三十九年	三三	八三	七、三二七
三十五年	二四	二五	六、五二五	四十年	六九	九七	八、一〇二

過去十年間に於ける火災度数及び焼失戸数の統計は右表の如くにして消防機關の益々整頓するにも拘らず火災度数は減少せざるが如し、之は蓋し戸口の激増に起因するものと云ふべく、年々膨脹しつゝある本市として看過すべき底のものにあらず、即ち吾名古屋市に水道布設を要求するに至りたる経路なりとす。

第二節 バ氏給水意見

前章に於て述べたるが如き状態に在る吾名古屋市は其公衆衛生上給水設備の曠日彌久を許さず、遂に明治二十六年市長志水忠平は内務省衛生工事顧問バルトン氏に對し給水工事の調査を囑託したるに氏は實地視察の上廿七年六月左の意見書を提出せり。

名古屋市給水工事ニ關スル意見書

余ハ當夏季ニ於テ名古屋市衛生上ノ事項ヲ視察シ併セテ目下計劃ノ議アル同市給水工ニ關シ充分ナル良法ヲ撰バンガ爲メ計劃上必要ナル概略ノ測量ヲ試ミ左ノ報告書ヲ呈シ以テ余ノ意見ヲ陳述セントス。

余名古屋市滞在中聞キ得タル處ニコレバ同市人口ハ拾七萬ニシテ其内師團ニ數千ノ兵士アリ且ツ人口ハ一箇月七十人ノ比例ヲ以テ繁殖ス。
名古屋ハ海面ヲ抜ク事實ニ高カラズシテ余ノ聞ク處ニ於テハ往昔一ノ島嶼ナリシモ現今ハ既ニ内地ニ位シ海邊ヲ距ル數哩ノ所ニアリ同市ノ周圍ハ皆稻田ニシテ北ノ稻田タル往時ハ海底ニ屬セシモノタルコトヲ疑ハズ元來本邦東部ノ海岸ハ數十年來地盤自然上騰ノ作用ヲ受ケシモノニシテ現今尙其影響ヲ蒙ルヤ明瞭ナル事實ナルヲ以テ此ノ名古屋市近傍ノ地盤モ同ジク上騰シ滄海變ジテ稻田トナリシ者ナル可シ名古屋ニハ其中ヲ流通スル小河アリテ水源ヲ勝川ヨリ發ス該小河流域ノ全部ハ潮水干満ノ影響ヲ受ケ而シテ春季最低干潮ノ時ニ於テハ河底殆ンド水流ヲ殘サズ只僅カニ流心ニ沿フテ一小渠ノ如キモノアルノミ干満ノ差ハ春季凡八尺ニシテ平時又凡四尺トス。

名古屋市ノ地質タル空隙多ク水分ヲ含蓄シ難キ者ニシテ此ノ如キ土質ノ衛生上ニ益少ナクシテ害多キハ一般ニ稱道スル所ナリト雖モ名古屋市現在ノ狀況ニ對シテハ實ニ有害ナリト判定セザルヲ得ズ目下當市各戸ノ下水ハ單ニ溝渠中ニ放

任セラル、モノナレバ下水ノ地中ニ慘透スルコト甚シク其慘透セシ下水ハ皆市民ノ飲料ニ供スル井中ニ浸入スルヲ以テ市民ハ稀薄ナル下水ヲ以テ飲料水トナサザルヲ得ズ土質ノ空隙多キガ爲メ下水ノ慘透モ亦從テ甚シク盛夏ノ候ニ際シテハ下水ノ一モ市外ニ流出セズ只市内ノ地中ニ慘透スルノミナリ。

以上陳述セシ事項ハ嘗ニ名古屋市ニ於ケル現象ニ止ラズ本邦各市現況モ殆ント同市ト同一轍ナルヲ以テ余ハ屢々書ヲ衛生局ニ呈シ各市下水排除ノ改良ヲ施サザレバ市民ハ皆稀薄ナル下水ヲ飲料水ニ充ツルノ不幸ニ陥ルベシト余ノ意見ヲ縷述シタリ故ニ此際殊ニ其詳細ニ就キ論究スルノ必要ナシト雖モ一言以テ其改良ノ要領ヲ舉示セバ即チ純良潔白ノ上水ヲ供給シ同時ニ下水排除ノ改良ヲ施シ下水ハ一モ市中ニ止メザルノミナラズ地下ニ慘透セシメズシテ悉ク市外ニ排出セシムルニアリ余ハ屢々余ノ意見書中ニ陳述セシ如ク給水工改良ノ目的ハ第一衛生上ニ歸著スベキ者ナリト雖モ方今泰西給水工ノ利トスル所ハ單ニ衛生上ノ一點ノミナラズ又他ニ利益ノ存スモノアリ就中大ナル市街アリテハ其ノ利益ノ關スル所至大ニシテ火災消防上非常ニ有功ナルモノナレバナリ本邦ノ如キ火

災甚ダ多キ國ニ於テハ水壓力強キ給水工ハ功力モ亦從テ著シク給水工ノ創設費ニ對スル利子ハ單ニ火災防禦ノ爲ニ燒失ヲ免レタル家屋及資産等ノ價格ノミヲ以テ辨償セラルベキモノト確信スルノミナラズ或ハ維持費ヲモ火災防禦ノ爲メニ相償フコトヲ得ベシト信ズ。

名古屋市給水工ノ水源ト爲スベキモノニアリテハ入鹿池ニシテ他ヲ木曾川トス入鹿池ハ周圍小ナリト云フベカラズ屈曲出入シ其最大ノ幅ハ一哩餘アリ參謀本部ノ地圖ニヨリテ推測スレバ池ノ面積ハ凡ソ半平方哩ニ過キズ而テ該池ハ名古屋市ヨリ二百尺乃至二百五十尺ノ高キニ位シ往昔ニ左リテハ一小池ニ過ギザリシモ其後貯水ノ目的ヲ以テ該池出口ノ谿間ニ締切堰堤ヲ築設セシヲ以テ其大サ及深サヲ増セシモノナリ。

入鹿池ハ流入スル溪水ノ上水ニ沿ヒ一小村落アリト雖モ若シ該池ヲ名古屋市給水ノ源ト定ムルトキハ給水取入口ヲ設クベキ所ヨリ甚ダ遠キ距離ニ在ルヲ以テ其害ヲ及ボサズ該池水ハ充分透明ナラズシテ粘土ノ最小紛末ノ浮遊スルモノアリト雖モ上水ノ性質上最有害ナル有機物ハ小量ダモ之ヲ含マザルヲ以テ名古屋

市給水上他ニ比類ナキ水源ト斷定セリ。
就中該池天然ノ位置ハ其目的タル名古屋市ヨリ二百有餘尺ノ高キニアルヲ以テ充分ニ水壓力ノ強キ給水工事ヲ施スヲ得ベシ。
第二ノ水源タルベキ木曾川ハ稻田中ニ流下スル一大川ニシテ其兩岸ニハ幾多ノ村落アリ而シテ名古屋市ヲ距ル數哩ノ所ニ於テモ河底甚ダ低キガ爲メ水壓力強キ給水工ヲ施サント欲セバ必ズ唧筒ニ依ツテ一回水ヲ高キニ汲ミ上ゲ之レヲ配送セザルベカラズ加之名古屋市内或ハ同市近傍ニ於テハ此一回汲ミ上ゲタル水ヲ貯フベキ貯水池ヲ築設スベキ適當ノ場所ナキヲ以テ同川ヲ水源トシ水壓力強キ給水工ヲ施サント欲セバ工費及維持費ノ莫大ナル巨額ニ上ルベキハ言ヲ俟タズ故ニ木曾川ハ同川ニ勝ルレ水源ナキニ當テ初メテ採用スベキ水源ナリ。
入鹿ノ池ハ木曾川ニ比シ勝レル水源ナリトス。
若シ強テ疑點アリトセバ唯其水量ハ現今同池ノ灌溉ニ係ル稻田ノ用水ト併セテ名古屋市ニ供給スベキ上水ノ量ニ對シ充分ナルヤ否ヤニアルノミ然レドモ其水量ニ就キテハ後ニ記載スル所アリ。

名古屋市人口繁殖ノ度急速ナルガ爲メ給水需用者ノ數ニ於テハ現人口ヨリ充分増加ノ見込ヲナサザルヲ得ズ。

故ニ余ハ設計上現人口ヲ拾八萬人ト假定シ將來ノ増加ニ對シ現人口ノ半數ヲ加ヘ需用者ノ數ヲ二十七萬人トセリ而シテ今斯ノ如ク假定セシ人口ニ依リテ計劃ヲ爲ス時ハ他日人口増加ノ爲メ多少工事ノ擴張ヲ施スベキ必要ニ遭遇スルモ人口二十七萬人ヲ超過セザル以上ハ給水工事中主眼タル導水管ヲ太ムルノ要ナキハ勿論擴張工事ノ爲メ多額ナル費用ヲ要セザル可シ。

給水量ハ人口一人ニ對シ一日二十四時間平均三立方呎トセリ是レ最大量ヲ要スル時一人一日六立方呎ヲ供給シ得ル割合ニシテ此算定ハ上水ノ需用上充分ナリト信ズ。

雨水ノ入鹿池中ニ流出スベキ土地ノ面積ニ關シテハ余ノ携帶セシ地圖ハ只參謀本部ノ地圖一ナルノミナラズ其縮尺稍小ニ失スルガ爲メ精密ナル算出ヲナス事實ニ容易ナラズシテ同地圖ニ依リテ大凡拾六平方哩ト判斷セシト雖モ多少ノ差異アルヤ疑ナシ今此面積ニ於ケル一ケ年間ノ降雨量二十四時ナリト假定スル

ニ一年間ニ流入貯蓄セラルベキ水量は八億立方呎ナリ此貯水量ハ二十七萬人の給水量ニ對シ三倍以上ナルハ簡單ナル算術ニ依リテ證明スルヲ得ベシ管ニ一年間二十四時ノ水量ヲ蓄ヘ得ルノミナラズ少シク改良ヲ施ストキハ貯水量ノ二割乃至五割ノ増加ヲ得ベキハ明カナリ而シテ今此二割乃至五割ヲ増加スルトキハ二十七萬人ノ要スル給水量ノ四倍ニ當ルベシ。

入鹿池ヨリ灌溉ニ使用スル水ノ殘餘ハ目下皆無益ニ放流スル者ナルヲ以テ此餘水ヲ放流セシメザルトキハ同池ノ水量ハ名古屋市ノ給水量及灌溉用水ノ兩者ニ供給シ尙餘ス所アル可キハ余ノ確信シテ疑ハザル處ナリ或ハ人口二十七萬ニ達セザル以前ニ於テ堰堤ヲ改良シ貯水量ヲ増加スルノ必要ナキヲ保シ難シト雖モ此水量ノ増加ハ左ニ述ルガ如ク實ニ易々タル改良ニ依リテ得ラル、モノナリ。今余ノ呈出セントスル設計左ノ如シ。

(一)貯水池ヨリ給水取入ノ爲メ水塔ヲ設置スルコト。
給水取入口ハ水面以下二尺乃至十尺ノ間ニ於テ常ニ給水ノ取入レ得ベキ構造トス今此取入口ヲ水面以下二尺以下乃至十尺トセシ所以ノモノハ最純良ナル

水ハ同水位ニ有ルヲ以テナリ此水塔ノ位置ハ貯水池ノ内部ニシテ現今存在セル木樋ノ近傍ニ位シ堰堤ヨリ木樋ニ向ヒ稍右ノ所ヲ最良トス。

(二)堰堤ノ直下ニ於テ二個ノ濾過池ヲ設置スルコト。
濾過池ハ面積合シテ七十五萬平方呎トナシ一ノ濾水池掃除ノ際ハ他ノ濾水池ヲ用ヒ交互ニ之ヲ使用ス且ツ他日人口増加セシトキ濾水池ノ面積ヲ増ス爲メ必要ナル隣接ノ地ヲ備フベシ。

(三)濾水池直下ニ於テ現今ノ人口ニ對シ十二時間ノ給水ヲ含蓄スベキ一箇ノ淨水溜池ヲ設置スルコト

此溜池ハ豫メ二箇ノ部分ニ分割シ得ラルベキ構造ヲ施シ人口二十七萬ニ増加セシトキ尙他ニ一部分ヲ増設シ得ラルベキ餘地ヲ備フベシ。

(四)淨水溜池ヨリ名古屋市ニ至ル導水線路導水管ハ二十七萬人ノ給水量ヲ流過シ得ル太サト爲スベシ之レ他日給水量不足ノ爲大ナル直徑ヲ有セル導水管ト變換シ又ハ副管ヲ布設セントスルニ其工費ハ實ニ多額ヲ要スルモノナレバ今日ヨリ其準備ヲ爲スヲ必要ト認ムレハナリ。

余ハ今此ニ十七萬人ニ對シ一人一日平均六立方呎ノ最大給水量ノ充分ナル速度ト壓力トヲ以テ流過セシムルニハ三呎ノ直徑ヲ有スル導水管ヲ以テ足レト信ズ。

導水管ハ此ノ如ク大ナル直徑ヲ有スルモノナルノミナラズ之ヲ布設スベキ地ハ殆ント皆名古屋市外ニ屬シ且其延長モ亦少ナカラザルヲ以テ鑄鐵管ニ比シ鑄釘セシ鋼鐵管ヲ用ユルヲ以テ遙ニ勝レリトナシ余ハ後者ヲ採用ス就中工事ノ現場ニ於テ鑄釘工ヲ施スヲ得ルトキハ運搬ニ著キ便利アルハ勿論材料ノ價格固ヨリ廉ナルヲ以テ鋼鐵製導水管ヲ使用ス可キナリ保存期限ニ關シテ鋼鐵製導水管ハ鑄鐵管ニ比シ其長短未ダ審ナラズト雖モ現今歐米諸國ニ於テ數多ノ著名ナル工學者ハ盛ニ之ヲ使用スルヲ以テ見レバ鋼鐵製ノ管ト雖モ甚ダ劣レリトナスベカラズ而シテ鋼鐵管ノ最特有ナル利益アリ永年使用ノ後不用ニ屬セシ際或ハ破損セシ際其修繕方法ノ實ニ簡便ナルハ鑄鐵管ノ遙ニ及バザル所ナルノミナラズ鑄鐵管ハ絶對的修繕ニ堪ヘザルモノナリ。

(五) 名古屋市中ニ於ケル給水配送方法

名古屋市中ニ於テ導水辨騰水嘴(一名消火栓水柱)及名用栓(一名用栓)及各戸取付水管其他給水工事上普通ニ必要ナル裝整法ヲ以テ配水事業ヲ完全セシムルコト。

入鹿池ハ目下存在スル締切堰堤ノ築造法充分堅牢ナリト雖尙一、二ノ點ニ付改良ヲ施サバ現今含蓄シ得ベキ分量ニ比シ一層多量ノ水ヲ含蓄シ得ラルルモノナリ此改良スベキ一點ハ同堰堤ノ頂上矯正法ナリ現今ノ堰堤ハ其頂上ニ高低アリテ其一部ハ平均ノ高サヨリ低キコト數尺ナルヲ以テ同堤實用的ノ高サハ此最低ノ所ニ依ラザルベカラザルノ欠點アレバナリ。

第二ニ改良スベキハ放水スベキ放水堰ニシテ其計劃實ニ其當ヲ得ズ元來放水堰ナルモノハ通常廣ク且底淺クシテ通過スベキ水ハ實ニ淺少ナルベキニ現在ノ放水堰ハ之ニ反シ幅狭クシテ底深ク其幅ハ頂上ニ於テ三十尺底部ニ於テ二十尺其深サ凡ソ二十尺ヲ有ス故ニ池水ノ最高水面ハ實際放水堰ノ底部ナルヲ以テセバ貯水量非常ノ損失アルヲ免レズ今此幅狭ク底深キ溝ニ代フルニ幅廣ク底淺キモノヲ以テセバ貯水量ノ増加スベキヤ言ヲ俟ザルベシ。

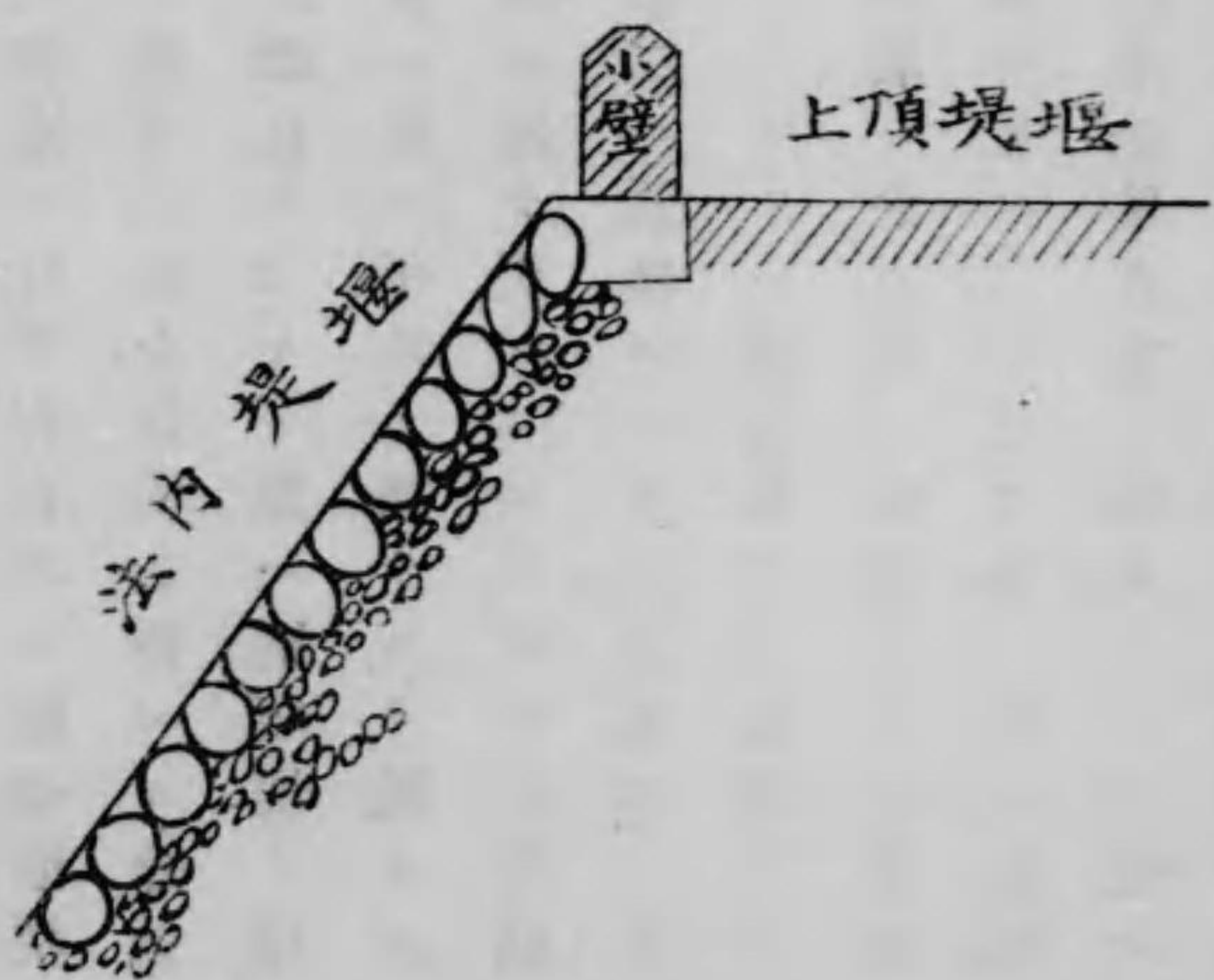
若シ今後人口増加シ貯水量ニ不足ヲ告グルニ至リテハ左ノ方法ヲ施ストキハ少

ナクモ現在貯水量ノ半額ヲ増加スルコト實ニ易々タルベキナリ

(一) 締切堰堤ノ低キ部分ヲ改良シ同堤現在平均ノ高サニ均シカラシム

(二) 水堰ノ低部ヲ高カラシメンガ爲ニ現在ノ底部ヨリ十三尺ノ高サ迄混凝土又ハ石工ヲ以テ填充シ且ツ締切堰堤ノ西端ニ於テ地盤堅牢ナル所ヲ撰ミ新ニ二個ノ放水堰ヲ設置ス而シテ其幅ハ各八十尺トシ底部堰堤ノ頂上ヨリ低キコト七尺トス

底部堰堤ノ頂上ヨリ低キコト七尺トナセシハ最大満水ノ際其上部三尺ヲ以テ波濤ヲ超溢セシムルノ餘地トナシ波濤ノ爲メ堰堤ノ頂部ヲ破壊セラル、コトヲ防グノ目的ニ外



ナラズト雖モ最適當ナル方法ハ右ノ圖ニ示スガ如キ小壁ヲ堰堤頂上池ノ内部ニ

接スル所ニ築造スルニアリ

今其小壁ヲ築設スル所以ハ地震動ノ際波濤ハ往々堰堤頂上ノ部分ヲ一掃シ去ルノ慮アリテ土ヲ以テ築造シタル堰堤ハ一たび破壊セラル、トキハ其全部破壊ヲ免レ難キモノナレバナリ小壁ハ高サ三尺乃至四尺ヲ以テ充分トス創設工費ニ關シテハ充分精密ナル測量ヲナスニアラザレバ精算スルコト能ハザルハ勿論ナリト雖モ余ハ大凡百七十五萬圓ヲ以テ完全セシムルニ足レリト信ズ

此工費ハ巨額ナル且ツ其人口ニ對シ一人ノ比例ハ東京、大阪、神戸及其他各所ニ於ケル給水工ニ比較シ過大ナルノ觀ナキ能ハズト雖モ此ノ結果ヲ得ルニ至ラシムルニ二三ノ理由瞭々トシテ蔽フベカラザルモノアリ則チ第一給水取入所ノ距離比較的遠キガ爲メ第二該工事中多額ノ費用ヲ要スルハ當ニ現在ノ人口ノミニ對スル計劃ニアラズシテ其増加後二十七萬ニ對シテ豫メ完全ナルベキ計劃ヲ施シタル爲メ第三目下銀貨相場ノ激降セシニ依リ輸入物品ノ最不廉ナルガ爲メナリ是等ノ數點ハ工費每一人ノ比例ヲシテ大ナラシムルノ最大原因ナリ
今特ニ注意ヲ要スルモノアリ創設費ハ巨額ナリト雖維持費ニ至リテハ他ノ給水

工ニ比シ甚ダ小額ナルベシ東京及大阪ニ在リテハ日日供給スベキ水量ハ悉ク汽機唧筒ノ働作ニ依リ汲上グルノ必要アルヲ以テ日常ノ作業費及維持費ハ莫大ナリト雖モ此ノ計劃ニ係ル名古屋市給水工ニ於テハ自然流下ノ作用ヲ利スルガ爲メ汽機ヲ運轉シ唧筒ヲ使用スルガ如キ作業費ナク從ヒテ機械ノ裝置ヲ要スルコト少ナキヲ以テ維持費モ亦多額ヲ要セザルベシ。

精確ナル設計及ビ工費ノ算出ニ關シ必要ナル事項左ノ如シ。

- (一) 入鹿池及縮切堰堤ノ斷面ニ付精密ナル測量
- (二) 縮切堰堤ノ下ニ於ケル淨水溜池及ビ濾水池ニ關シ必要ナル部分ニ付精密ナル測量

- (三) 入鹿池ヨリ名古屋市ニ至ルベキ適當ナル導水線路ノ測量

目下賣品タル名古屋市街ノ地圖ハ同市中配水ノ設計ヲ爲スニ充分ナルモノナリ、
明治二十七年六月

ダブルユー、ケーバルトン

爾今定時(假令一ヶ月一回)ニ於テ入鹿水ヲ汲ミ取リ化學的分析ヲ施行スルコト

ニ一日モ速ニ着手セラレンコトヲ望ム。

其後技師針塚辨太郎に命じ全市地盤の高低を測量せしめたることあり、爾來理事者は右バルトン氏意見書に現はれたる工費百七十五萬圓の調達に關し審査考慮したり、然るに當時市の財政は到底之れが財源を發見すること能はざる状態なるを以て遂に已むを得ず、時期尙早の名の許に延期することゝなれり。

右の如く本市水道の原始的計劃は遺憾ながら其儘没却せられたりと雖も、其の意見書に依りて本市水道の必要なる所以を一層明瞭にし且水道工事に對する概念を與へたるバルトン氏の功は實に没す可からざるものと謂ふべし。

第三章 計 劃

第一節 原計劃

バルトン氏の給水工事に關する意見書提出後、市區の膨脹は暫くも底止せず、人家滋々稠密となり、淨水の全備、汚水の排泄頗る困難を極め、之れが處置は須臾も等閑に付す可らざるにより、市會議員加藤重三郎、北川乙治郎、服部小十郎、祖父江道雄、安東敏之、上遠野富之助、澤田吉兵衛、安藤清次郎、山田才吉は市參事會員吉田祿在と共に水道布設の急務なるを唱へ、之れが遂行に關し屢々意見の交換を爲し、明治三十五年市會に建議して市長に水道布設案の提出を迫れり。

茲に於て市長青山朗は同年四月七日調査費用に付市會の決議を求め愛知縣技師工學士上田敏郎に囑託し水道調査事務所を市立商業學校内(中區南鍛冶屋町現今市立第一高等女學校)に開設し水道布設の計劃を進ましめ漸く具體的色彩を負ふに至れり。

依て囑託技師上田敏郎は先づ水源地の位置を解決せんが爲め、山間に聚蓄池を設くる案、外庄内川、入鹿池、木曾川等の四案を樹て、部下技術員を督勵し各案に對し精査し

たる結果バルトン氏の入鹿池水を引用し自然流下式に據るを廢し愛知縣丹羽郡犬山町地内より木曾川の河水を引用し唧筒を以て愛知郡東山村大字田代の山頂に壓送の上配水することゝなし明治三十六年十二月左の成案を報告したり。

報 告 書

曩ニ當市溝渠改修ニ關スル調査ヲ了シ客年八月再ビ又上水道布設調査ノ囑託ヲ受ケ今爰ニ完結ヲ告ゲ別紙目錄ノ通り閣下ノ劉覽ニ供スルヲ得テ光榮更ニ一段ヲ加ヘタリ且這般モ亦囑託技師山崎禮三、井上喜二郎其他技術員諸氏ノ勤勉ト仁村市土木課長ノ助力トハ共ニ其ノ勞ヲ多トスル處ナレバ併テ之ヲ閣下ニ披陳セザルヲ得ズ。

右謹デ報告ス

上水道布設調査囑託技師

工學士 上 田 敏 郎

明治三十六年十二月

名古屋市參事會

名古屋市長 青 山 朗 殿

上水道布設方法

豫定人口及使用水量

本市上水道布設ノ計劃ヲ立ツルニ當リ第一ニ定ムベキハ豫定人口及使用水量ナリ
 戸籍統計表ニ依リテ見レバ毎年平均一萬内外ノ増殖ヲ來スガ故ニ下水道ノ計劃ニ當リテハ四十六萬人ヲ目的トシタリ而シテ下水道ハ市區域ノ擴張ニ從ヒ豫定人口以上ニ及ブトキハ漸次下水管ヲ増設セバ足ルベシト雖モ上水道ハ水源遠ク數里ノ上ニ出デ送水工事ニ多額ノ工費ヲ要スルガ故ニ數年ヲ經ズシテ更ニ増設ヲナスハ頗ル不利益ナリ假令ハ徑三尺ノ圓管二本ノ流量ハ徑四尺ノ圓管一本ノ流量ニ及バズ然ルニ管ノ價格及敷設費ハ大ナル相違ナキヲ以テ計劃ヲ定ムルノ當時深ク人口ノ増殖ヲ考ヘ初メヨリ充分ノ大サトナスヲ得策ナリトス故ニ第一期豫定人口ハ下水調査ノ時ノ如ク四十六萬人ヲ標準トシ配水工事等ハ之ニ依リテ計劃スベキモ水源及送水ニ係ル工事ハ第二期豫定人口ヲ六十萬人トシ計劃スルヲ可ナリト信ズ又使用水量ハ我國既成水道中其最モ多量ナルハ東京市ノ二

十四番即チ四立方尺ナレバ之ヲ標準トシ當市ニ於テモ一人一日ノ平均使用水量ヲ四立方尺(一立方尺ハ一斗五升四合二六)即チ六斗一升七合トセリ而シテ第二期豫定人口六十萬人ニ要スル一日ノ水量ハ實ニ二百四十萬立方尺(三十七萬〇二百二十四石)一分時ニ千六百六十七立方尺(二百五十七石餘)一秒時に二十七立方尺八(四石二斗八升八合)ヲ要スル計算ナリ。

水源

第二ニ研究スベキハ水源ヲ何レニ採ル乎ニアリ本市上水道ノ水源トシテハ

- 一、山間ノ溪谷ニ聚蓄池ヲ設ケ雨水ヲ貯蓄スルコト
 - 二、庄内川ノ河水ヲ引用スルコト
 - 三、入鹿池ノ貯水ヲ分配スルコト
 - 四、木曾川ノ川水ヲ引用スルコト
- 第一項聚蓄池ヲ設ケ雨水ヲ貯蓄セントスルニハ堰堤ヲ設クルニ適當ナル溪谷ヲ選ミ且其溪谷ノ流域ハ年々ノ雨量ヲ考ヘ相當ノ面積ヲ有セザル可カラズ愛知縣測候所ニ於テ調査シタル既往十年間ノ當市平均雨量ハ左表ノ通りニシテ

名古屋市雨量表

月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	總計	
既往十ヶ 年平均均	五二〇	六七四	二四〇	一六三	四一八	五二四	四一八	六七一	四九一	三三〇	一四五	一〇一	三六四	一七〇

總雨量ハ一ヶ年平均千七百一耗五ナレドモ内五割ハ空中ニ蒸發シ又ハ地中ニ滲入シ去ルモノトスレバ殘餘ノ五割丈ケ使用ニ供スルヲ得ベキモノナリ其量は即チ千八百五十耗七五ニシテ曲尺二尺八寸〇七厘五毛ニ當ル而シテ豫定人口六十萬人ニ對シ一ヶ年ノ所要總水量ハ八億七千六百萬立方尺ナレバ流域反別ハ二千八百八十九町歩餘ヲ要スル計算ニシテ斯ノ如キ廣大ナル溪谷ハ到底市近傍ニ之レヲ覓メ難ク唯東春日井郡水野村ニハ聚蓄池ヲ設クルニ適當ナル場所ナキニアラザレドモ該村ニハ少ナカラザル稻田アルヲ以テ其灌溉用水ヲモ貯溜セントスルニハ不足ノ憾ナシトセズ。

第二項庄内川ノ流域ハ岐阜縣ニ亘リ廣大ナル面積ヲ有スルヲ以テ春秋ノ候ニ於テハ多量ノ流水アリト雖モ夏季旱魃ノ際ハ甚シク涸渴シ且各所ニ於テ田用水ニ引用スルガ故ニ枇杷島町附近ニ至リテハ往々一滴ノ流水ナキコトアリ明治三十六年二月二十二日及八月二十七日ノ兩度下街道勝川橋下ニ於テ該川ノ水量ヲ調査シタルニ前者ハ一秒時ノ平均流量四百五十四立方尺ヲ算シタルドモ後者ハ二百二十四立方尺ニ減少シタリ而シテ其下流ニ於ケル井組ノ灌溉反別ヲ調査スルニ

庄内井組	灌溉反別三千九百六十町五反五畝十一歩
川中井組	同 百十三町五反二畝歩
大野木井組	同 六十九町八反四畝二十三歩
上小田井井組	同 百二十七町歩
中小田井井組	同 百六町二反九畝二十七歩
合計	四千三百七十七町二反二畝壹歩

右ノ通ニシテ假ニ灌溉用水ハ百町歩ニ付一秒時六立方尺ヲ要セズトセバ合反別ニ對シ二百六十二立方尺六三トナリ前記庄内川ノ流量ニテハ不足スル計算ナリ故ニ猶此中ヨリ分水シテ本市ニ供給セントスルニハ井組ノ爲メニ相當ノ設備ヲ

加へザル可ラス。

第三項入鹿池ニ注入スル八曾川及今井川ノ流域反別ハ愛知縣ニ於テ調査シタル處ニテハ壹千七百六十四町歩餘ナリト云フニヨリ第一項ニ述ベタル面積ノ計算ニ比ブレバ分配スベキ餘裕ハ勿論全部ヲ上水道ノ水源トスルモ猶ホ聊カ不充分ナリトス又該地ノ灌溉反別ハ丹羽、東春日、井兩郡ニ於テ千四百十七町歩餘ニシテ貯水量ハ四億二千七百百萬立方尺ナリト云フ今灌溉時期中即チ六月十日ヨリ九月二十日迄凡ソ百日分ノ所要水量ヲ計算スルニ百町歩ニ付一秒時間六立方尺ノ割合ヲ以テスレバ千四百十七町歩ニ對スル量ハ七億三千四百五十七萬二千八百立方尺ナリ然ルニ犬山町ニ於ケル既往十ヶ年間ノ平均雨量ハ左表ノ通ニシテ

犬山町雨量表

月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	總計
十ヶ年平均	五七、九	七六、六	一四四、四	一八〇、九	一六、五	二二六、九	二三五、二	二七、二	三五、六	二四八、一	一〇、三	五〇、八	一八八三、一

一ヶ年ノ總雨量ハ千八百八十三耗一ナレドモ灌溉時期中ニ於ケル雨量ハ七百八

十五耗七ニシテ其五割丈ケ使用セラレ、モノトセバ流域反別ニ對シ二億四千七百五萬七千六百十八立方尺ナリ之ニ前記貯水ノ量四億二千七百萬立方尺ヲ加フルモ六億七千四百〇五萬立方尺餘ニ過ギザレバ所要量ニ達セザルコト六千〇五十一萬立方尺ナリ此ノ不足ハ直接田面ニ降下スル雨水ニ依リテ補ハル、モノトスルモ決シテ十分ノ量トナスヲ得ズ加之ナラズ該地ノ放出口ハ不完全ニシテ從來池底ノ水ハ殘ラズ排出シタルコトナキニヨリ曩ニ改築工事ヲ施シ可成多クノ水ヲ灌溉ニ供セントスル狀況ナレバ之レヲ本市上水道ノ水源ニ充ントスルモ到底實行シ難キ處ナリ。

第四項木曾川ハ本邦三大川ノ一ニ數ヘラレ水量ノ豊富ナル今更喋々スルニ及バズ水質モ亦頗ル佳良ニシテ且河床ハ多ク岩石ヨリ成ルヲ以テ洪水ノ際ト雖モ甚シキ混濁ヲ生セズ假令混濁ヲ來スモ時日ヲ經ズシテ清澄ニ復スルハ該川ノ特色ナリトス。

如上ノ結果ニ依リ工費ノ多寡ヲ比較精査シタル上丹羽郡犬山町ニ取水口ヲ設ケ木曾川ノ河水ヲ引用スルコトニ決定シタリ右取入口ニ於ケル河水ノ水質試験表

ハ別紙ノ通りナリ。

送水工事

前述ノ如ク取入口ハ丹羽郡犬山町舊城橋下ニ之ヲ設ケ同町南端木津用水樋門ノ脇マデ長六百九十四間九分ハ隧道トス夫レヨリ同郡高雄村現在扶桑村大字高雄小口村現在大口村大字小口富成村現在大口村大字河北樂田村ヲ經テ東春日井郡久保一色村現在味岡村大字久保一色ニ入り味岡村陶村現在篠岡村ヲ過ギ田樂村(現在鷹來村大字田樂)鐵管接續井ニ至ル其長サ七千七百〇八間七分ニシテ築堤若クハ掘鑿ヲ施シ送水暗渠を埋設ス尤モ大山川其他水路ヲ横斷スル箇所ニハ河底ニ鐵管ヲ布設シ伏越トナス而シテ接續井以下ハ内徑四十八吋ノ鋼鐵管ヲ用ヒ東春日井郡下原村現在篠木村大字南下原八幡村現在篠木村大字八幡和爾良村現在鳥居松村大字和爾良柏井村現在勝川町大字柏井小野村現在鳥居松村大字松河戸二城村小幡村現在守山町大字小幡及西春日井郡六郷村ヲ經テ愛知郡鍋屋上野村(現在東山村大字鍋屋上野)ノ淨水場ニ達ス此間長五千八百五十間ニシテ小野村二城村界ニ於テ水管橋ニ依テ庄内川ヲ跨ヘ二城村六郷村界ニ於テ河底ニ水管ヲ埋

設シテ矢田川ヲ横斷ス右ノ如キ順序ニシテ隧道ハ勾配二千分ノ一暗渠ハ勾配三千分ノ一トシ鐵管ニハ總長ニ對シ三十五尺ノ水頭ヲ與ヘ水量ハ第二期豫定人口六十萬人ヲ目的トシ之レニ洗滌用水等ヲ加ヘタルモノニテ一秒時ニ付隧道ハ三十七立方尺七暗渠ハ三十八立方尺七鐵管ハ三十六立方尺ヲ送ルニ足ルモノトス又水位ハ犬山町ニ於ケル木曾川ノ平水面ハ基線上百五十七尺六寸九分ニシテ取水口豫定水位ハ百五十四尺八寸二分八厘隧道出口百五十二尺七寸四分四厘田樂村接續井ニ於テ百三十六尺トス右水位ノ基線ハ熱田灣干潮面以下三十尺ヲ零位トシタル高サニシテ以下同斷ナリ。

右ノ如クニシテ淨水場ニ達シタル水ハ取水唧筒ニ依リ第一量水池ヲ經テ給水渠ニ入り夫レヨリ沈澱池ヘ送ラレ爰ニ一晝夜以上靜止シ浮游物ヲ沈澱セシメタル後給水渠ヲ經テ濾過池ニ入り砂床ヲ通過スルニ當リ微粒ノ汚物ヲ漉止シ且細菌ヲシテ有機物ヲ分解シ全ク無害ノ成分トナス然ル上第二量水池ヲ過ギ再ビ唧筒場ニ導キ壓送唧筒ニ依リテ第三量水池ヲ通シテ配水池ニ揚水シ辨室ヲ經テ配水管ニ入り市街ニ給水スル順序ナリトス。

沈澱池

沈澱池ノ容量ハ二分ヲ容ル、ニ足ルモノトス即チ第一期人口ニ對シテハ三百六十八萬立方尺第二期人口ニ對シテハ四百八十萬立方尺ノ容積ヲ要ス。沈澱池一個ノ大サハ上口ニ於テ長四百三十五尺幅二百七十三尺ニシテ一割五分ノ傾斜ヲ付シ總深ハ十七尺ニシテ内水面上二尺水中十五尺ナレドモ上ハ水十二尺分ヲ使用スルガ故ニ有効容積ハ百二十二萬九千三百六十四立方尺ニシテ第一期ニ於テハ三個(合容積三百六十八萬八千〇九十二立方尺)ヲ設ケ第二期ニ及ビテ一個ヲ増設シテ四個(合容積四百九十一萬七千四百五十六立方尺)トス。沈澱池ノ構造ハ四方ノ傾斜面ヲ面一尺控一尺二寸ノ石張トシ其裏面ニハ厚八寸ノ混凝土ト厚一尺五寸ノ粘土トヲ搗固メ石張ノ上端ニハ厚七寸幅一尺二寸ノ笠石ヲ置ク又底ハ下層ニ厚一尺五寸ノ粘土ヲ敷キ上層ハ厚一尺ノ混凝土トシ掃除ニ便ナラシメンガ爲メ高一尺幅一尺ノ石材ヲ以テ縦ニ七條ノ中仕切ヲ設ク入口ハ二十吋管ヲ以テ沈澱池給水渠ニ取付ケ出口ニハ「フロート」付二十吋管ヲ備ヘ水面ノ昇降ニ伴ヒ常ニ水面下二尺ノ水ヲ採取ス又各地ノ隔壁ニハ聯絡管ヲ設ケ溢

水管ヨリ殘水ハ排水管ヨリ排除スルモノトス。

沈澱池給水渠ノ水位ハ基線上百三十一尺沈澱池ノ滿水面は百三十尺ニシテ其ノ底ハ入口ニ於テ百十五尺出口ニ於テ百十四尺トス。

濾過池

濾過ノ速力ハ一晝夜ニ定時ハ八尺トスト雖モ若シ不時ノ入用ニ依リ配水池ノ水量ニ缺乏ヲ來シタルトキハ之レヲ回復スル爲メ一晝夜ニ十尺迄ノ速力トナスコトヲ得故ニ定時ノ速力ニ依リ濾過池ノ面積ヲ算スレバ第一期人口ニ對シテハ二十三萬平方尺ヲ要シ第二期人口ニ對シテハ三十萬平方尺ヲ要ス。濾過池ノ大サハ長百八十尺幅百三十二尺此ノ面積二萬三千七百六十平方尺ニシテ第一期ニ於テハ十二個ヲ設ケ内二個ハ交互休止スルモノトシ常ニ十個(合面積二十三萬七千六百平方尺)ヲ使用ス又第二期ニ及ビテハ四個ヲ増設シテ十六個トシ内三個ハ交互休止スルモノトシ常ニ十三個(合面積三十萬八千八百八十平方尺)ヲ使用ス。

濾過池ノ周壁ハ煉瓦ヲ以テ築造シ高八尺六寸ニシテ一分ノ堅勾配ヲ付シ上部ニ

於テ一尺一寸二分五厘下部ニ於テ二尺七寸三分五厘トス其上端ニ厚七寸幅二尺ノ笠石ヲ置キ其裏面ニハ厚一尺八寸七分五厘ノ混凝土ト厚一尺五寸ノ粘土トヲ填充シ底ハ下層ニ厚一尺五寸ノ粘土ヲ敷キ上層ハ厚一尺ノ混凝土トシ其上ニ間隙ヲ隔テ、煉瓦二タ通ヲ配列シ厚一尺五寸ノ礫ヲ積ミ更ニ厚二尺五寸ノ細砂ヲ布ク而シテ水深ハ常ニ三尺ヲ保タシメ水面上ハ笠石ノ下端迄一尺ノ餘地ヲ存ス又入口ハ濾過池給水渠ヨリ十六吋管ヲ取付ケ之ヨリ入りタル水ハ細砂ニヨリテ濾過セラレ礫及ビ煉瓦ノ孔竅ヲ通シテ中央ニ設ケタル方一尺五寸ノ石造暗渠ニ集マリテ出口ニ向フ出口ニハ煉瓦ヲ以テ築造シタル半橢圓形ノ集水室ヲ備ヘ整調器ヲ經テ集水管ニ落チ第二量水池ヲ過ギテ唧筒場ニ送ルモノトス而シテ濾過池ハ二個ヲ以テ一組トシ兩池ノ間ニハ上部ニ於テ三尺下部ニ於テ四尺七寸二分ノ隔壁ヲ設ケ其ノ面ハ一分ノ堅勾配ヲ有スル煉瓦積トシ内ニハ混凝土ヲ填充ス又出口ノ兩隅ニハ溢流管ヲ設ケ餘水ヲ放出セシムルノ用ニ供シ殘水ハ集水室ニ設ケタル排水管ヲ經テ下水管ニ排出ス。

濾過池給水渠ノ水位ハ基線上百十七尺ニシテ濾過池ノ水面ハ百十六尺五寸四圍

ノ地盤ハ百十八尺トス。

唧筒場

唧筒場ハ二室ニ分チ一ハ取水唧筒室及ビ壓送唧筒室トシ一ハ汽罐室トス。取水唧筒機械ハ送水鐵管ノ末端ナル給水井ヨリ沈澱池へ揚水スルモノニシテ豎形倒置複式凝結式トシ第一期人口ニ對シテハ三臺ヲ備ヘ内一臺ハ豫備トシ常ニ二臺ヲ使用ス尤モ給水井ノ最低水位ハ基線上百〇一尺ノ豫定ニシテ濾過池給水渠ノ水位ハ百三十一尺ナレバ唧筒ノ揚程ハ三十尺ナレドモ送水鐵管入口田樂村接續井ト沈澱池トハ六尺ノ落差アルヲ以テ一人一日ノ平均使用量ヲ四立方尺トセバ人口三十二萬人迄ニ給水スベキ水量ハ自然流下ニ依リ直ニ沈澱池へ流送スルヲ得ルガ故ニ取水唧筒ハ當分ノ内使用セザルモ差支ナキ見込ナリ而シテ取水唧筒ノ功程ハ一臺一晝夜ニ百萬立方尺ノ水ヲ三十尺ノ高サニ抽出スルニ足リ各八十馬力ヲ有スルモノトス右水量ハ掃除及ビ洗淨用等ノ水ヲ見込ミタルモノニシテ一人一日ノ平均量ハ四立方尺三四五ニ當ル。

壓送唧筒機械ハ濾過水ヲ配水池ニ壓送スルモノニシテ横置三回膨脹テウブレツ

クス「ウオルシントン」式トシ是亦三臺ヲ備ヘ常ニ二臺ヲ使用ス而シテ濾過水ノ最低位ハ基線上百十三尺五寸ノ豫定ニシテ配水池ノ満水面ハ百九十二尺ナレバ揚程ハ七十八尺五寸ナリ故ニ唧筒ハ各二百十馬力ヲ有シ取水唧筒ト同ジク一晝夜ニ百萬立方尺ノ水ヲ唧送ス右水量ハ不時ノ入用ニヨリ配水池ノ水量定位以下ニ下リタルトキ之レヲ補充スルニ足ルノ餘力アラシムモノナリ、
汽罐ハ「ランカツシャ」型ノモノ八個ヲ備ヘ常ニ四個ヲ使用シ前記ノ唧筒ニ蒸汽ヲ供給ス若シ又必要ノ場合ニ於テハ他ノ四個ニモ點火シ蒸汽需要ノ不時ノ増加ニ應ゼシム。

第一人口ニ對シテハ以上ノ設備ニテ足ルト雖モ第二期ニ及ブ時ハ唧筒ハ各一臺ヲ増加シ四臺ヅツトシ常ニ三臺ヲ運轉シ汽罐モ亦四個ヲ増加シテ十二個トシ半數六個ヲ常時ノ用ニ充ツ此ノ場合ニ於テハ一晝夜ニ合計三百萬立方尺ノ水ヲ揚水シ人口六十萬人ニ對シ一人一日五立方尺ヲ給水スルニ足ルモノトス故ニ唧筒場ハ豫メ此増加ニ要スル餘地ヲ見込ミ且基礎家屋等ハ便宜上其全部ヲ第一期ニ於テ建築スル設計ナリ。

配水池

配水池ノ容量ハ十二時間分ヲ貯フルニ足ルモノトス即チ第一期人口ニ對シテハ九十二萬立方尺第二期人口ニ對シテハ百二十萬立方尺ス要ヲ
配水池ノ大サハ長二百五十二尺幅百〇八尺ニシテ總水深ハ入口ニ於テ十三尺出口ニ於テ十四尺ナレトモ有效水深ハ十二尺ナルヲ以テ容積ハ三十一萬〇八百十八立方尺(支柱等ノ積ヲ控除シタルモノ)ニシテ第一期ニ於テ三個(合容積九十三萬二千四百五十四立方尺)ヲ設ケ第二期ニ及ビテ一個ヲ増設シテ四個(合容積百二十四萬三千二百七十二立方尺)トナス。

配水池ノ周壁ハ水ノ横壓力ニ耐ヘシムル計算ヲ以テ上部ニ於テ四尺五寸下部ニ於テ七尺四寸ノ厚ヲサ有スル煉瓦積トシ其裏面ハ厚一尺五寸ノ粘土ヲ以テ搗固メ表面ニハ一分ノ堅勾配ヲ付シ底ハ下層ニ厚二尺ノ粘土ヲ敷キ上層ハ厚一尺ノ混凝土トス而シテ各池ノ中間ニハ兩面ニ一分ノ堅勾配ヲ與ヘ周壁ト同一ノ厚サヲ有スル煉瓦積ノ隔壁ヲ設ケ其上部ニ幅二尺二寸五分ノ通路ヲ作り其ノ兩端ニハ扉及階段ヲ備ヘ出入ニ便ナラシム又池内ニハ縦ニ十四通り横ニ六通り合計八

十四個ノ煉瓦支柱ヲ樹テ横ノ方六個ノ支柱ト同壁及隔壁トヲ連結シテ厚一尺五寸ノ「アーチ」七個ヲ造リ煉瓦及ビ石材ヲ以テ其ノ上端ヲ同一ノ高サトシ之ヲ基礎トシテ更ニ縦ノ方十四通り分ノ聯成壁ト周壁トヲ連結シテ同厚ノ「アーチ」十五個ヲ設ケ覆蓋トシ其ノ上部ハ混凝土及漆喰ヲ填充シ盛土ヲナシタル上表面ニハ張芝ヲ施シ四方ノ端ニ笠石ヲ置ク又池内ノ空氣ヲ清潔ナラシメンガ爲メ上層ニ於ケル「アーチ」ノ兩端ニハ窓ヲ設ケ且「アーチ」ノ頂點ヨリ盛土張芝ヲ通シテ鐵製ノ空氣拔ヲ樹立シ以テ換氣ノ用ニ供ス猶又入口は二十吋管出口及ビ隔壁ノ聯成管ハ二十四吋管ヲ以テシ餘水及ビ殘水ハ溢流兼排水管ニ依リテ排除スルモノトス而シテ配水池ノ満水面ハ基線上百九十二尺有效水底ハ百八十尺ニシテ四圍ノ地盤ハ百九十四尺上部笠石ノ上ニ於テ百九十九尺二寸ニ築造ス。

配水工事

配水幹線ハ配水池ヨリ分水シテ三十六吋管二條トシ千種村(現在千種町)地内ヲ經テ一ハ京町通りニ一ハ廣小路通りニ布設シ共ニ本町筋ニ至リ交互連絡セシム單ニ經濟上ヨリスレバ一條トナス方得策ナレドモ萬一管中ニ故障ヲ生ジタルトキ

ハ同市ニ向ヒテ供給ヲ絶ツノ恐アルヲ以テ市ノ中央迄ハ二條トスナラ安全ナリトス而シテ本町筋ニ於テ連絡シタル後廣小路線ハ分岐シ一ハ南ニ向ヒテ熱田境ニ至リ一ハ西ニ向ヒテ笹島町ニ至リ主トシテ廣小路以南ノ市街ニ給水シ京町線ハ城内ニ入り西ニ走リテ枇杷島境ニ達シ廣小路以北ノ市街ニ給水ス。

京町幹線三十六吋管ハ車道町ニ於テ北へ十二吋管ヲ分岐シ第一區ニ給水シ南へ十六吋管ヲ分岐シ第二區ニ給水ス又相生町ニ於テ北へ十四吋管ヲ分岐シ第三區ニ給水シ其以下幹線ハ三十吋管トナリ鍋屋町ニ至リ北へ十二吋管ヲ分岐シ第四區へ給水シ久屋町ニ於テモ亦北へ十二吋管ヲ分岐シ第五區ニ給水シ更ニ又伊勢町ニ於テ南へ十六吋管ヲ分岐シテ第六區へ給水シタル上本町角ニ至リ三十吋管ニテ廣小路幹線ト連絡ス同所ニ於テ第七區へ給水スル爲メ十六吋管ヲ分岐シタル後幹線ハ二十四吋管トナリ大手門ヲ入り離宮前ヲ過ギ大幸橋ヲ踰ヘ鹽町ニ於テ南へ十四吋管ヲ分岐シ第八區ニ給水ス而シテ此ノ十四吋管ハ五條橋ニ至リ笹島幹線ヨリ第十五區へ給水スル十四吋管ト連絡ス夫レヨリ幹線ハ十八吋管トナリ北鷹匠町へ十吋管ヲ分岐シテ第九區ニ給水シタル後十六吋管トナリ江川端町

ニ於テ第十區へ給水スル爲メ八吋管ヲ分岐シテ十四吋管トナリ第十一區ニ入りテ平野町ニ於テ八吋管ヲ八坂町ニ於テ六吋管ヲ分岐シ十二吋管トナリテ枇杷島町境ニ達ス。

廣小路幹線三十六吋管ハ第十二區へ給水スル爲メ東田町ニ於テ十四吋管ヲ又第十三區へ給水スル爲メ南武平町ニ於テ十二吋管ヲ分岐シ本町角ニ至リ三十吋管ヲ以テ京町幹線ニ連絡シ同所ニ於テ熱田町境ニ至ル本町幹線三十吋管ト笹島町ニ至ル笹島幹線二十四吋トノ二條ニ分岐ス。

笹島幹線二十四吋管ハ南伏見町ニ於テ第十四區へ給水スル爲メ十六吋管ヲ分岐シテ二十吋管トナリ納屋橋ヲ過ギ舟入町ニ於テ北へ十四吋管ヲ分岐シテ第十五區へ給水ス此十四吋管ハ五條橋ニ於テ京町幹線ヨリ第八區へ給水スル十四吋管ニ連絡スルモノニシテ以下幹線ハ十二吋管トナリ第十六區ニ入りテ南禰宜町ニ於テ十吋管ヲ分岐シタル後八吋管トナリ笹島停車場ニ至ルモノトス。

本町幹線三十吋管ハ末廣町ニ於テ東へ十二吋管ヲ分岐シ第十七區ニ給水シテ二十四吋管トナリ門前町四丁目、五丁目界ニ於テ東へ十四吋管ヲ分岐シテ第十八區

ニ給水シテ二十二吋管トナリ更ニ同町六丁目、七丁目界ニ於テ西へ十二吋管ヲ分岐シ第十九區ニ給水シテ二十吋管トナル而シテ桶町、古渡町界ニ於テ東へ第二十區へ給水スル十二吋管ヲ分岐シタル後十八吋管トナリ下茶屋町ニ於テ西へ第二十一區ニ給水スル八吋管及ビ古渡町四丁目、五丁目界ニ於テ西へ第二十二區へ給水スル十吋管ヲ分岐シテ十六吋管トナリ古渡町六丁目ニ於テ東へ八吋管ヲ分岐シ第二十三區へ給水シタル後十四吋管トナリ熱田町境ニ達シ鐵道線路以南ノ第二十四區へ給水スルモノトス。

各區域ノ豫定人口及ビ給水量ハ左表ノ通りニシテ第一期豫定人口ヲ四十六萬人トシ左ノ通り増殖比率ヲ立テ計算シタルモノナリ。

明治三十三年末	現在一人ニ付占有スル面積三坪五合以内ハ	現在ノ儘
同	五坪以内ハ	一人ニ付
同	七坪以内ハ	同
同	十坪以内ハ	同
		三坪五合トス
		四坪五合トス
		六坪トス

名古屋水道誌

同 同 同

十五坪以内ハ
二十坪以内ハ
二十坪以上ハ

同 同 同

四六
七坪五合トス
九坪トス
十八坪トス

各區域豫定人口及ビ給水量

區域	豫定人口	給水量	
		一日ニ付	一秒時ニ付
第一區	一八、二七四	七三、〇九六	〇、八四六
第二區	三六、九四七	一四七、七八八	一、七一
第三區	二二、八六三	九一、四五二	一、〇五九
第四區	一六、四一七	六五、六六八	〇、七六〇
第五區	三、二六二	一三、〇五二	〇、一五一
第六區	二九、九四八	一一九、七九二	一、三八六
第七區	三一、〇七一	一二四、二八四	一、四三八
第八區	三〇、九九一	一二三、九六四	一、四三五
第九區	一三、五四二	五四、一六八	〇、六二七
第十區	一一、三〇九	四五、二三六	〇、五二四

區域	豫定人口	一日ニ付	一秒時ニ付
第十一區	一一、八六二	五一、四四八	〇、五九五
第十二區	三三、四五八	一三三、八三二	一、五四九
第十三區	一八、五六二	七四、二四八	〇、八五九
第十四區	四〇、二五三	一六一、〇一一	一、八六四
第十五區	三六、九二三	一四七、六九二	一、七〇九
第十六區	一七、四九二	六九、九六八	〇、八一〇
第十七區	一四、八四六	五九、三八四	〇、六八七
第十八區	二二、八三〇	九一、三二〇	一、〇五七
第十九區	一八、五八二	七四、三二八	〇、八六〇
第二十區	一一、八二六	五一、三〇四	〇、五九四
第二十一區	五、〇四一	二〇、一六四	〇、二三三
第二十二區	七、〇三七	二八、一四八	〇、三二六
第二十三區	六、三九九	二五、五九六	〇、二九六
第二十四區	二、七〇四	一〇、八一六	〇、一二五
計	四十六萬四千四百四十人	百八十五萬七千七百六十一立方尺	二十一立方尺五〇一

配水管ハ總テ鑄鐵管ヲ用ユ而シテ其口徑ハ一日中ニ於テモ使用ノ量ニ増減アルヲ以テ最多量ハ平均量ノ二倍ト見積リ即チ一人一日八立方尺ヲ配送スルニ足ル

モノトシ且何レノ街衢ニ於テモ地上五十尺ノ高サニ騰水シ得ル水壓ヲ有セシムル様動水傾斜ヲ定メ計算シタリ猶又火災ノ場合ニ於テハ特ニ多量ヲ要スルニ依リ配水幹線ハ一分時ニ二百立方尺ノ水ヲ流送スルニ足ル餘裕ヲ加ヘタリ。

制水瓣ハ配水管中或ル一個所ニ故障ヲ生ジタルトキ修理ヲ加ヘンガ爲メ給水ヲ停止スルコトアルベキヲ以テ配水管中ノ要所ニ之レヲ設ク其數ハ多キ程停水區域ヲ小ナラシムルノ便利アレドモ爲ニ工費増加スルガ故ニ給水停止ヲ三町以上ニ及ボスコトナカラシムル見込ヲ以テ總數千七十六ヲ設置スルモノトス。

消火栓モ亦數ニ於テ多キヲ可ナリトスレドモ百五十尺乃至二百尺ノ距離ヘハ蛇管ヲ以テ送水スルヲ得ルガ故ニ概ネ市街ノ四ツ角ニ設置スルモノトス且又多量ノ水ヲ噴出セシメンガ爲メ可成六吋以上ノ管ニ取付クル様配置シ其總數ハ一千二百二十六ナリ。

量水器ハ配水池及配水管中ノ分水點ニ設ケ給水ノ總量若クハ各區域ノ消費水量ヲ計リ且之レニ依リテ鐵管破損等ノ爲メ漏水アルヤ否ヤヲ調査スルノ要ニ供ス其總數三十ナリ。

排氣瓣ハ鐵管内ノ空氣ヲ排除スル爲メ線路中ノ高所ニ之ヲ設ク總數七個ナリ

(付屬) 報告

愛知縣

依頼先 名古屋 市役所

一、木曾川

二種

番	號	所在地	第一號	第二號
所	在	羽丹郡犬山町舊城槽下	加茂郡八百津町渡船場	
外	觀	無色透明ニシテ僅微ノ沉淀アリ	同 上	
臭	味	異臭 味ナシ	同 上	
反	應	弱亞爾加里	同 上	
格	兒	二、四二	二、九四	
硫	酸	少	同 上	
硝	酸	僅	同 上	
亞	酸	無	同 上	
安	母	無	同 上	
過	滿	○、九二	一、五三	
酸	加			
溜	謨			
脫	色			
量				

固形物總量	三五、〇〇
硬度	〇、七〇
石灰
偏涇矢
細菌聚落數

.....	三二、五〇
.....	〇、六〇
.....
.....

固形物總量以上ノ項ニ掲ゲタル數ハ水一リットル(五合五勺餘)中ニ含有スル「ミ
 リグラム」〇、〇〇二七勿ナリ硬度ノ項ニ掲ゲタル數ハ獨逸法トス細菌聚落數
 ノ項ニ掲ゲタル數ハ水一立方センチメートル(〇、〇〇〇五五升)中ノ個數ナリ
 適否及ビ備考

右試驗成績ニ據レバ本水ハ二種共水質善良飲料ニ適ス

内務省東京衛生試驗所

明治三十六年一月二十六日

所長衛生試驗所技師藥學博士 田原良純

主任 衛生試驗所技手 山本正己

(付屬) 木曾川水源地中細菌検査成績

検査ニ使用セル水ハ左ノ三ヶ所ヨリ採取セリ

一、犬山城下水面下約六尺ノ部

二、同 水流中央水面下約三尺ノ部

三、同 水流ノ表面

右何レモ細菌學的検査ノ原則ニ從ヒ「ゲラチン」扁平培養ヲ行フ(一)、(二)ノ水ハ何レ
 モ其一立方センチメートル中細菌ノ含有數百個以内(三)ハ百四十個ヲ算セリ而シ
 テ右三種中含有スル分裂菌(非病原菌)ニシテ皆「ゲラチン」ヲ溶解スノミニシテ其他
 病原菌等ヲ含有セズ(三)ノ水中ニ於テハ數個ノ醱酵菌ヲ證明セリ検査當時氣溫攝
 氏十二度水中ノ溫度攝氏七乃至八度ヲ示セリ
 検査ノ爲ニ採取セル水ハ何レモ無色無臭透明ニシテ毫モ濁濁等ヲ有セズ之ヲ五
 日間貯藏セルモ生活有機體等ヲ發生セズ又少許ノ沈澱物ヲモ生ゼザリシ
 右及報告候也

明治三十六年十二月十九日

醫師 青井恒次郎

醫師 谷 峯太郎

名古屋市長 青山 朗殿

前記計劃書に基き市長青山朗は同年十二月上水道布設の實施を爲さんことを市會

に諮問したり然るに當時恰も東亞の風雲急を告げ未だ之れが決定を見るに至らずして日露砲火を交ゆるに至りたるを以て水道問題は茲に一頓挫を來し之を他日に譲らざるを得ざるの不幸に接せり
越えて明治三十八年の秋平和克復するや市會は前議を繼續し三十九年一月二十三日當時の市會議長上遠野富之助は左の答申をなし本計劃の前途に有力なる決定と希望とを與へたり

明治三十六年諮問案第二號上下水道ノ布設ハ必要ト認ム

但シ曩ニ調査セラレタル事項ニ變更ヲ生ジタル點及ビ爾來經濟上ノ事情ニ依リ計劃ニ影響スベキ點ニ付テハ更ニ調査ヲ加ヘ成案ヲ本會ヘ提出セラルベキモノトス

是に於て同年四月四日左の案件と共に上水道布設繼續歳入出總計豫算及び上水道公債募集及償還方法設置の件並に上下水道特別會計規程設置の件上水道布設費中工費に對する三分の一國庫補助稟請する件等の議案を市會に提出したり
明治三十九年度第八號議案

上水道敷設施行ノ件

本市上水道敷設ノ爲メ明治四十年年度ヨリ向五ケ年度繼續トシテ之レガ工事ヲ施行ス

當時本市は人口三十萬七千餘を抱擁し有數なる都市の列に在りと雖も市營事業として上水道布設の如きは實に空前の大工事なるを以て其實施時期に就き宜しく慎重考査を要す可しとの理由を以て市會全員委員を選び其會に於て更に主査委員十五名を選擧することとなれり

- | | |
|-----|-------|
| 委員長 | 加藤重三郎 |
| 委員 | 安東敏之 |
| | 北川乙治郎 |
| | 白石半助 |
| | 山本九八郎 |
| | 服部小十郎 |
| | 澤田吉兵衛 |

長谷川 科七
 藍川 清成
 小鹽 美之
 山田 才吉
 鈴木 惣兵衛
 伊藤 由太郎
 馬場 又三郎
 野村 朗

主査委員は同年四月十六日第一回會議を開き六月六日其終局に至るまで會を重ねること十一回、其間單に机上の講究を以て足れりとせず委員は市參事會と共に二團に分れ既設各都市の狀況を視察することとし一半は五月十日出發當市以東へ他の一半は同月十一日出發本市以西の各市に至り視察することとせり

東部視察員

市參事會員 天野 景治

同 青山 鐵四郎
 主査委員 長谷川 科七
 同 鈴木 總兵衛
 同 服部 小十郎
 同 山田 才吉
 同 山崎 禮三
 名古屋市技師 山崎 禮三
 名古屋市書記 青木 次郎吉

行程

五月十日十一日東京市、十二日横濱市、十四日仙臺市、十六日函館市、十八日秋田、青森市、十九日秋田市、二十日盛岡市、二十二日東京市、二十三日横濱市、二十四日歸名

西部視察員

市參事會員 土井 勝清
 同 安藤 清次郎
 同 大喜多寅之助

主査委員	加藤重三郎
同	安東敏之
同	北川乙治郎
同	山本九八郎
同	澤田喜兵衛
同	馬場又三郎
名古屋市技師	上田敏郎
名古屋市技師	加藤光春

行程
五月十一、十二日大阪市、十三日神戸市、十四日岡山市、十五日廣島市、十七日下ノ關市、十九日神戸市、同日歸名

右一行は各市當事者に就き所見を質し施設の全般に涉りて精細なる講究を遂げ各地水道事業の成績良好なるを見て其施設の緊要なるを感じ事業經營上必要なる諸規程圖面公債に關する計劃書等を齎し歸著の上六月六日を以て本案に對する可否

の決議を爲さんが爲め最終の委員會を開催せり委員中市の財政狀態又は市民生活の程度より時期尙早を理由とせる有力なる反對ありしも主査委員長加藤重三郎主査委員北川乙治郎野村朗澤田吉兵衛等熱心施行説を主張し同日續いて開會せられたる臨時市會に於て討議の結果本案を否とするもの六名に對し可とするもの貳拾五名の大多數を以て原案に決し茲に過去十有五年に涉りて企劃せし上水道布設は明治四十年より五ヶ年繼續事業とし施行することに確定せり

附記
水源地に付き前記の外岐阜縣八百津町附近の高地より自然流下式により設計を試みたることあるも距離甚だ遠く工費に巨額を要し到底實行することを得ざるを以て之を廢せり
前記計劃中開渠を鐵管線路とするを得策と認めたるも經費の増額を來すを以て開渠に據ることとせり

第二節 工事施工稟請及認可の經過

是に於て六月十五日上水道布設施行認可の稟請及國庫補助下附請願書を内務大臣

へ提出し助役高橋克守は上京の上當局に懇請する處あり
庶天第八號

名古屋市上水道布設ノ義ニ付稟請

當名古屋市ニ於ケル市制實施ノ際ハ戸數四萬八千餘人口拾五萬餘ニ過ギザリシガ逐年人口ノ増加ニ伴ヒ下水排泄ニ困難ヲ醸セシヨリ之レガ改良ヲ企劃スルト共ニ飲用井水ノ枯渴ヲ慮リ上水道布設ノ必要ヲ認メ明治二十六年中内務省御雇衛生顧問バルトン氏ヲ聘シ實地調査ヲ囑託シタリ然レドモ此起工ニ要スル莫大ノ經費ハ市民ノ負擔ニ堪ヘザル虞レアルト一方急施ヲ要スル事業其他種々ナル障礙ノ爲メ目的ヲ遂行スルノ機會ニ遭遇セザリキ然ルニ輒近本市各般ノ狀況著シク發展シ戸數七萬人口三十萬ヲ超過スルニ至リ殊ニ東西ニ接續スル郡村地ヲ本市ニ編入シタル其ノ方面ハ頗ル低地ニシテ就中水質不良加フルニ漸次田畑地ヲ宅地ニ變換シタル爲メ下水排泄ニ一層困難ヲ來セシニ依リ經費百萬圓ヲ以テ明治三十八及同三十九年ノ兩年度ニ於テ名古屋市東部半面ノ下水放流ヲ爲スニ足ルベキ河線ヲ改修シツ、アリト雖モ全市下水ノ疎通ヲ完フスルコト能ハザル

ヲ以テ上水道布設ト共ニ之ガ改修ヲ企畫セントス

顧フニ吾ガ名古屋ハ 離宮ノ存在スル所又師團ノ所在地ニシテ而カモ連接スル熱田築港ハ遠カラズ成工ヲ告ゲントシ中央鐵道線亦連絡セバ一層般賑ノ度ヲ高ムルヤ必セリ然ルニ公衆衛生ノ唯一機關タル上水道ノ布設ヲ爲サズシテ飲料井水缺乏シ又ハ不良井水ヨリスル惡疫ノ流行スルアラバ慘害單リ幾多ノ生命ニ關スル而已ナラス生業ニ及ボス本市ノ盛衰ニ影響スルナシトセズ加之頻年戸口ノ増加ニ伴ヒ失火漸ク増加ス誠ニ寒心スベキモノアリ則チ之レガ布設ハ一日モ忽ニスベカラザルモノナルヲ認メ茲ニ本市會ハ明治四十年度ヨリ同四十四年度迄五ケ年間ニ於テ上水道布設ヲ爲サンコトヲ決議致候間事情御洞察宜敷御詮議ノ上速ニ御認可被成下度別紙必要書類圖面添付此段稟請候也

明治三十九年六月十五日

名古屋市參事會

名古屋市長 青山 朗

内務大臣 原 敬 殿

第三章 計 劃

布設申請附屬書類

- 一、名古屋市上水道布設自明治四十四年度繼續歲入出總計豫算
- 一、名古屋市上水道布設費豫算書
- 一、一位代價表
- 一、名古屋市上水道布設方法書
- 一、名古屋市上水道公債募集及償還方法
- 一、名古屋市上水道給水料收入豫算表
- 一、名古屋市上水道經常支出豫算表

(別紙)

愛知縣名古屋市上水道布設費 自明治四十四年度繼續歲入出總計豫算

歲入

一金五百九拾貳萬參千百四拾參圓

歲入豫算總額

歲出

一金五百九拾貳萬圓

歲出豫算總額

內譯

金五拾四萬圓

四十年年度支出豫算額

金八拾七萬圓

四十一年度同

金百九拾萬圓

四十二年度同

金百六拾貳萬圓

四十三年度同

金九拾九萬圓

四十四年度同

差引金參千百四十三圓 歲入過

愛知縣名古屋市上水道布設費 自明治四十四年度繼續歲入出總計豫算表

科 目	豫 算 額	附 記
第一款 補助金	九〇〇、〇〇〇、〇〇〇	自明治四十年年度至同四十四年度各年度金拾八萬圓
一 國庫補助金	九〇〇、〇〇〇、〇〇〇	
第二款 市債	四、三三〇、〇〇〇、〇〇〇	
一 公債募集金	四、三三〇、〇〇〇、〇〇〇	
第三款 市費	一四〇、〇〇〇、〇〇〇	
一 普通歲入出ヨリ	一四〇、〇〇〇、〇〇〇	
第三章 計劃	一四〇、〇〇〇、〇〇〇	

第四款 雜收 入

一 預ヶ金 利子

五六三、一四〇・〇〇〇
五六三、一四〇・〇〇〇
五、九二三、一四三・〇〇〇

科 目	歲 出	豫 算 額	附 記
第一款 上水道布設費		五、九二〇、〇〇〇 ^m	
第一項 給料		一六四、六〇〇・〇〇〇	
一 技師長以下給料		一五九、八〇〇・〇〇〇	
二 使丁給料		四、八〇〇・〇〇〇	
第二項 雜給		一一一、四二〇・〇〇〇	
一 旅費		一八、〇〇〇・〇〇〇	
二 委員實費辦價額		五、〇〇〇・〇〇〇	
三 給仕雇給		一、五〇〇・〇〇〇	
四 雇人料		二三、七九〇・〇〇〇	
五 報酬及賞與手當		七三、一三〇・〇〇〇	
第三項 需用費		一七、六〇〇・〇〇〇	
一 備品費		三、三〇〇・〇〇〇	

第四項 工 事 費

二 消耗品費
 三 印刷費
 四 手數料
 五 賄送料
 六 通信運搬費
 一 賠償費
 二 送水工事費
 三 配水工事費
 四 沈澱池築造費
 五 濾過池築造費
 六 配水池築造費
 七 淨水場給水管費
 八 其 他
 九 弁室築造費
 十 家屋建築費
 十一 器具器械費
 十二 測量製圖費
 十三 檢査費
 十四 電話費

六、〇〇〇・〇〇〇
 一、五〇〇・〇〇〇
 二、〇〇〇・〇〇〇
 三、〇〇〇・〇〇〇
 一、八〇〇・〇〇〇
 四、二六四、五七三・一〇〇
 一九九、四三八・八〇〇
 九三五、六六八・七九八
 一、八七一、二一五・二六六
 一六二、三二五・七二四
 三六一、二〇五・〇四八
 二〇七、六四四・四六〇
 八一、〇七九・二一四
 三〇、〇〇〇・〇〇〇
 一二〇、〇〇〇・〇〇〇
 二四八、五〇〇・〇〇〇
 七、五〇〇・〇〇〇
 三〇、〇〇〇・〇〇〇
 一〇、〇〇〇・〇〇〇

第五項 借入金諸費

一 公債募集費

二 利子

第六項 豫備費

一 豫備費

一、二五〇、〇〇〇、〇〇〇
五、〇〇〇、〇〇〇
一、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
二四六、八〇二、六九〇
一四六、八〇二、六九〇

名古屋市上水道布設費豫算書

一金四百七拾壹萬五千圓

內 譯

金拾九萬九千四百參拾八圓八拾錢	賠 償 費
金九拾參萬五千六百六拾八圓七拾九錢八厘	送 水 工 事 費
金百八拾七萬千貳百拾五圓貳拾六錢六厘	配 水 工 事 費
金拾六萬貳千參百貳拾五圓七拾貳錢四厘	沈 澱 池 築 造 費
金參拾六萬千貳百〇五圓〇四錢八厘	濾 過 池 築 造 費
金貳拾萬七千六百四拾四圓四拾六錢	配 水 池 築 造 費

金八萬千〇七拾九圓貳拾壹錢四厘	淨水場給水管費其他
金參萬圓	辨 室 築 造 費
金拾貳萬圓	家 屋 建 築 費
金貳拾四萬八千五百圓	器 具 器 械 費
金七千五百圓	測 量 製 圖 費
金參萬圓	檢 查 費
金壹萬圓	電 話 費
金參拾萬參千六百貳拾圓	俸 給 並 需 用 費
金拾四萬六千八百〇貳圓貳拾九錢	豫 備 費

賠償費內譯書

種 類	員	數	單 價	金 額	摘 要
送水渠用地	拾五町四反貳畝參步		三六〇、〇〇〇	五、五二五、六〇〇	長七千七百十間四分五厘平均六間
隧道並鋼鐵管布設用地	四町參反六畝六步		三六〇、〇〇〇	一、五七三、二〇〇	長六千五百四十三間一分五厘平均市二間
取水場用地	貳 反 步		三六〇、〇〇〇	七二〇、〇〇〇	

淨水場用地	六〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	六萬坪
配水鐵管布設用地	四〇〇,〇〇〇	七五〇,〇〇〇	長二千五百間巾平均
計	一,〇〇〇,〇〇〇	一九,四三八,〇〇〇	二間
送水工事費内譯書			
四十八吋鋼鐵直管	九〇,五二〇	五四,九八〇,〇〇〇	
同形管	三二,八一〇	一一,四〇五,〇〇〇	
送水渠	三六,一六四	二七六,〇二五,五〇〇	
隧水道	五,六三〇	三七,一七三,六三五	
取水井	壹ヶ	二,八二九,九三三	
取水口芥除	壹ヶ	六五,三九一	
接續井及餘水吐	壹ヶ	四一,六七五	
接續井及放水口	壹ヶ	二,八二七,二四	
人孔	七拾六ヶ	四,〇五二,七六	
伏管越橋	五ヶ	八七四,九〇五	
鐵管	百五拾	一七,〇〇〇,〇〇〇	
川底埋設工事	百五拾	二七,〇〇〇,〇〇〇	
木柵	千五百三拾間	一〇,〇〇〇,〇〇〇	
計	四,〇〇〇	六,一二〇,〇〇〇	

用水土管	千四百貳拾貳間	一,二二六	一,七四六,三七二
川堀橫斷工事	九拾三ヶ	一〇,〇〇〇	九三〇,〇〇〇
道路同	百五拾參ヶ	一五〇,〇〇〇	二,二九五,〇〇〇
排氣	參ヶ	六五,〇〇〇	一九五,〇〇〇
排泥	參ヶ	二〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇
鐵管布設	千四百四拾貳本	一四〇,〇〇〇	二〇,三九九,九二
材料小運送	貳千參百七十七噸〇六六	三,〇〇〇	七,一三一,一九八
計		三,〇〇〇	九三五,六六八,七九八

取水井工事内譯

混泥土工(甲)	貳百九拾七切二四〇	二四二	一七,六三五
煉瓦工	千九百三切八六六	三三三	六三〇,四五
堅石工	五十八切五〇〇	一,一三二	六六,一六四
木工	尺八〇本五五七	二,七〇〇	七〇,七四
堀鑿	廿六坪六六七	二〇,〇〇〇	五三,三三〇
鑄鐵管	二噸九三一	八六,〇〇〇	二五,三三九
同形管	〇噸五八六	一四,一二〇	八,二六六
鐵管異形管	壹個	一,〇〇〇,〇〇〇	四二,六七〇
鑄鐵製門扉	壹個	一,〇〇〇,〇〇〇	四二,六七〇

鍊鐵梯子壹 材料小運送計	取水口芥除工事内譯	鍊鐵材料 ボ ル ト 材	三百二十二封度二三八 三百六十三封度四八二 尺ノ〇本二七七	〇九〇 〇九〇 二七〇〇	二九〇〇 三二七三 二七五六 九二 六五三九
同 接續井門扉 銅針製芥 材料小運送計	接續井及餘水吐工事内譯	混泥土工(甲) 煉瓦工 張石工(甲) 堅石工 木工 土工 鑄鐵製放水口門扉	八百九十二切四一 二千三百八十七切七〇二 五 坪四九四 百〇四 切七五〇 尺ノ〇本三三六 八 十 坪四二二 壹 個	二四二 三三三 一〇九六 一三三 二七〇〇 一四〇〇	二五〇七 七八八四〇 六〇〇九三 一八四七二 四二六七 一一二五九 五〇〇〇〇

同 接續井門扉 銅針製芥 材料小運送計	伏越工事内譯	混泥土工(甲) 煉瓦工 堅石工 木工 土工 四十八吋鋼鐵管 鐵管布設費 材料小運送計	四千四百〇四切二五四 五千〇八十切一六〇 三百三十七切五〇〇 尺ノ〇本九一〇 二百三十七坪六六五 五十三 間三三五	二四二 三三三 一三三 二七〇〇 一四〇〇 九〇五二〇	一〇六一四二五 一、六五八二 三六一七三 一一五五七 三三三三二 四八七三三 一七九六六 三八八〇〇 八七四九〇五五
鑄鐵直管 同異形管	配水鐵管費内譯書	五ヶ所延長六十五間分	一萬六千三百六噸四三五 六百七十二噸三一四	八六〇〇 一四二二〇	一、四〇九三二二五 九四八七六九五

四	六	八	十	十二	十四	十六	十八	二十	二十二	二十四	二十六	三十	三十六	四十	六
時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時
制水弁	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
貳百九拾三	六百四拾七	四拾貳	拾八	拾八	貳拾壹	壹拾壹	壹拾壹	壹拾壹	壹拾壹	壹拾壹	壹拾壹	壹拾壹	壹拾壹	壹拾壹	壹拾壹
個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個
二〇・〇〇〇	三三・〇〇〇	五〇・〇〇〇	七〇・〇〇〇	九五・〇〇〇	一三〇・〇〇〇	一六五・〇〇〇	二一五・〇〇〇	二五〇・〇〇〇	二八五・〇〇〇	三三〇・〇〇〇	四一五・〇〇〇	五三〇・〇〇〇	五九八・〇〇〇	六二〇・〇〇〇	三三・〇六八・〇〇〇
五八六・〇〇〇	二二五・〇〇〇	二二〇・〇〇〇	一三六・〇〇〇	一七一・〇〇〇	二七三・〇〇〇	一六五・〇〇〇	二二五・〇〇〇	二五〇・〇〇〇	二八五・〇〇〇	一六〇・〇〇〇	四二五・〇〇〇	四七七・〇〇〇	七九六・〇〇〇	四〇〇〇・〇〇〇	一六八・〇〇〇

防	路	甲	乙	鉛	接	ボ	鐵	材
火	面	排	同	合	合	ール	管	料
栓	蓋	弁	管	管	管	ト	橋	小
千貳百貳拾六	貳千參百貳	貳千參百貳	五	二	千	三	十	二
個	個	個	個	個	個	個	個	間
一八〇・〇〇〇	六〇〇・〇〇〇	一〇〇〇・〇〇〇	七〇〇・〇〇〇	一九〇・〇〇〇	二五〇〇	二二〇・〇〇〇	一八八・〇〇〇	一六八・〇〇〇
二二〇・六八・〇〇〇	一三・八二・〇〇〇	二一〇・〇〇〇	三五〇・〇〇〇	四七六・〇〇〇	三七五・〇〇〇	三八四・〇〇〇	一八八・〇五五・三	一六八・〇七七・六

配水鐵管布設費內譯

四	六	八	十	十二	十四
時	時	時	時	時	時
鑄鐵直管	同	同	同	同	同
一萬七千九百十六本〇四四	四萬五千〇四十二本四五七	四千三百三十一本二九七	千五百三十六本五七八	千二百二十四本五七七	千貳百二十一本八七四
九八五	一五〇〇	一八五五	二三五五	二六四八	三・二八
一七七・六・〇〇三	六七・五・三六八	七八四九・〇五六	三六八・六五・一	三・四二・六八〇	三八三・〇・三

十六吋 鑄鐵直管	六百八十七本五八九	三九一九	二、六四六六一
十八吋 同	百四十八本三九三	四、五七六	六、七九三三
二十二吋 同	三百三十四本一八三	五、二二三	一、七二一六八五
二十四吋 同	三十五本一五五	五、六三四	一九八〇六三
三十吋 同	六百十本〇一〇	六、二五九	三、八八〇五三
三十六吋 同	五千九百三本九五〇	八、八一八	五、三三、七四五二
鑄鐵異形管	二千三百九本〇四二	一三、〇三三	三、〇〇、九三七四
鉛管	七千七百六十三本	三、〇〇〇	二、二八、九〇〇〇
四吋 制水弁	貳百五拾噸〇	二、二六〇	五、三四〇、〇〇〇
六吋 同	貳百九拾三個	二、二七二	三、四三、三九六
八吋 同	六百四拾七個	一、四七一	九、五二、七三七
十二吋 同	四拾貳個	一、八一五	七、六三、三〇〇
十四吋 同	拾八個	二、二〇一	三、九六、六一八
十六吋 同	拾八個	二、三七一	四、一六、七八
十八吋 同	貳拾壹個	二、八一五	五、九二、一五
二十吋 同	拾壹個	二、八二五	三、三八、三〇
計	壹拾五個	三、三八三	三、八〇〇
計	壹拾五個	三、八〇〇	四、二二七

沈澱池工費內譯

二十二吋 同	壹	四、五八六	四、五八六
二十四吋 同	五	四、九〇九	二四、五四五
三十吋 同	拾	七、〇五九	七〇、五九〇
三十六吋 同	九	一〇、二九三	九二、六二八
量水器	貳拾四個	四、六二〇	一、一〇八、八〇〇
防火栓	千貳百貳拾六個	三、〇六〇	三、七五、五六〇
排氣管	七千五百個	一、八〇〇	一、六〇、〇〇〇
接合管	千五百個	三、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇
計	壹拾五個	三、〇〇〇	一、八八、二七五二八
混泥土工(甲)	四十萬三千四百七切一七	二、四二一	九七、三〇、七六八
粘土工	貳萬六千八百九十三坪五七	六、九五〇	一八、六九一、〇三二
張石工(乙)	二千八百八十八坪〇九七	七、四二〇	二〇、九一〇、二七九
堅石工	九千七百四十六切三一六	一、二三二	一一、〇三三、〇八三
煉化工	六千三百十五切六二一	三、三三三	二、〇三三、六三〇
徑一尺土管	四間五分	三、〇五八	一、三、七六一
濕拔	三百七間三分三厘	二、九八八	九、八三、〇三二

スルースゲート	三	個	二〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇
フローチングパイプ	三	個	五〇〇,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇
徑二十吋制水弁	六	個	二五〇,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇
同十六吋同	三	個	一六五,〇〇〇	四九五,〇〇〇
鑄鐵直管	三	噸五八五	八六,〇〇〇	三,三二一,六六九
同異形管	二	噸五九六	一四一,二〇〇	三,四七〇,九八八
鐵管布設費				二,三九五,八七
同異形管布設費				九六,〇〇三
制水弁布設費				三五,四五
材料小運送				二四五,六七二
計				一六二,三五七二

濾過池工事費内譯書

セメントモルター	二,九百十二切一一二	・四〇八	一,一八八,一四二
混泥土(甲)	五七,萬四百六十二切八三一	・二四二	一,三七,四八一,五四一
粘土	二,千五百五十二坪五九九	六九五〇	一七,七四〇,二六六
煉瓦	廿一萬五千四百八切二一五	・三三三	六九,三六一,四四五
砂	四,千七百八十九坪四三一	六五〇〇	三二,一三二,三〇二

砂	百四十萬六千十切一五	・四〇〇	五六,二四〇,四〇六
堅石	二萬二千九十九切三	一・二二	二四,九九四,三〇八
鑄鐵異形管	四十八噸一七四	一四一,二二〇	六,七九八,三二五
出口調整管	十	三五〇,〇〇〇	四,二〇〇,〇〇〇
徑十六吋制水弁	三	一六五,〇〇〇	五,九四〇,〇〇〇
同四吋通風器	十	二〇,〇〇〇	二四〇,〇〇〇
異形管布設費	九	二七三,〇〇六	二,二七八八
制水弁布設費	十一	一一,二七八八	五,四九四,五七八
材料小運送			三六一,二〇五,〇四八
計			

配水池工事費内譯書

セメントモルター	三,千二百五十二切四三二	四〇八	一,三六九,九三
混泥土(甲)	十九萬六千四百四切五四三	・二四一	四七,三九一,三三五
粘土	七,百四拾坪三六八	六九五〇	五,一四五,五五六
煉瓦	千七百五十切九四一	・〇九〇	一五七,五八五
砂	三三萬五千三百三切九三八	・三三三	一〇六,七九二,四四六
計	七,百二十七坪四七四	一四〇〇	一,〇一八,四六四

張	芝	八萬四千九百四十八切三	〇・四	一、八九二七六
堅石工	工	二萬六千五百一十一切一八六	一・三三	三、三五六四九一
濕拔工	工	二百三十五間一分七厘	二・九八	七〇、二六八八
徑一尺土管子	六	十	三・〇五	一八、三四八
窓障子	三	十	一・五〇	四五、〇〇〇
戶	八	本	五・〇〇	四〇、〇〇〇
徑一尺五寸土管子	二	間	八・三三	一七五、〇七
通風管子	百	間	二・三三	三、八五一九二五
鐵梯子	八	個	一六・三九	一二九、一二
鑄鐵直管子	六	個	四五、〇〇	三六、〇〇〇
鑄鐵異形管子	二	個	八六、一〇	五四五、三五七
同徑廿四吋制水弁	五	個	一四・二〇	三、三六、五七八
同徑二十吋同	三	個	三〇、〇〇	一六、〇〇、〇〇〇
同徑十八吋同	三	個	二五、〇〇	七五、〇〇〇
セメント			二五、〇〇〇	六四、五〇〇〇
鐵管布設費				五〇〇、〇〇〇
異形管布設費				三七、五五四
				八三、七五一

制水弁布設費	四八、五九六
材料小運送	八三、七五二
計	二〇七、六四四・〇〇

淨水場給水管費其他内譯書	八六、一〇〇	一六、九五七・五七	徑三十六吋鐵管
徑三十六吋鐵管	八六、一〇〇	九〇、八九九・二	徑二十四吋
鐵管布設費	一三〇、三三	六、五九〇	
同材料小運送	六・五九	三〇、二五二	
材料小運送	一・〇〇	一九、二〇〇・〇〇	
徑三尺下水溝	二四、〇〇〇	二、五〇〇・〇〇	
量水		三、五〇〇・〇〇	
唧筒井		一、二〇〇・〇〇	
接續井		一、二〇〇・〇〇	
砂洗場		一〇、〇〇〇・〇〇	
木柵		四、四〇〇・〇〇	
道路踏切工		一五、〇〇〇・〇〇	
土路踏切工		八二、〇七九・二四	

器具器械費内譯書

唧筒汽機汽鐘一式	二二,〇〇〇・〇〇〇
鐵管布設工用具	五,〇〇〇・〇〇〇
輕便鐵軌及付屬車輛	二〇,〇〇〇・〇〇〇
水面表示器	五〇,〇〇〇
雜器	二,〇〇〇・〇〇〇
計	二四八,五〇〇・〇〇〇
個	

一位代價表

「セメント」モルター

(但セメント一砂三ノ割合)

壹切當リ

材	料	員	數	單價	金額	摘	要
セメント	ト	〇	切三分三	一,〇〇〇	三三三		
洗砂	ト	壹	切	〇四〇	〇四〇		
人	夫	壹	分	三三〇	〇三五		
計					四〇八		

混凝土(甲)

(但セメント一砂三砂利六ノ割合)

壹切當リ

セメント	ト	〇	切	一六七	一,〇〇〇	一六七	
洗砂	ト	〇	切	五〇一	〇四〇	〇二〇	
洗砂	ト	壹	切	〇五五	〇三五	〇三五	
人	夫	壹	分	〇五五	〇一九	二四一	
計							

混凝土(乙)

(生石灰一砂二砂利四ノ割合)

壹切當リ

生石灰	切	二五	一八〇	〇四五		
洗砂	切	五〇	〇四〇	〇二〇		
洗砂	切	〇	〇四〇	〇二〇		
人	夫	壹	分	〇三五	〇二九	
計					二一九	

漆喰

壹切當リ

堅石工(甲)	素 コンクリート	石 拾八	工 拾八	人 拾八	計 拾八	平壹坪當リ	扣一尺面一尺以上 平均厚五寸
	石 拾六	工 拾六	人 拾六	計 拾六			
堅石角材	煉瓦	拾六	工 拾六	人 拾六	計 拾六	壹切當リ	扣一尺面一尺以上 平均厚五寸
	煉瓦	拾六	工 拾六	人 拾六	計 拾六		
煉瓦工	煉瓦	拾六	工 拾六	人 拾六	計 拾六	壹切當リ	扣一尺面一尺以上 平均厚五寸
	煉瓦	拾六	工 拾六	人 拾六	計 拾六		
安石	灰	〇	土 〇	夫 〇	計 〇	減坪ヲ見込ム	扣一尺面一尺以上 平均厚五寸
	灰	〇	土 〇	夫 〇	計 〇		

張石工(乙)	素 コンクリート	石 拾八	工 拾八	人 拾八	計 拾八	平壹坪當リ	扣一尺面一尺以上 平均厚五寸
	石 拾六	工 拾六	人 拾六	計 拾六			
張石工(甲)	煉瓦	拾六	工 拾六	人 拾六	計 拾六	壹切當リ	扣一尺面一尺以上 平均厚五寸
	煉瓦	拾六	工 拾六	人 拾六	計 拾六		
裏詰粘土	立壹坪當リ	〇	土 〇	夫 〇	計 〇	立壹坪當リ	扣一尺面一尺以上 平均厚五寸
	立壹坪當リ	〇	土 〇	夫 〇	計 〇		
粘土	立壹坪當リ	〇	土 〇	夫 〇	計 〇	立壹坪當リ	扣一尺面一尺以上 平均厚五寸
	立壹坪當リ	〇	土 〇	夫 〇	計 〇		

煉土同混 瓦凝土工(甲) 工(乙)	送水渠	煉瓦工鑿 ○七拾三切二三〇 坪八六三	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ
煉瓦工 四拾切六四四	送水渠	煉瓦工鑿 ○七拾三切二三〇 坪八六三	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ
同凝土工(甲) 工(乙) 三拾切一八	送水渠	煉瓦工鑿 ○七拾三切二三〇 坪八六三	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ
同凝土工(甲) 工(乙) 三拾切一八	送水渠	煉瓦工鑿 ○七拾三切二三〇 坪八六三	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ
同凝土工(甲) 工(乙) 三拾切一八	送水渠	煉瓦工鑿 ○七拾三切二三〇 坪八六三	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ
同凝土工(甲) 工(乙) 三拾切一八	送水渠	煉瓦工鑿 ○七拾三切二三〇 坪八六三	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ
同凝土工(甲) 工(乙) 三拾切一八	送水渠	煉瓦工鑿 ○七拾三切二三〇 坪八六三	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ
同凝土工(甲) 工(乙) 三拾切一八	送水渠	煉瓦工鑿 ○七拾三切二三〇 坪八六三	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ
同凝土工(甲) 工(乙) 三拾切一八	送水渠	煉瓦工鑿 ○七拾三切二三〇 坪八六三	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ

素割石 栗砂 計	濕拔	煉堅木 瓦石 工工工	人 孔	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ
素割石 栗砂 計	濕拔	煉堅木 瓦石 工工工	人 孔	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ
素割石 栗砂 計	濕拔	煉堅木 瓦石 工工工	人 孔	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ
素割石 栗砂 計	濕拔	煉堅木 瓦石 工工工	人 孔	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ
素割石 栗砂 計	濕拔	煉堅木 瓦石 工工工	人 孔	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ
素割石 栗砂 計	濕拔	煉堅木 瓦石 工工工	人 孔	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ
素割石 栗砂 計	濕拔	煉堅木 瓦石 工工工	人 孔	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ
素割石 栗砂 計	濕拔	煉堅木 瓦石 工工工	人 孔	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ
素割石 栗砂 計	濕拔	煉堅木 瓦石 工工工	人 孔	セントル其他 計小運送	大 計	材工材 夫工壹 參參本	人 歩	尺 本當リ

土煉		卷		堀		人		材	
管	瓦	肌	一	鑿	夫	送	計	小	料
參	參	拾	〇	〇	〇	三	〇	〇	〇
本	本	把	〇	六	六	分	〇	〇	〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
六〇	八〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
長一尺幅五寸厚一寸五分	長六尺幅二尺深三尺								

徑壹尺土管

長壹間當リ

長六尺巾三尺深七尺

土煉		卷		堀		人		材	
管	肌	一	鑿	夫	送	計	小	料	杉
參	〇	參	貳	壹	壹	八	分	分	拾
本	把	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
四〇	九〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
長三尺末口四五分	長六尺巾四尺深十尺								

徑壹尺五寸土管

長壹間當リ

木 柵

長壹間當リ

杉		同		釘		大	
管	材	拾	壹	壹	九	五	分
本	本	本	本	本	本	本	本
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
六〇	八〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
長十尺末口三寸五分	長十二尺巾三寸五分	厚八分	長七寸徑五分	長貳寸			

人	夫	五
生	塗	分
澁		三
料		五〇
小		二五
運		〇三
送		〇三
計		四〇〇〇
		貳返塗

名古屋市上水道布設方法書

名古屋市ハ四面廣瀾ナル一ノ丘陵上ニアリ東部ノ一方ノミ僅カニ田代村鍋屋上野村ノ山脈ニ接スト雖モ其地域甚ダ狹小ニシテ是等ノ山脈ヨリ地下水ノ伏流アルハ認ムベカラザル所ナリ其他ノ方面ハ矢田川庄内川ニ依リテ遮斷セラレ又ハ熱田灣ニ瀕スルヲ以テ現在飲料ニ供スル井水ハ雨水若クハ下水ノ地下ニ滲入シ再ビ現ハレテ井中ニ聚マリタルモノナリ故ニ格魯兒等ノ有害分子ヲ含ムモノ甚ダ多ク年月ヲ經ルニ隨ヒ地層ハ汚水ノ浸潤スル所トナリ益不良ニ歸スルノ恐レアリトス今左ニ各所ニ於テ採酌シタル井水百三十種ノ試験成績ヲ掲グレバ

井水飲料ノ適否	採酌地町名
適	番
否	號
採酌地町名	適
	否
	採酌地町名

十	十	十	十	十	十	十	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
八	七	六	五	四	三	二	一									
同	同	不	同	濾	適	不	同	同	適	濾	同	不	同	濾	同	不
				過	後	適			過	後	適			過	後	適
		適		適		適			適		適			適		適
天	小	小	松	下	蘇	小	鹽	北	新	古	正	裏	柳	平	廣	七
王	林	鳥	山	奥	鐵	林	匠	鷹	道	郷	木	門		野	井	小
崎				田				匠	町	町	町	町	町	町	町	町
町	町	町	町	町	町	町	町	町	一	町	町	町	町	町	町	町
三	三	三	三	三	三	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
六	五	四	三	二	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一	十	九
適	同	不	同	同	適	同	不	適	濾	同	同	同	不	適	濾	同
					適			過	後	適			適	過	後	適
		適			適			適					適	適		適
矢	武	東	南	南	武	吾	若	花	常	本	本	本	本	宮	矢	堅
場	片	外	外	外	平	妻	松	園	盤	町	町	町	町	出	場	三
町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	三	三	四	五	町	町	町
町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	三	三	四	五	町	町	町

九	八	八	八	八	八	八	八	八	八	七	七	七	七	七	七	七	七
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
九	八	七	六	五	四	三	二	一	十	九	八	七	六	五	四	三	二
同	適	同	同	同	不	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

適

堀	伏	納	新	下	下	末	末	上	新	南	島	入	入	堅	堅	富	榮
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

			長	長					長					三	三		
詰	見	屋	柳	者	者	廣	廣	園	柳	島	田	江	江	藏	藏	澤	

町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

百	百	百	百	百	百	百	百	百	九	九	九	九	九	九	九	九	九
八	七	六	五	四	三	二	一		九	十	十	十	十	十	十	十	十
八	七	六	五	四	三	二	一		九	八	七	六	五	四	三	二	一

同	適	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	不
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

適

古	東	南	常	外	宮	富	下	門	末	花	上	傳	白	筒	富	車	明
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

出	主	應				茶				日					士		道
來	稅	匠	盤	田	澤	屋	前	廣	園	置	馬	壁	井	塚	ノ		

町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

五	五	五	五	五	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	三	三	三
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
四	三	二	一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	十	九	八	七
同	同	同	同	不	濾	同	同	同	適	同	濾	適	同	不	適	同	濾
				過	後						過	後		適			過
				適	適						適						後
																	適

旅	橋	東	門	矢	南	南	數	上	押	幅	小	筒	山	東	南	前	下
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

					鍛	鍛	寄							芳	久	津	前
籠	橋	前	場	治	治	屋	屋	切	下	川	井	口		野	屋	林	津

町	町	町	町	町	町	町	町	宿	町	町	町	町	町	町	町	町	町
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

七	七	七	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	五	五	五	五	五
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
二	一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	十	九	八	七	六	五

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	不	同
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

適

榮	富	富	榮	富	住	南	住	榮	榮	橫	皆	下	南	縣	縣	縣	久
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

					伊					三			鍛				
	澤	澤	澤	吉	勢	吉				戶	園	冶	應	應	應	屋	

町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	內	內	町
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

年次	年度	給入水額料	備考
六	四五	九二、七二五	總戸數八七三七戸ノ内給水戸數二四九九二戸其内専用給水七四九七戸六料金三七四八八圓共用給水一六二四四戸八料金三七五〇圓計量給水一二四九個所三料金二四八七圓ノ見込
七	四六	一一一、八六一	以下四十八年度迄漸次比例ヲ以テ増加ス
八	四七	一三〇、九九八	
九	四八	一五〇、一三四	
一〇	四九	一六九、二七〇	總戸數九七三六戸ノ内給水戸數四五六二戸其内専用給水一三六八六戸料金六八四三〇圓共用給水二九六五四戸料金五九七八二圓計量給水二二八一一個所料金四一〇五八圓ノ見込
一一	五〇	一八一、三四一	以下五十三年度迄漸次比例ヲ以テ増加ス
一二	五一	一九三、四一二	
一三	五二	二〇五、四八三	
一四	五三	二一七、五五四	
一五	五四	二二九、六二五	總戸數一〇九二六戸ノ内給水戸數六一八八戸其内専用給水一八五六六戸料金九五八三〇圓共用給水四〇二七戸二料金八一〇九八圓計量給水三〇九四個所三料金五五六九七圓ノ見込
一六	五五	二三九、六三七	以下六十三年度迄漸次比例ヲ以テ増加ス
一七	五六	二四九、六四九	
一八	五七	二五九、六六一	
一九	五八	二六九、六七三	

年次	年度	給入水額料	備考
二〇	五九	二七九、六八五	
二一	六〇	二八九、六九七	
二二	六一	二九九、七〇九	
二三	六二	三〇九、七二一	
二四	六三	三一九、七三三	
二五	六四	三二九、七四五	總戸數一三三〇七五戸ノ内給水戸數八八七〇戸其内専用給水二六六六一戸料金一三三三〇五圓共用給水五七七六戸料金一六四五六圓計量給水四四四三個所五料金七九九八四圓ノ見込
二六	六五	三三八、九五四	以下七十一年度迄漸次比例ヲ以テ増加ス
二七	六六	三四八、一六三	
二八	六七	三五七、三七一	
二九	六八	三六六、五八〇	
三〇	六九	三七五、七八九	
三一	七〇	三八四、九九七	
三二	七一	三九四、二〇七	
三三	七二	四〇三、四一六	總戸數一五二二二三戸ノ内給水戸數一〇八七二六戸其内専用給水三二六一七戸料金一六三〇八九圓共用給水七〇六七戸七料金一四二四七四圓計量給水五四三六個所三料金九七八五三圓ノ見込
三四	七三	四〇三、四一六	第一期豫定人口四拾六萬ニ達シタレハ以下異動ナキモノトス
三五	七四	四〇三、四一六	
三六	七五	四〇三、四一六	

三七	七六	四〇三、四一六
三八	七七	四〇三、四一六
三九	七八	四〇三、四一六
四〇	七九	四〇三、四一六
四一	八〇	四〇三、四一六
四二	八一	四〇三、四一六
四三	八二	四〇三、四一六
四四	八三	四〇三、四一六
四五	八四	四〇三、四一六
四六	八五	四〇三、四一六
四七	八六	四〇三、四一六
四八	八七	四〇三、四一六
四九	八七	四〇三、四一六

但シ専用栓給水料壹戸(五人以内)壹ヶ年金五圓共用栓給水料壹戸(平均四人二分)壹ヶ年金貳圓壹錢六厘壹人壹ヶ年四拾八錢ノ割計量給水料壹ヶ所平均金拾八圓ノ見込

名古屋市上水道經常費支出豫算表

年次	年度	經常費支出額	備	考
六	四五	四六、八三〇	諸給料其他三九四四三圓石炭礦油等消耗費七三七八七圓	
七	四六	五〇、五九七	以下四十八年度迄漸次比例ヲ以テ増加ス	
八	四七	五四、三六三		
九	四八	五八、一二九		
一〇	四九	六一、八九五	諸給料其他四八四一一圓石炭礦油等消耗費一三四八四圓	
一一	五〇	六五、二八六	諸給料其他五〇八四〇圓石炭礦油等消耗費一四四四六圓	
一二	五一	六八、六七七	以下五十三年度迄漸次比例ヲ以テ増加ス	
一三	五二	七二、〇六九		
一四	五三	七五、四〇〇		
一五	五四	七八、八五一	諸給料其他六〇五五九圓石炭礦油等一八二九二圓	
一六	五五	八二、一三二	諸給料其他六三〇四三圓石炭礦油等消耗費一九〇八九圓	
一七	五六	八五、四一四	以下五十六年度迄漸次比例ヲ以テ増加ス	
一八	五七	八八、六九六		
一九	五八	九一、九七七		
二〇	五九	九五、二五九	諸給料其他七二九八〇圓石炭礦油等消耗費二二二七九圓	
二一	六〇	一〇四、八三七	諸給料其他七四三七九圓石炭礦油等消耗費三〇四五八圓	

第三章 計劃

二二	六一	一〇八、三三二
二三	六二	一一一、八〇六
二四	六三	一一五、二九〇
二五	六四	一二八、七七五
二六	六五	一二二、二〇〇
二七	六六	一二五、六二六
二八	六七	一二九、〇五一
二九	六八	一三二、四七七
三〇	六九	一三五、九〇二
三一	七〇	一三九、三二八
三二	七一	一四二、七五二
三三	七二	一四六、一七八
三四	七三	一四六、一七八
三五	七四	一四六、一七八
三六	七五	一四六、一七八
三七	七六	一四六、一七八
三八	七七	一四六、一七八
三九	七八	一四六、一七八

以下六十三年度迄漸次比例ヲ以テ増加ス

諸給料其他八二四九五圓石炭礦油等三六二八〇圓

諸給料其他八四九〇七圓石炭礦油消耗費三七二九三圓

以下七十一年度迄漸次比例ヲ以テ増加ス

諸給料其他一〇一七九二圓石炭礦油等消耗費四四三八六圓
第一期豫定人口四拾六萬人ニ達シタレバ以下異動ナキモノトス

四〇	七九	一四六、一七八
四一	八〇	一四六、一七八
四二	八一	一四六、一七八
四三	八二	一四六、一七八
四四	八三	一四六、一七八
四五	八四	一四六、一七八
四六	八五	一四六、一七八
四七	八六	一四六、一七八
四八	八七	一四六、一七八
四九	八八	一四六、一七八

是より先き明治三十九年四月十二日市長青山朗は病氣の故を以て辭職したれば同年六月水道布設主査委員長たりし市會議員加藤重三郎代りて就職せり而して八月六日上京の上當局に懇請する處あり越えて翌四十年四月二日愛知縣内務部長より水道布設に關する國庫補助豫算額公布せられたるに付更に市會の決議を経て納支豫算書其他を更正し申請すべく曩の申請書は返戻相成たる旨通牒に接したるを以て同年四月十二日布設費豫算及之に關聯せる要項を更め同月十五日更に水道布設

並に國庫補助の稟請書を提したり。

庶天第五號ノ一

名古屋市上水道布設ノ義ニ付稟請

當名古屋市ニ於ケル市制實施ノ際ハ戸數四萬八千餘人口拾五萬餘ニ過ギザリシガ逐年人口ノ増加ニ伴ヒ下水排泄ニ困難ヲ醸セシヨリ之ガ改良ヲ企畫スルト共ニ飲用井水ノ枯渴ヲ慮リ上水道布設ノ必要ヲ認メ明治二十六年中内務省御雇衛生顧問バルトン氏ヲ聘シ實地調査ヲ囑托シタリ然レトモ此起工ニ要スル莫大ノ經費ハ市民ノ負擔ニ耐ヘザル虞アルト一方急施ヲ要スル事業其他種々ナル障礙ノ爲メ目的ヲ遂行スルノ機會ニ遭遇セザリシ然ルニ輓近本市各般ノ狀況著シク發展シ戸數七萬人口三十拾萬ヲ超過スルニ至リ殊ニ東西ニ接續スル郡村地ヲ本市ニ編入シタル其方面ハ頗ル低地ニシテ就中水質不良加フルニ漸次田畑地ヲ宅地ニ變換シタル爲ニ下水排泄ニ一層困難ヲ來セシニ依リ經費約百萬圓ヲ以テ明治三十八及同三十九ノ兩年度ニ於テ名古屋市東部半面ノ下水放流ヲ爲スニ足ルベキ河線ヲ改修シツ、アリト雖モ全市下水ノ疏通ヲ完フスルコト能ハザルヲ以テ

上水道布設ト共ニ之ガ改修ヲ企畫セントス。

顧フニ吾ガ名古屋ハ 離宮ノ存在スル所又師團ノ所在地ニシテ而カモ連接スル熱田築港ハ遠カラズ成工ヲ告グントシ中央鐵道線亦連絡セバ一層般賑ノ度ヲ高ムルヤ必セリ然ルニ公衆衛生ノ唯一機關タル上水道ノ布設ヲ爲サズシテ飲料井水ニ缺乏ヲ來シ又ハ不良井水ニ基因スル惡疫ノ流行スルアラバ其慘害單リ幾多ノ生命ニ關スル而已ナラズ延テ生業ニ及ボシ本市ノ盛衰ニ影響スルナシトセズ加之頻年戸口ノ増加ニ伴ヒ失火漸ク其度ヲ増ス誠ニ寒心ス可キモノアリ則チ之ガ布設ハ一日モ忽ニスベカラザルモノナルヲ認メ茲ニ本市會ハ明治四十年ヨリ同四十五年度迄五ケ年間ニ於テ上水道布設ヲ爲サンコトヲ決議致候間事情御洞察宜敷御詮議ノ上速ニ御認可被成下度別紙必要書類圖面添付此段稟請候也

明治四十年四月十五日

名古屋市參事會

名古屋市長 加藤重三郎

内務大臣 原 敬 殿

名古屋市水道誌

布設申請附屬書類

名古屋市上水道布設自明治四十四年度繼續歲入出總計豫算

名古屋市上水道布設費豫算書

一位代價表 (明治三十九年六月十五日稟請書ニ添付セルモノト同一ニ付省略)
名古屋市上水道布設方法書 (同上)

(別紙) 愛知縣名古屋市上水道布設費自明治四十四年度歲入出總計豫算

歲入

一金六百參萬參千八百八拾壹圓

歲入豫算高

歲出

一金六百萬九千五百圓

歲出豫算高

內譯

金五拾壹萬九千五百圓

四十年年度支出豫算額

金九拾九萬貳千五百圓

四十一年度同

金貳百四萬貳千五百圓

四十二年度同

金百參十九萬貳千五百圓

四十三年度同

金百六萬貳千五百圓

四十四年度同

差引金貳萬參千六百八拾壹圓

歲入過

名古屋市上水道布設費自明治四十四年度繼續歲入出總計豫算表

科 目	豫 算 額	附 記
第一款 補助金	二七五、〇〇〇・〇〇〇	
一、國庫補助金	二七五、〇〇〇・〇〇〇	
第二款 市債	四、七二五、〇〇〇・〇〇〇	
一、公債募集金	四、七二五、〇〇〇・〇〇〇	
第三款 市費	五〇三、〇〇〇・〇〇〇	
一、普通會計ヨリ收入	五〇三、〇〇〇・〇〇〇	
第四款 雜收	五三〇、一八一・〇〇〇	
一、預ケ金利子	五三〇、一八一・〇〇〇	
計	六〇三、一八一・〇〇〇	

自明治四十年至同四十一年度各年度金貳萬九千圓自四十二年度至四十三年度各年度金四萬圓四十四年度十三萬七千圓

科 目	歲 出	豫 算 額	附 記
第一款 上水道布設費		六、〇〇九、五〇〇・〇〇〇	
第一項 給料		一六四、六〇〇・〇〇〇	
一、所長給料		一五九、二〇〇・〇〇〇	
二、使丁給料		五、四〇〇・〇〇〇	
第二項 雜給		一七四、七六〇・〇〇〇	
一、旅費		六四、九八〇・〇〇〇	
二、給仕雇給		一、五〇〇・〇〇〇	
三、雇酬人料		二三、七九〇・〇〇〇	
四、報酬及當		八四、四九〇・〇〇〇	
第三項 需用費		一七、六〇〇・〇〇〇	
一、備品費		三、三〇〇・〇〇〇	
二、消耗品費		六、〇〇〇・〇〇〇	
三、印刷費		一、五〇〇・〇〇〇	
四、手数料		二、〇〇〇・〇〇〇	
五、賄料		三、〇〇〇・〇〇〇	

六、通信運搬費	一、八〇〇・〇〇〇
第四項 工事費	四、二六四、五七三・一〇〇
一、賠償費	一九九、四三八・八〇〇
二、送水工事費	九三五、六六八・七九八
三、配水工事費	一、八七一、二一五・二六六
四、沈澱池築造費	一六二、三二五・七二四
五、濾過池築造費	三六一、二〇五・〇四八
六、配水池築造費	二〇七、六四四・四六〇
七、淨水場給水管費	八一、〇七九・二一四
八、倉室建築費	三〇、〇〇〇・〇〇〇
九、家屋建築費	二二〇、〇〇〇・〇〇〇
十、器具器械費	二四八、五〇〇・〇〇〇
十一、測量製圖費	七、五〇〇・〇〇〇
十二、檢査費	三〇、〇〇〇・〇〇〇
十三、電話費	一〇、〇〇〇・〇〇〇
第五項 借入金諸費	一、二五四、五〇〇・〇〇〇
一、公債募集費	五、〇〇〇・〇〇〇
二、利子	一、二四九、五〇〇・〇〇〇

第三章 計劃

第六項 豫備費	一三三、四六二・六九〇
一、豫備費	一三三、四六二・六九〇

右申請に對し翌四十一年二月十九日内務大臣より之れが認可を得同時に愛知縣内務部長より實施に關する通牒に接せり

内務省四〇愛丁第三十七號

愛知縣名古屋市

明治四十年四月十五日付庶天第五號ノ一稟請水道布設ノ件右水道條例第四條ニ依リ認可ス

明治四十一年二月十九日

内務大臣 原 敬

土第七六二〇號

名古屋市上下水道布設申請及右工費國庫補助申請書曩ニ主務省へ進達候處今回別紙ノ通リ内務大臣ヨリ夫々認可及補助指令相成候條及移牒候尙本工事ハ詳細ナル實施設計ヲ調製シ更ニ主務大臣ノ認可ヲ受ケシムベキ旨其筋ヨリ通牒有之

候ニ付右様御了承其手續相運バレ度依命此段及通牒候也

明治四十一年二月廿一日

愛知縣内務部長 鈴木 隆

名古屋市長 加藤 重三 郎殿

追テ本文ニ依リ更ニ設計認可申請ノ際水道條例第三條第八號及下水道築造認可方ニ關スル明治三十四年七月内務省訓令第十一號第一條第十號ニ依ル起工及竣工ノ年月日ヲ具シタル書面ヲ提出シ及下水道管理規程ヲ完全ニ修正引換方大臣へ申出デラレ度此段申添候也

是に於て直に實施設計に着手し致々十ヶ月遂に明治四十一年十二月に至り之れが成案を得たり本工事に於ける豫定設計にありては送水線路に關する工事を給水人口六十萬人に對する設備とせしが今回實施設計に當り送水工事の内將來増設をなすに至難なる部分は之を百萬人の給水に應ずべき施設に更め仍ほ其他に事業經營上適切なる幾分の變更を施したる爲め布設費總額を五百十八萬五千圓と計上し豫定工費に比し四十三萬圓の増加をなせり且事業年度を明治四十年より同四十五

年度に至る六ヶ年繼續に變更し如左認可を申請せり
上庶第四〇號

名古屋市上水道工事實施設計及事業繼續年期ノ義稟請

本年二月十九日愛丁第三七號ヲ以テ本市水道布設ノ義認可セラレタルニ依リ之ガ施工上ニ關シ精細ニ調査ヲ遂ゲタル結果豫定設計及事業繼續年期ノ變更ヲナスベキ必要ヲ認メリ
抑本市上水道工事ニ於ケル豫定設計ニ在テハ送水線路ニ關スル工事ヲ給水人口六十萬人ニ對スル設備トナセシガ其後熱田町及小碓村ノ編入セラレタルノミナラズ本市發展ノ狀況益々著シキモノアリ此趨勢ヲ慮ルニ該工事完成後久シカラズシテ設備ノ不足ヲ訴フベキヤ明ナリ故ニ今回實施設計ニ當リ送水工事ノ內將來増設ヲナスニ至難ナル部分ハ之ヲ百萬人ノ給水ニ應ズベキ施設ニ更メ仍ホ其他ニ事業經營上適切ナル幾分ノ變更ヲ施シタル爲メ布設費總額ヲ五百八十萬五千圓ト計上シ豫定工費ニ比シ四十三萬圓ノ増加ヲナセリ
且本事業ノ成功年期ハ明治四十年四月ヨリ同四十五年三月ニ至ル五ヶ年ナリシ

カ以上ノ如ク工事擴張ニ伴ヒ明治四十年四月ヨリ同四十六年三月ニ至ル六ヶ年繼續ニ變更シ一ヶ年間竣功期限ヲ延長セントス
而テ右工費ノ増額ニ對シテハ曩ニ認可ヲ經タル本市公債及國庫補助金等ヲ以テ其財源ニ充テ新ニ起債額ヲ増加セズシテ之ヲ支辨シ得ベキ計畫ナリ
前記ノ通本市上水道工事實施設計及事業繼續年期更正ノ義市會ニ於テ決義候ニ付御認可被成下度別冊必要書類並圖面添付此段稟請候也

明治四十一年十二月二十四日

名古屋市參事會

名古屋市長 加藤重三郎

內務大臣法學博士男爵 平田東助殿

附屬書類圖面目錄

一、名古屋市上水道布設費自明治四十四年度繼續歲入出總計豫算

一、名古屋市水道目論見書

一、工事説明書

第三章 計劃

壹册
壹册

一、布設費豫算書	壹冊
一、布設費明細書	壹冊
一、單價表	壹冊
一、平面圖 縮尺二萬分ノ一	壹冊
一、同 其ノ一 縮尺二千四百分ノ一	壹冊
一、同 其ノ二 同	壹冊
一、名古屋配水平面圖 縮尺壹萬二千分ノ一	壹冊
一、自取入口 縱断面圖 縮尺縱二百分ノ一	壹冊
一、自取入口 送水線路縱断面圖 其ノ一 縮尺縱二百分ノ一	壹冊
一、自沈澱池 其ノ二 同	壹冊
一、自濾過池 其ノ三 同	壹冊
一、自濾過池 其ノ三 同	壹冊
一、構造圖 以上	拾五卷

(別紙)

名古屋水道目録見書

第一、水道事務所ノ所在 名古屋市

第二、水源ノ位置 木曾川ノ本流ニシテ分水取入口ハ本市ヲ距ル約七里愛知縣丹

羽郡犬山町舊犬山城橋下木曾川左岸ニアリ

水源ノ地質 川底砂礫ナルモ取入口附近ハ岩石重疊シ常ニ水深十五尺以上ヲ

保チ水向亦移動ノ虞ナシ

水量概算 平水量一秒時間六千立方尺以上

水質 別紙分析表ノ通

第三、水道線路 線路ニ沿ヒタル地名浄水場及配水池ノ位置

一、水道線路ハ丹羽郡犬山町ヲ起點トシ隧道二百六十間暗渠四百十七間及開渠八千六百七十七間ニシテ東春日井郡鳥居松村地内沈澱池ニ至ル沈澱池ヨリ愛知郡東山村地内濾過池ニ至ル四千六十間ノ間ハ内徑三十六吋鐵管ヲ布設ス同所ニ於テ濾過シタル浄水ハ唧筒ヲ以テ五百四十間ヲ隔リタル同地内配水池ニ揚水シ之ヨリ内徑四十二吋鐵管ヲ以テ配水區域ナル名古屋市内へ送水スルモノトス

二、線路ニ沿ヒタル地名

丹羽郡 犬山町、扶桑村、大口村、羽黒村、樂田村

東春日井郡 味岡村、篠岡村、鷹來村、篠木村、鳥居松村、勝川町、守山町
西春日井郡 六郷村

愛知郡 東山村、千種町

三、沈澱池ノ位置 愛知縣東春日井郡鳥居松村

四、濾過池及唧筒場ノ位置 愛知郡東山村大字鍋屋上野

五、配水池ノ位置 愛知郡東山村大字田代

第四、給水ノ區域其人口及一人一日ニ對スル給水量

一、區域 名古屋市(舊熱田町及小碓村ヲ除ク)

二、人口 三十萬七千六百二十四人(明治三十九年末現在)

三、一人一日ノ最大給水量 四立方尺

第五、人口増殖ノ割合 明治六年以來人口増殖ノ模様ヲ調査スル時ニ或ハ減少ヲ來シタルコトアリタレドモ明治十三、四年頃ニハ一ケ年ニ付二千乃至三千ヲ増シ明治十九年ヨリハ俄然七八千ノ増加ヲ見ルニ至リタレバ今後ハ猶一層ノ増加ヲ來スベキヲ慮リ一ケ年平均壹萬人ヲ増スモノト推定セリ而テ既ニ三十九

年末ニ於テハ人口殆ンド三十一萬人トナリ四十年ニ於テハ熱田町及小碓村ヲ編入シテ人口三十五萬人ニ達シタリ本計劃ニ於テハ送水線路ノ内隧道暗渠及開渠ハ給水人口百萬人ニ對スル設備ヲナシ送水鐵管、沈澱池濾過池、配水池、唧筒場及配水管ハ給水人口四十六萬人ニ應ズル設備ニ止メ他日給水人口夫レ以上ニ達シタル場合ニ於テ更ニ擴張工事ヲ施スモノトス
製造場等ニ對スル給水量ハ人口ノ最大給水量ニ包含スルモノトス
第六、水壓ノ概算 市内配水本管ノ有功最低水頭ハ七十二尺五寸ニシテ各支管ニ於ケル有功最低水頭ハ五十尺ナリ

第七、工事方法 別紙方法書ノ通

第八、起工並竣功期限

起工 明治四十年四月

竣工 明治四十六年三月

第九、工費ノ總額 上水道布設費ノ總額ハ金五百十八萬五千圓ニシテ其收支ノ方法及豫算ハ別紙ノ通

(別紙) 水質分析表は原計劃報告書添付の通なるに付省略

工事説明書

取水場

取水場(附屬第一號)ノ位置ハ丹羽郡犬山町舊犬山城櫓下ニ在リ同處ニ於ケル木曾川ノ水位ハ明治二十六年以後ノ觀測ニ依レバ犬山量水標ニテ最底零點以下八寸(明治三十年十二月三十日)底水零點以下五分(明治三十四年三月十日)最高零點以上二十一尺五寸(明治三十年九月三十日)ニシテ其零點ハ基線上百五十六尺三寸九分ニ當ルガ故ニ前記各水位ヲ基線上ノ高サニ換算スレバ最底百五十五尺五寸九分底水百五十六尺四寸四分最高百七十七尺八寸九分ナリ但量水標ノ位置ト取入口トハ極メテ近接スルガ故ニ其間ニ水位ノ差ナキモノト做セリ

取水場ニハ第一水門第二水門及第三水門ヲ設ク

第一水門(附圖第貳號)ハ煉瓦石造ニシテ芥除網ヲ裝置シ塵芥土砂ノ浸入ヲ防ギ又

第二第三水門等修繕掃除ノ際ハ堰板及ビ粘土ヲ以テ河水ノ流入ヲ防グ所トス

第二水門(附圖第二號)ハ煉瓦石造ニシテ三個ノ堅牢ナル鑄鐵門扉ヲ備ヘ精密ニ取入水量ヲ加減ス其門扉ハ各幅貳尺五寸高三尺ナリ水門塔ノ高サハ二十八尺四寸ニシテ其項點ハ最大洪水位上二尺零寸一分ニアリトス

此水門内水路(附圖第二號)起點ノ敷高ハ基線上百五十一尺五寸ニシテ二千分一ノ勾配ヲ有シ水深三尺五寸ノ時水量約六十五立方尺ヲ流下スル計算ナルガ故ニ百萬人ノ所要水量毎秒約四十六立方尺ニ對シ約十四立方尺ノ餘裕アリ此場合ニ於ケル水面高ハ百五十五尺ナルヲ以テ之ヲ最底水位百五十五尺五寸九分ニ比シ五寸九分ノ落差アルカ故ニ計算上ヨリ得ヘキ水門ニ於ケル損失水頭ニ較ヘテ猶充分ノ餘裕ヲ存ス

第三水門(附圖第三號)ハ煉瓦石造ニシテ簡單ナル門扉ヲ備ヘ非常ノ場合ニ際シ制水門ノ用ヲ爲サシメ且水位ヲ監視スル所トス

第一第二水門間水路(附圖第二號)ノ長サハ六間半第二第三水門間水路ノ長ハ十九間ニシテ全部コレクトリトヲ以テ築造ス其第一第二門間ノ斷面積比較的大ナルハ第二水門ニ入ラントスル土砂ノ大部分ノ此處ニ於テ沈澱セシメム爲ナリ

通路隧道ハ水門番所ト第二水門トノ間ニアル絶壁ヲ開鑿シ長サ十五間幅一間トシ其周壁ハコンクリートヲ以テ卷キ番人ノ通路トナスモノトス

隧道及暗渠

隧道(送水路縦断面圖其一附圖第三號)ハ第三水門以下第五十六間ヨリ第三百十六間ニ至ル長サ二百六十間ニシテ勾配二千分ノ一ヲ付シ全部「コンクリート」ニテ卷ク

暗渠(送水路縦断面圖其一附圖第三號)ハ隧道以下第三百十六間ヨリ第七百三十三間ニ至ル長サ四百十七間勾配二千分ノ一ニシテ全部「コンクリート」ニテ築造ス

開渠

開渠(送水路縦断面圖其一附圖第三號)ハ暗渠以下第七百三十三間ヨリ第八千九百間ニ至ル八千六百六十七間ニシテ内砂溜百二十間伏越五十六間及ビ水道橋十一間ヲ除キ盛土ノ部(甲)四千二百四十四間堀鑿ノ部(乙)三千七百三十六間ナリ之レヲ區域別ニスレバ左ノ如シ

開渠(甲)ヲ築造スル區域

自第三千六百十間

至第三千七百六十間

六百間

自第四千三百八十間

至第七千三百四十間

二千八百九十二間

外ニ砂溜二ヶ所四十間伏越一ヶ所二十五間水道橋一ヶ所三間

自第八千四百十間

至第八千九百間

七百五十二間

外ニ水道橋一ヶ所八間

開渠(乙)ヲ築造スル區域

自第七百三十三間

至第三千六百十間

二千三百三十六間

外ニ砂溜三ヶ所六十間伏越二ヶ所三十一間

自第三千七百六十間

至第六百十間

六百間

至第四千三百八十間

外ニ砂溜一ヶ所二十間

自第七千三百四十間

八百間

水路勾配ハ總テ三千分ノ一ニシテ其構造ハ敷ニ厚五寸ノ「コンクリート」ヲ施シ兩側ヲ厚五寸ノ「ブロック」ニテ張立テ其下ニ粘土ヲ搗固メ漏水ヲ防グコト、セリ粘土ノ厚ハ盛土ノ部ニ於テ底部一尺五寸側部ノ下端一尺五寸上端一尺堀鑿ノ部ニ於テ底側共ニ七寸五分ナリ築堤ノ法ハ概ネ一割五分堀鑿ノ法ハ概ネ一割トス開渠水路ノ過半ハ築堤ナルヲ以テ地表水ノ之レニ浸入スル恐レナシ又切取ノ部ハ皆高地ニ屬スルガ故地表水ハ至テ少ナキモノナレバ敷地兩側ノ畦畔ニテ其ノ浸入ヲ防止スルコトヲ得ベシ而シテ堀鑿面ヨリ來ル雨水及ビ地下水ハ犬走ニ設クル排水溝渠ニ依リテ排除スルモノトス

砂溜(附圖第四號)ハ其構造開渠ニ同ク唯深サニ於テ約一尺五寸ヲ増シ幅ハ約其二倍トシ長サヲ二十間トナス其數六ヶ所之ヲ適當ナル位置ニ配置ス

餘水吐(附圖第四號)ハ煉瓦石造ニシテ水路内ノ流量所要程度以上ニ達スルトキハ之ヲ越エテ流出スベキ裝置ナリ亦木扉ヲ付シ水路掃除ニ際シテハ之ヲ開キテ全部ヲ放流スルモノトス其數六個ニシテ之ヲ適當ノ位置ニ設置ス

伏越ハ内徑四尺ノ鐵管ヲ用ヒ其長サ第一伏越十三間第二伏越十八間第三伏越二十五間トス

水道橋ハ煉瓦石造ニシテ二橋ヲ架ス第一橋ノ長サ三間第二橋ノ長サ八間ナリ其他開渠工事ニ附帶シ用惡水路暗渠掛樋橋梁等ヲ築造シ又道路水路附替等ノ工事ヲ施スキノトス

放水路ハ地形ニ應ジ相當ノ勾配ヲ附シ必要アル場合ニハ適當ノ護岸及張石工事ヲ施スモノトス

流量計算表

左ノ表ハクッター氏公式($V=C\sqrt{R.S}$)ニ依リテ計算セリ

$$Q = \left(41.6 + \frac{.00281}{S} + \frac{1.811}{R} \right) \left(1 + \frac{41.6 + \frac{.00281}{S}}{\sqrt{R}} \right) \times n$$

ニシテ n ハ 〇.〇〇一五ト假定セリ

水路	水深		斷面積		濕潤周		動水平均深		勾配	流速ニ關スル係數	流速	流量
	(原ニテ)	(現ニテ)	(原ニテ)	(現ニテ)	(原ニテ)	(現ニテ)	(原ニテ)	(現ニテ)				
隧 道	3.5		20.14		12.33		1.63		1	0.015	$108.0 \sqrt{\frac{1.63}{2.000}} = 3.08$	62.03
	滿流		28.40		19.72		1.44		1	0.015	$108.0 \sqrt{\frac{1.44}{2.000}} = 2.834$	80.49
暗 渠	3.5		19.52		11.71		1.67		1	0.015	$108.0 \sqrt{\frac{1.67}{2.000}} = 3.135$	61.20
	滿流		27.76		19.10		1.45		1	0.015	$105.8 \sqrt{\frac{1.45}{2.000}} = 2.849$	79.09
開 渠	3.5		22.75		12.90		1.76		1	0.015	$109.1 \sqrt{\frac{1.76}{3.000}} = 2.642$	60.11
	4.0		28.00		14.30		1.96		1	0.015	$111.2 \sqrt{\frac{1.96}{3.000}} = 2.842$	79.58

鐵管水路

鐵管水路ハ沈澱池ト濾過池トノ間及唧筒室ト配水池トノ間ニシテ長サ四千六百間ナリ鐵管ハ鑄鐵ニシテ内徑三十六吋長十二尺厚一時(甲)及ビ八分ノ七吋(乙)ノ二種トシ庄内川矢田川兩河底ノ伏越及唧筒室配水池間ノ八百九十間ハ其厚キ方(甲)

ヲ用ヒ其他ノ三千七百十間ハ薄キ方(乙)ヲ用フ又地盤ノ脆弱ナル部分ニハ抗打基礎ヲ施スモノトス之ヲ區別ニスレバ左ノ如シ

鐵管(甲)ヲ用ユル區域

自第二千〇二十間 二百五十間
至第二千二百七十間

自第三千六百四十六間 百間
自第三千七百四十六間

唧筒室配水池間 五百四十間

鐵管(乙)ヲ用フル區域

自零間 二千〇二十間

自第二千二百七十間 千三百七十六間
至第三千六百四十六間

自第三千七百四十六間 三百十四間

至第四千〇六十間

曲管ヲ使用スル部分ニハ流水ノ衝突ニ備フル爲メ鐵管ノ外側ヲ厚サ一尺ノ「コンクリート」ニテ包ムコト、セリ又制水瓣三個排泥瓣四個及排氣瓣七個ヲ適當ノ位置ニ配置セリ

東春日井郡守山町ノ最高地ハ地形ノ關係ヨリ長百十間ノ隧道ヲ鑿チ之ヲ煉瓦ニテ卷キ其内部ニ鐵管ヲ布設ス而シテ其大イサハ將來増設ノ場合ヲ慮リ三十六吋管二條ヲ布設シ得ルモノトセリ隧道ノ前後ハ堀鑿深キヲ以テ鐵管布設後深サ約十二尺ヲ埋戻シ十二尺以上ハ兩側ノ法概ネ一割ニ切開キ置キ將來修繕増設等ノ際之ガ堀鑿ヲ容易ナラシム

中央線鐵道線路横斷個所ニ於テハ「コンクリート」及石材ヲ以テ鐵管ヲ保護シ庄内川及矢田川伏越ノ兩端ニハ河水ノ鐵管ニ沿フテ漏出スルヲ防グ爲メ「コンクリート」ニテ「バツドル」壁ヲ築クコト、セリ

沈 澱 池

沈澱池(附圖第五號)ハ東春日井郡烏居松村ニ設ク其數三個ニシテ人口四十六萬人

ニ對スル二日分ノ給水量ヲ容ル、ニ足ルモノトス一個ノ大サ上口ニ於テ長四百五十四尺五寸幅二百八十四尺五寸ニシテ四方一割五分ノ傾斜ヲ付ス底部ニハ入口ヨリ出口ニ向ヒ八〇八五分ノ一ノ勾配ヲ付シ總深ハ入口ニ於テ十六尺五寸出口ニ於テ十七尺有效水深十二尺トス

沈澱池ノ構造(附圖第六號)ハ四方傾斜面ヲ厚下部八寸中部七寸上部六寸ノ「コンクリート」ブロックニテ張上ゲ合場ニハ「モルタル」ヲ用ヒ裏面ハ漏水ヲ防グ爲メ下部ニ於テ厚一尺五寸上部ニ於テ厚一尺ノ粘土ヲ搗固メ池底ハ下層ニ厚一尺五寸ノ粘土ヲ敷キ上層ニ厚八寸ノ「コンクリート」ヲ敷固ム又入口ハ三十吋ノ鐵管ヲ以テ給水渠ニ取付ケ出口ニハ六角形ノ取水塔ヲ設ク

給水渠ノ構造(附圖第六號)ハ送水開渠ニ同ジク底幅三尺總深五尺兩側ハ一割ノ傾斜ヲ付ス

取水塔(附圖第六號)ハ煉瓦積厚一尺九寸對邊ノ内徑六尺ニシテ三個ノ制水扉ヲ備ヘ任意開閉シテ清水ヲ採取ス而テ取水塔ニ入りタル水ハ内徑三十吋ノ鐵管ニ入り三十六吋送水管ヲ經テ濾過池ニ入ルモノトス

沈澱池ノ底面ハ入口ニ於テ基礎上百二十尺出口ニ於テ百二十尺ニシテ其滿水面ハ百三十四尺五寸四圍ノ地盤百三十七尺ナリ

濾過池

濾過池(附圖第七號)ハ愛知郡東山村大字鍋屋上野ニ設ク其數八個ニシテ常ニ六個ヲ用ヒ二個ヲ豫備トス

送水本管ヨリ來リタル水ハ一旦分水井ニ入り二條ノ給水渠ヲ經テ各濾過池ニ入ル

分水井ハ(附圖第九號)圖形ニシテ徑十二尺深十一尺周圍ヲ煉瓦積トナシ底部ヲ厚一尺ノ「コンクリート」ニテ敷固メ漏水ヲ防グ爲メ厚一尺五寸ノ粘土ヲ以テ圍繞ス入口ハ送水鐵管ニ接續シ制水弁ヲ備ヘ沈澱池ヨリ入り來ル水量ヲ加減シ二條ノ給水渠ニ分水ス

給水渠ハ幅四尺深二尺九寸水深二尺五寸ニシテ側壁ヲ煉瓦積トシ渠底ヲ厚五寸ノ「コンクリート」ニテ敷固メ厚一尺ノ粘土ヲ以テ圍ム又側壁中ニ溝付石柱ヲ据ヘ修繕ノ際之ニ堰板ヲ箆メ水路締切ノ用ニ供ス其數四ヶ所ナリ

濾過池一個ノ大サハ上口ニ於テ長二百五十尺幅百五十四尺四寸深サ八尺二寸ニシテ四方一割ノ傾斜ヲ有シ底面ニ幅三尺ノ溝ヲ設ケ溝底ニハ濾過井ニ向ヒテ三百三十分一ノ勾配ヲ有ス池底有效面積ハ三萬千三百五十六平方尺ニシテ此六個ヲ使用セバ一晝夜十尺ノ速度ヲ以テ人口四十六萬人ニ對スル所要水量ヲ濾過スルヲ得ベシ。

濾過池ノ構造(附圖第八號)ハ周圍ノ傾斜面ヲ厚七寸ノ「コンクリート」ブロックニテ張立合場ニハ「モルタル」ヲ用ヒ表面ニ厚五分ノ「モルタル」ヲ塗り裏面ハ下部ニ於テ厚一尺五寸上部ニ於テ厚一尺ノ粘土ヲ搗固メ池底ハ下層ニ厚一尺五寸ノ粘土ヲ敷キ上層ニ厚七寸ノ「コンクリート」ヲ施ス。

池底ニハ總テ間隙ヲ隔テ、煉瓦ヲ置キ溝渠ヲ作り空積煉瓦ニテ之ヲ覆ケ中央溝渠ニハ厚五寸ノ蓋石ヲ爲シ全面ニ厚一尺一寸四分ノ礫ヲ置キ更ニ厚三尺ノ細砂ヲ布ク砂上水深ハ常ニ三尺ヲ有タシメ水面上ハ笠石ノ下端マデ七寸ノ餘地ヲ存ス入口ニハ濾過池給水渠ヨリ十六吋鐵管ヲ取付ケ出口ニハ濾水井ヲ設ク。

濾水井(附圖第八號)ハ長七尺二寸幅六尺ニシテ煉瓦ニテ築造シ調整管ヲ備ヘテ濾

過ノ速度ヲ制限シ常ニ一定ノ水量ヲ流出セシム調整管ニ入りタル水ハ内徑十六吋ノ鐵管ヲ經テ相集合シ内徑三十六吋鐵管ヲ通ジテ濾水集合池ニ達スルモノトス

濾水集合池(附圖第九號)ハ徑六十六尺ノ圓形ニシテ深十五尺水深十二尺三寸ヲ有シ人口四十六萬人ニ對スル約三十分間ノ給水量ヲ容ル、モノトス其構造ハ別紙圖面ノ如ク周壁ノ下部ニ於テ厚四尺上部ニ於テ厚二尺五寸ノ「コンクリート」ヲ以テ積上ゲ池底ハ厚一尺ノ「コンクリート」ヲ敷固メ底及周壁共厚五分ノ「アスハルト」ヲ塗リテ漏水ヲ防ギ更ニ厚五分ノ「モルタル」上塗ヲ爲ス周壁ヨリ十六尺ヲ距リタル周圍ニ十二個ノ「コンクリート」積支柱ヲ作り支柱ト周壁トハ工字形鋼鐵桁ヲ以テ連結シ各桁ノ拱臺トシテ欠圓拱ヲ架シ中央部ハ傘狀ノ覆蓋ヲナシ池上全部ヲ覆フモノトス中央傘狀覆蓋ノ厚六寸欠圓拱ノ厚五寸ニシテ共ニ鐵筋ヲ施シ表面ハ厚五分ノ「モルタル」ヲ塗ル、

排水管ハ内徑一尺五寸土管ニシテ近傍ニ之レヲ排泄スベキ適當ノ水路ナキヲ以テ用地境ヨリ三百三十間延長シ在來水路ニ放流スルモノトス又之レニ接續スル

支管ハ内徑一尺トシ其他給水渠等ノ排水管ハ内徑一尺五寸ノ土管ヲ使用ス。濾過池ノ底面ハ基線上八十二尺ニシテ其滿水面ハ八十九尺五寸四圍ノ地盤九十九尺七寸ナリ。

唧筒場

唧筒場ハ濾過池構内ニ在リ二室ニ分チ一ヲ唧筒室トシ一ヲ汽罐室トス。

唧筒機械ハ濾水集合池ヨリ濾過水ヲ配水池ニ壓送スルモノニシテ横置三回膨脹「デウフレックス」ウラルシングトン式トナシ三臺ヲ備ヘ常ニ其二臺ヲ使用シ一臺ヲ豫備ニ充ツ濾水集合池ノ最低水位ハ基線上七十四尺二寸ニシテ配水池ノ滿水面ハ百九十五尺ナレバ之ガ揚程百二十尺八寸ナリ故ニ唧筒功程ハ一臺ニツキ一晝夜百萬立方尺ノ水ヲ百二十尺八寸ノ高サニ唧送スルニ足ルモノトス右水量ハ不時ノ用ニ因リ配水池ノ水量定位以下ニ下リタルトキ之ヲ補充スルニ足ルノ餘力アラシメタルモノナリ。

汽罐ノ數ハ八個ニシテ平常其四個ヲ交互ニ循環使用スルモノトス尙必要ノ場合ニ在テハ他ノ四個ニモ點火シ蒸汽需用ノ不時ノ増加ニ應ゼシム。

配水池

配水池(附圖第十號)ハ愛知郡東山村大字田代ニ設ク其數二個ニシテ人口四十六萬人ニ對スル一日ノ最大給水量約八時間半ノ容積ヲ有ス。

非常ノ場合多クノ水量ヲ要シ配水池ノ水位低下シタルトキ又ハ配水池掃除等ノ際ニ於テハ配水池ニ倚ラズ直ニ唧筒ヨリ市内ニ壓送スルモノトシ唧筒壓送管ト配水本管ニ連絡管ヲ付シ且制水弁ヲ裝置ス一個ノ大サ長百九十三尺三寸幅百一尺八寸深十五尺八寸トシ池中ニ十一條ノ導流壁ヲ築キ池水ヲシテ一隔ニ停滯スルコトナカラシム。

配水池ノ構造(附圖第十一號)ハ圖面ニ示ス如ク池底全部ヲ厚一尺ノ「コンクリート」ニテ搗固メ周壁ハ上部ニ於テ五尺下部ニ於テ六尺五寸五分ノ厚サヲ有スル「コンクリート」積トナシ其基礎ハ之ヲ鞏固ニナサンカ爲メ周壁及導流壁ノ厚サヲ底部ニ於ケルヨリモ幾分増加セリ而テ周壁及池底ハ厚五分ノ「アスハルト」ニテ塗リ上ニ厚五分ノ「モルタル」上塗ヲ施ス導流壁ハ「コンクリート」ブロック「ニテ築造シ七個ノ欠圓拱ヲ架シ拱ノ下ヲ厚七寸五分ノ「コンクリート」ブロック「ニテ塞ギ導流壁及

周壁ヲ連結シテ厚一尺二寸ノ「コンクリート」拱ヲ架シ覆蓋トナシ上部ニ厚平均二尺五寸ノ盛土ヲ施シタル上表面ニ張芝ヲ爲シ塵芥汚物ノ浸入ヲ防クト共ニ日光ヲ遮ク溫度ノ變化ヲ少ナカラシム且拱ノ頂點ヨリ盛土張芝ヲ通シ三十六個ノ空氣抜ヲ設ケ換氣ノ用ニ供ヘ以テ池内空氣ノ清潔ヲ保ツ。

配水池満水面ハ基線上百九十五尺水底百七十九尺二寸ニシテ四圍ノ池盤百九十五尺四寸「アーチ」上盛土面二百二尺一寸ニ築造ス。

配水工事

配水幹線(附圖第十二號)ハ四十二吋管トシ配水池ヨリ千種町地内ヲ經テ廣小路通ニ布設シ車道町ニ於テ北へ十六吋管ヲ分岐シ出來町方面ニ給水シ小川町ニ於テ北へ二十吋管ヲ分岐シ相生町附近ニ給水シ南へ同ク二十吋管ヲ分岐シテ前津小林方面ニ給水ス之ヨリ幹線ハ三十六吋管トナリ久屋町ニ至リ北へ十六吋管ヲ分岐シ白壁町方面ニ給水シ大津町ニ於テ南へ二十吋管ヲ分岐シ進ミテ本町ニ至リ南へ二十吋管ヲ分岐ス此管ハ鐵砲町筋ヲ經テ古渡町ニ至リ大津町線ト相合シ廣小路以南高地部ノ全體ニ給水ス復タ笹島町方面ニ給水スル爲メ西へ二十吋管ヲ

分岐シ之ヨリ幹線ハ二十四吋管トナリ右折シテ本町通ヲ進ミ外堀町ニ至リ二十吋管トナリ師團城廓内及押切方面ニ給水ス各分岐管ハ漸次小管ニ分レ兩側ニ給水シ各管ノ末端ハ地勢ノ許ス限リ互ニ相連續セシムルモノトス。配水管ノ延長左ノ如シ

三吋管	一一九、八八九尺
四吋管	三〇五、〇九一尺
六吋管	一八一、九一七尺
八吋管	四二、五一六尺
十吋管	一四、七九六尺
十二吋管	三八、八八〇尺
十六吋管	二五、二九六尺
二十吋管	二〇、一三六尺
二十四吋管	三、五〇四尺
三十六吋管	四、六八〇尺

四十二吋管

一一、〇〇〇尺

合計

七六八、七〇五尺

配水管ハ總テ鑄鐵管ヲ用フ其口径ノ計算ハ一人一日最大給水量四立方尺ナルモ一日中時々變化アルニ依リ一人一日ノ最多給水量ヲ六立方尺トナシ又火災ノ場合ニ在テハ特ニ多量ノ水ヲ要スベキニ依リ主ナル配水管ニハ火防用トシテ一分時二百立方尺ヲ加ヘ尙將來管中附着物ノ爲メニ生ズル摩擦抵抗ノ増加ニ對スル相當ノ餘裕ヲ見積リ且何レノ街衢ニ於テモ地上五十尺以上ニ騰水シ得ベキ水壓ヲ有スル動水傾斜ヲ定メテ之ヲ計算セリ。制水瓣ハ配水管中ニ生ジタル故障ヲ修理センガ爲メ斷水ヲナス時又ハ火災ニ當リ壓力不足スル時之ヲ他ヨリ補ハンガ爲メ配水管中ノ要所ニ裝置ス其總數六百九十二個ナリ。

消火栓ハ概ネ市街ノ四ツ角ニ設置シ總數千四百二十七個ナリ。

排氣瓣ハ鐵管内ノ空氣ヲ排除スル爲メ線路中ノ高所ニ設ク其總數七個ナリ。

愛知縣名古屋市上水道布設費自明治四十四年度繼續歲入出總計豫算

歲入

一金五百拾八萬五千貳百圓

歲出

一金五百拾八萬五千圓

內譯

金五萬四千九百八拾五圓七拾八錢七厘
 金拾參萬八千八百三拾圓四拾六錢
 金百六萬七千貳百貳拾八圓貳拾錢五厘
 金百四拾七萬七千八百八拾貳圓
 金百四拾五萬七千九百貳圓
 金九拾八萬八千七百七拾壹圓五拾四錢八厘
 差引金貳百圓 歲入過
 四十年度支出額
 四十一年度支出豫算額
 四十二年度同
 四十三年度同
 四十四年度同
 四十五年度同
 歲入豫算高
 歲出豫算高

名古屋市上水道布設費自明治四十四年度繼續歲入出總計豫算

歲入		歲出	
科 目	豫 算 額	科 目	豫 算 額
第一款 公債費受入金	五、一八五、〇〇〇・〇〇〇	第一款 上水道布設費	五、一八五、〇〇〇・〇〇〇
一 國庫補助金	四〇八、〇〇〇・〇〇〇	第一項 給料	一五九、六〇〇・〇〇〇
二 受入金	四、七七七、〇〇〇・〇〇〇	一 所長以下給料	一五四、二〇〇・〇〇〇
第二款 雜收	二〇〇・〇〇〇	二 使丁給料	五、四〇〇・〇〇〇
一 雜收	二〇〇・〇〇〇	第二項 雜給	一七九、七六〇・〇〇〇
計	五、一八五、二〇〇・〇〇〇	一 旅費	五七、八二〇・〇〇〇
		第三章 計劃	
		附 記	
		明治四十四年度同四十四一年度各貳萬九千圓 明治四十二年同四十二年各四萬圓	

二 給仕 雇給	一、五〇〇・〇〇〇
三 雇人 料	二五、九五〇・〇〇〇
四 報酬及賞與手當	九四、四九〇・〇〇〇
第三項 需用費	一九、一〇〇・〇〇〇
一 備品費	三、三〇〇・〇〇〇
二 消耗品費	六、〇〇〇・〇〇〇
三 被服費	一、五〇〇・〇〇〇
四 印刷費	一、五〇〇・〇〇〇
三 手數料	二、〇〇〇・〇〇〇
六 賄料	三、〇〇〇・〇〇〇
七 通信運搬費	一、八〇〇・〇〇〇
第四項 工事費	四、七〇二、〇六一・四一一
一 賠償費	二六八、七七七・一一九
二 送水工事費	一、一六五、二四四・七八五
三 配水工事費	一、七四四、五八四・八三四
四 沈澱池築造費	二八七、二四三・二七一
五 濾過池築造費	三九五、八八二・七二一
六 配水池築造費	二二六、一七八・六八一

名古屋市上水道施設費自明治四十四年度歲出豫算年度別内譯表

七 弁室築造費	二七、五〇〇・〇〇〇
八 家屋建築費	一五八、五四〇・〇〇〇
九 器具器械費	三七五、六一〇・〇〇〇
十 測量及製圖費	一〇、〇〇〇・〇〇〇
十一 檢査費	二五、〇〇〇・〇〇〇
十二 電話費	一〇、〇〇〇・〇〇〇
十三 雜支費	七、五〇〇・〇〇〇
第五項 豫備費	一二四、四七八・五八九
一 豫備費	一二四、四七八・五八九

科 目	四十年 初年度	四十一年 二年度	四十二年 三年度	四十三年 四年度	四十四年 五年度	四十五年 六年度	計
賠償費	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
送水工事費	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
配水工事費	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
沈澱池築造費	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
濾過池築造費	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

明治四十一年十二月二十四日上庶第四〇號ヲ以テ本市上水道工事實施設計及事業繼續年期ノ義稟請候處尙本年五月外債募集ノ爲メ本市公債條例改正ノ件御許可ヲ申請スルニ方リ上水道布設費歳出豫算年度割等ニ於テ更正ヲ要スル事項ヲ生ジ候ニ付左記ノ通り前稟請ニ追申致候

一、前稟請書件名「名古屋市上水道工事實施設計及事業繼續年期」ノ次へ、並ニ豫算更正ノ文字ヲ相加ヘ度候

一、前稟請書中實施設計ノ結果工費四百七十五萬五千圓ヲ五百十八萬五千圓ニ變更シ其差四十三萬圓ノ増額ヲ爲スモ之ニ對シ新ニ起債額ヲ増加セザル旨陳述シタルハ市公債支辨ニ屬スル諸事業ノ繰延若クハ年度割ヲ變更シ且上水道布設工事ニ於テハ竣工期限ヲ一ケ年延長シタル爲メ從テ年々ノ市債募集額ニ減少ヲ來シ結局市債償還ノ最終年度ニ至リ市稅總額ニ七萬二千二百餘圓ノ支出ヲ増加セバ市債總額ヲ七百七萬圓ニ減シ斯テ前記四十三萬圓ヲ支辨シ得ヘキ計算ニテ客年十二月上水道工事實施設計及繼續年期ノ義稟請セシ次第ニ候然ルニ事業費ハ總テ從前ノ通ナルモ公債ハ外債トナシ且其總額ハ増加スルガ爲

メ本年五月公債條例改正ノ申請ヲ爲シタルモノニシテ此計算ノ内容ハ別紙添付事業經費及支出年度割募集金預托收入内譯表、公債償還收支調書、公債雜費調書、公債償還年次表及繰越調書所載ノ通有之此範圍内ニ於テ獨リ水道工事ノミナラズ公債支辨ノ諸事業ヲ經營シ得ベキ計劃ニ有之候

一、第一款第二受入金ハ公債費ヨリ公債支辨ノ各事業ニ對シ豫算ノ定ムル所ニ從ヒ其所要ニ應ジ配當スルモノニシテ上水道布設費ニ於テハ該費中其年度ニ交付可相成國庫補助金ヲ除キタル殘額總計四百七十七萬七千圓ヲ公債費ヨリ受入ル、モノニ有之候其計算ノ内容ハ別紙公債償還收支調書及事業經費支出年度割表ニ依リ御了承相成度候

一、前稟請附屬書名古屋市上水道布設費自明治四十年至同四十五年度繼續歳入出總豫算歳出五百十八萬五千圓ニ對スル内譯中四十一年度支出豫算額十三萬八千八百三十圓四十六錢ヲ三萬七千三百七十二圓八十九錢五厘ニ同四十二年度支出豫算額百六萬七千二百二十八圓二十錢五厘ヲ百十六萬八千六百八十五圓七十七錢ニ各之ヲ更メ以テ公債條例附屬書事業經費及支出年度割表上水道

布設費年度割ニ一致セシメ度候

右追申ノ事項前稟請ト共ニ併テ御詮議ノ上速ニ御認可相成度別紙目錄ノ關係書類相添へ此段申請候也

明治四十二年五月二十五日

名古屋市參事會

名古屋市長 加藤重三郎

内務大臣法學博士男爵平田東助殿

附屬書類目錄

- 一、名古屋市公債條例
- 一、事業經費及支出年度割表
- 一、募集金預託收入ノ内譯表
- 一、公債償還收支調書
- 一、公債雜費調書
- 一、公債償還年次表
- 一、計算書
- 一、事業經費支出年度割變更事由書

一、愛知縣
名古屋市明治四十二年度歳入出豫算表
以上

右實施設計稟申に對し明治四十二年六月十一日付を以て内務大臣より認可の指令に接し茲に本市多年の宿望たる事業を遂行するの時機に到達したり。

第四章 擴張

第一節 元熱田町擴張

明治四十年名古屋港開港を報せんとするに際し本市に接續せる愛知郡熱田町及築地を編入したるを以て同地に水道布設を要することとなり明治四十二年十二月二十三日市會の決議に基き同月二十七日付を以て擴張工事稟請と共に國庫補助を申請したり然るに該擴張費に對する國庫補助は財政上の都合に依り明治四十四年度より補助相成り難き旨を以て稟請を却下せられたるを以て更に同四十四年三月二十一日上水道布設擴張布設費豫算更正並に成功年期延長の認可を申請せり

上水庶天第三號

名古屋市上水道布設擴張工事布設費豫算更正並に成功年期延長ノ

義ニ付稟請

當名古屋市熱田及築地ハ往時郡部ニ屬スル町村ナリシモ四十年中相前後シテ本市ニ編入セラレ茲ニ現在ノ市域ヲ成スニ至レリ爾來兩部落ハ市ノ要區ヲ占メ利

害体感ラ一ニスルト共ニ福祉ヲ増進スル施設ニ關シ新舊市域ノ間ニ差異ヲ設クルヲ得ザルナリ

抑モ熱田ハ同名ノ灣頭ニ位スル海港ニシテ其名夙ニ世ニ著ハレ今ヤ築地ト共ニ名古屋港ヲ中心トナシ船舶輻湊ノ要衝ニ當リ市勢ノ發展ヲ助成スル益々大ナルモノアラントス隨テ之ガ百般ノ事物其改善ヲ要スベキモノ少ナカラズト雖モ就中衛生設備ヲ完フスルハ最モ焦眉ノ急務ニ屬セリ蓋此兩地ハ海岸ニ瀕シ地勢低濕ノ箇所多ク純良ナル井水稀ニシテ或ハ附近ノ村落ニ給水ヲ仰ギ或ハ季節ニ依リ河水ヲ飲用ニ供スルモノ往々ニシテ之レアリ特ニ船舶給水ノ方法ニ關シテハ殆ンド施設ノ見ルベキモノナク是等ハ一日モ看過スベカラザル所ナリ

本市曩ニ上水道ヲ布設スルノ計劃ヲ立テ去ル明治四十一年二月十九日愛丁第三七號及同四十二年六月十一日愛丁甲第四〇號ヲ以テ水道布設及水道工事實施設計成功期限延長並ニ豫算更正ノ御認可ヲ得テ爾來銳意該工事ノ進行ヲ圖リツ、アリ然ルニ本事業ハ熱田及築地編入以前ノ計劃ニ係リ兩區域ニ對スル何等ノ施設ヲモ包含セザルヲ以テ本市會ハ速ニ既定ノ計劃ヲ兩區域ニ擴張シ市域ノ全部

ニ涉リテ共同ノ設備ヲ駢進スルノ緊要ナルヲ認メ茲ニ該經費五拾參萬圓ヲ計上シ之ヲ既定豫算五百拾八萬五千圓ニ追加合算シテ上水道布設費總額ヲ五百七拾壹萬五千圓ニ變更シ且成功年期ノ明治四十年度ヨリ同四十五年度ニ至ル六ケ年繼續ナリシヲ一ケ年延長シテ四十六年度ニ至ル七ケ年ト爲シ該年度間ニ於テ成功スベキコトニ決議致候間御詮議ノ上速ニ御認可被成下度別冊書類及圖面相添ヘ此段稟請致候也

明治四十四年三月二十一日

名古屋市參事會

名古屋市長

加藤重三郎

內務大臣法學博士男爵 平田東助殿

目録

- 一、名古屋市上水道布設費自明治四十年年度繼續歲入出總計更正豫算
- 一、同上豫算表
- 一、同上豫算書

- 一、上水道布設費(元名古屋)豫算書
- 一、上水道布設費(舊熱田)豫算書
- 一、名古屋市水道公債條例
- 一、公債償還收支調書
- 一、事業經費及公債支出額年度表
- 一、募集金豫託收入内譯書
- 一、公債雜費調書
- 一、名古屋市上水道擴張工事目論見書
- 一、同工事説明書
- 一、同布設費豫算
- 一、同布設費内譯書
- 一、擴張工事布設費明細書
- 一、名古屋市上水道擴張給水料收入豫算書
- 一、同經常費支出豫算書
- 一、名古屋市舊熱田町配水線路圖 壹萬二千分ノ一 貳葉

名古屋市上水道擴張工事目論見書

一、水源ノ位置及水道線路既定計劃ノ通り

一、給水擴張區域其人口及一人一日ニ對スル給水量

一、區域 名古屋市熱田築地(舊小碓村ノ一部ヲ含ム)

二、人口 四萬八拾五人(明治四十一年末現在)

三、一人一日ノ最大給水量 四立方尺(既定ノ計劃ニ同ジ)

四、船舶給水量 一日三萬立方尺

一、人口増殖ノ割合 明治三十五年以來同四十一年迄七ケ年間舊熱田町ニ於ケル人口増殖ハ壹萬七千九百五人ニシテ一ケ年平均二千二百五十九人ナルモ築港並ニ運河等ノ完成ニ依リ著シキ増加ヲ來スベキヲ慮リ壹ケ年平均三千人ヲ増スモノト推定セリ而シテ本計劃ハ給水人口ヲ拾萬人船舶給水ヲ一日三萬立方尺ト豫定シ當分ノ内既定配水本管ヨリ給水スルモノトシ此際ニ於テハ配水鐵管ノ布設ト既定區域内本管ノ一部ニ對シ管徑ヲ太ムルノ外ハ渾テ既定ノ設備ニ依リ給水シ他日必要ノ場合ニ於テ沈澱池以下ノ送水管濾過池配水池及唧筒場等ノ増設工事を施スモノトス

一、水壓ノ概算 區域内配水管ノ有效最低水壓ハ既定配水區域内ヨリ流用給水シ給

水人口七萬(豫定明治六十年)ノ時本管ハ五十八尺各支管ハ四十三尺ナリ而シテ給水人口其以上ニ及ベバ水壓ハ漸次低下ノ前設計分ト併セテ人口四十六萬(豫定明治六十五年熱田給水人口八萬四千ノ時)ニ達シタル場合ニ於テハ本管ハ四十三尺支管ハ二十五尺トナルヲ以テ其以前ニ於テ送水管其他ノ増設工事を施スヲ要ス

一、起工並ニ竣工期限

起工 明治四十六年四月

竣工 明治四十七年三月

一、工費ノ總額 本工事擴張ニ要スル布設費ハ金五拾三萬圓(既定計劃ニ依ル布設費金五百拾八萬五千圓ヲ合セ布設費總額金五百七拾壹萬五千圓トナル)ニシテ其收支ノ方法及豫算ハ別紙ノ通り

工事説明書

取水場、隧道、暗渠及開渠

水源地(丹羽郡犬山町)ヨリ東春日井郡烏居松村沈澱池ニ至ル送水工事即チ取水場、隧

道暗渠及開渠ハ既定ノ計劃ニ於テ既ニ給水人口百萬ニ對スル設備アリ而シテ今回擴張區域ノ給水人口ハ拾萬人ノ豫定ニシテ既定ノ分ト合セテ五拾六萬人トナルヲ以テ本工事ハ増設ヲナサザルモ尙ホ充分ノ餘裕アルモノトス

鐵管水路

沈澱池(東春日井郡鳥居松村)ヨリ愛知郡東山村配水池ニ至ル送水工事即チ鐵管水路ハ既定計劃ニアリテハ人口四十六萬ニ給水スル豫定ニシテ内徑三十六吋鐵管一條ヲ布設スル設計ナリ故ニ本線路ハ給水區域ノ擴張ニ伴ヒ相當増設工事ヲ必要トス然レドモ給水人口漸次増加シ其不足ヲ感ズルニ至ルハ尙ホ十數年ノ後ナルベキニ依リ當分既定計劃ニ依リ給水シ追テ必要時期ニ達シタル曉ニ於テ既定線路ニ沿ヒ更ニ鐵管一條ヲ増スモノトス

沈澱池

既定計劃ニ於テ三池ヲ築造スル設計ニシテ人口四十六萬ニ對シ二日分以上ノ容積ヲ有ス故ニ人口五十六萬(既定計劃四十六萬人擴張計劃十萬人)ニ給水スルモノトスルモ尙ホ四十時間餘ノ水量アルヲ以テ増設工事ヲ施サザルモノトス

濾過池配水池及唧筒場

既定ノ計劃ハ何レモ人口四十六萬ニ給水スル設備ニ止マルヲ以テ區域擴張ト其ニ増設ノ必要アリ然レドモ鐵管水路ト同ジク其必要時期ハ拾數年ノ後ナルヲ以テ是レ亦當分ノ内ハ既定ノ計劃ニ依リ給水スルモノトシ他日必要ノ時期ニ於テ相當増設工事ヲ施スモノトス

配水工事

配水本管ハ尾頭町本管澤上本管ノ二條トシ尾頭町本管ハ二十吋ニシテ既定末廣町本管ノ末端ヨリ起リ附近ニ給水シツ、熱田中瀬町界ニ達シ十二吋十六吋ノ貳線ニ岐レ十貳吋管ハ南ニ神戸町附近ヲ給水シ十六吋ハ西シテ堀川ヲ越ヘ築地方面ニ給水ス又澤上本管ハ十六吋ニシテ既定大津町本管ノ末端ヨリ起リ附近ニ給水シツ、森後ニ至リ南ニ十貳吋管ヲ分岐シ傳馬町附近ニ給水シ本管ハ右折シテ尾頭町本管ニ連續ス各分岐管ハ漸次小管ニ分レ兩側ニ給水シ各管ノ末端ハ地勢ノ許ス限り互ニ相連續セシムルモノトス

配水管ノ延長左ノ如シ但異形管伸縮管其他制水瓣等ノ長サヲ含有セス

三吋管	六千八百三十一尺
四吋管	四萬五千七百二尺
六吋管	三萬一千三百五十六尺
八吋管	一萬一千四百七十五尺
十吋管	八千二百三十二尺
十二吋管	一萬四千五百三十二尺
十六吋管	一萬九千九百四十四尺
二十吋管	六千八百二十八尺
合計	拾四萬四千九百尺

配水管ハ渾テ既定計劃ト同ジク鑄鐵管ヲ用フ其口徑ノ計算ハ一人一日最多給水量ヲ六立方尺トナシ又火災ノ場合ニ處スル爲メ主ナル配水管ニハ一分間二百乃至百立方尺ヲ加ヘ尙將來管中附着物ノ爲メニ生スル摩擦抵抗ノ増加ニ對スル相當ノ餘裕ヲ見積リ之ヲ計算セリ制水瓣ハ配水管中ニ生ジタル故障ヲ修理センカ爲メ斷水ヲナストキ又ハ火災ニ當リ壓力不足スルトキ之レヲ他ヨリ補ハンガ爲メ配水管中

ノ要所ニ裝置ス其總數ハ二百個ナリ
 消火栓ハ適當ノ位置ヲ撰ミ總數百九十一個ヲ設置ス
 排氣瓣ハ鐵管内ノ空氣ヲ排除スル爲メ線路中ノ高所ニ設ク其數五個ナリ

既定本管ノ管徑變更

既定設計ニ係ル配水本管ノ内末廣町通り貳拾吋管ハ貳拾四吋ニ拾六吋及六吋管ハ二拾吋ニ又大津町通り十六吋管ハ二十吋ニ十二吋管ハ十六吋ニ變更シ當分ノ内此二線ヲ以テ擴張區域ニ給水ス而シテ他日増設工事ノ場合ニ於テハ特ニ配水池ヨリ専用水管一條ヲ布設シ本區域ニ給水スルモノトス

愛知縣名古屋市上水道布設費自明治四十四年度至同四十六年度繼續歲入出總計更正豫算

歲入

金五百七拾壹萬五千貳百貳拾四圓

歲入豫算總額

歲出

金五百七拾壹萬五千圓

歲出豫算總額

內譯

金五萬四千九百八拾五圓七拾八錢七厘
 金參萬七千參百七拾貳圓八拾九錢五厘
 金拾壹萬壹千九百貳拾六圓九拾七錢
 金七拾壹萬圓
 金貳百參十五萬七千圓
 金百八拾參萬參千圓
 金六拾貳萬七百拾四圓參拾四錢八厘
 差引金貳百貳拾四圓

名古屋市水道布設費 自明治四十四年度至同四十六年度 繼續歲入出總計豫算表

科	目	豫算額	附記
第一款	公債費受入金	五、七一五、〇〇〇・〇〇〇 ^四	
一、	國庫補助金	五七九、〇〇〇・〇〇〇	明治四十、四十一年度各貳萬九千圓同四十二、四十三年度各四萬圓同四十四年度十三萬七千圓四十五年度十三萬三千圓同四十六年度金十七萬一千圓
二、	受入金	五、一三六、〇〇〇・〇〇〇	
計		五、七一五、二二四、〇〇〇	

四十年 度 支 出 額
 四十一年 度 支 出 額
 四十二年 度 支 出 額
 四十三年 度 支 出 豫 算 額
 四十四年 度 支 出 豫 算 額
 四十五年 度 支 出 豫 算 額
 四十六年 度 支 出 豫 算 額

歲 入 過

科	目	豫算額	附記
第二款	雜收入	二二四、〇〇〇	
一、	諸雜收入	二二四、〇〇〇	
計		五、七一五、二二四、〇〇〇	
第一款	水道布設費	五、七一五、〇〇〇・〇〇〇 ^四	
第一項	給料	二一八、五〇〇・〇〇〇	
一、	所長以下給料	二二二、五〇〇・〇〇〇	
二、	使丁給料	六、〇〇〇・〇〇〇	
第二項	雜給	二四六、七九一・〇〇〇	
一、	旅費	六二、七六八・〇〇〇	
二、	給仕雇給	一、七一九・〇〇〇	
三、	雇人料	七八、七五六・〇〇〇	
四、	報酬及賞與手當	一〇三、五四八・〇〇〇	
第三項	需用費	三〇、九五六・〇〇〇	
一、	備品費	七、二〇〇・〇〇〇	
二、	消耗品費	七、七〇〇・〇〇〇	